



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	連携型中高一貫教育の実像 : 北海道上川町における中高一貫教育実践
Author(s)	横井, 敏郎; 朝田, 利恵; 石川, 俊文 他
Citation	公教育システム研究, 2, 1-134
Issue Date	2002-12
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/22063
Type	departmental bulletin paper
File Information	2_P1-134.pdf



連携型中高一貫教育の実像

——北海道上川町における中高一貫教育実践——

横井敏郎・朝田利恵・石川俊文・後藤美海子・
清水葉子・滝ヶ平真也・外山絵里子・中野恵

目 次

- 序 章 論議の前提と調査概要
- 第1章 上川町における中高一貫教育制度の導入
 - 1 北海道の中高一貫教育推進状況
 - 2 上川町における中高一貫教育制度導入のプロセス
- 第2章 上川中学校・上川高校の中高一貫教育実践
 - 1 上川町の中高一貫教育推進の組織
 - 2 中高教員間連携のあり方
 - 3 上川中学校・上川高校での教育実践
- 第3章 教員と住民の評価から見えるもの——ヒアリングから——
 - 1 中学校教員・高校教員の中高一貫評価
 - 2 地域住民の中高一貫教育評価
 - 3 まとめ
- 第4章 生徒と保護者の評価と意識傾向——アンケート分析から——
 - 1 上川高校1年生の設問別分析
 - 2 上川中学校3年生の設問別分析
 - 3 高校1年生・中学校3年生の意識傾向と評価
 - 4 上川高校1年生保護者の設問別分析
 - 5 上川中学校3年生保護者の設問別分析
 - 6 高校1年生保護者・中学校3年生保護者の意識傾向と評価
 - 7 アンケート分析のまとめ
- 終 章 連携型中高一貫教育のもたらしたもの
- 付 録 アンケート集計表・グラフ
 - ①上川町の中高一貫教育に関するアンケート 上川高校1年生
 - ②上川町の中高一貫教育に関するアンケート 中学校3年生
 - ③上川町の中高一貫教育に関するアンケート 上川高校1年生保護者
 - ④上川町の中高一貫教育に関するアンケート 中学校3年生保護者
 - 資料 上川町の中高一貫教育に関するアンケート調査へのご協力のお祝い文

序章 論議の前提と調査概要

中高一貫教育は、3年前から実施された新しい制度である。これについてはその積極的な意義やさまざまな課題の指摘がなされ、国民の関心も高い。しかし、そこでは制度の性格をめぐっての一般論的な発言や主張が多く、印象的なあるいは決めつけ的な議論もしばしば見られる。また、この制度を導入した学校の単なるカリキュラム紹介に類するものは多数書かれていても、この制度が新しいものであるせいもあって、その教育の実態はいかなるものか、どのような成果や課題が現場にもたらされているのかなどをきちんと実証的に分析したものはあまり見当たらない。そもそもこの制度を導入すべきかどうかという議論を行うこと自体は重要なことであつたし、制度導入後もこの制度の是非を本質論のレベルで論ずることを否定するべきでないが、制度が実施されてしまった現在、この制度がいかなる意味・機能をもつものかを実態レベルから検討することが求められている。本質論議も1度実証分析をくぐらせた上で行うことが必要である。

北海道では2002年度より上川町で初めて中高一貫教育制度が実施された。実施校は上川町立上川中学校と北海道立上川高校であり、連携型である。制度実施直後であり、上川町の中高一貫教育の成否を云々するには時期が早い。私たちは上のような問題関心の下に、同町の中高一貫教育の調査を試みた。1つの事例調査でしかないが、これを通じて、一般論ではなく、新たに始まった公立中高一貫教育、特にここでは連携型中高一貫教育の実態を明かにし、その実像を描いてみることを本稿の目的である。

1 中高一貫教育制度の導入

1998年、学校教育法が改正され、中高一貫教育校が認められた。翌1999年に、1994年から先行的に宮崎県で設置された中高一貫教育校を含めて公立3校、私立1校の計4校の中高一貫教育校が初めて設置された。その後次第に数を増やし、2002年度までに全国で公私合わせて73校の中高一貫教育校が設置されており、2003年度以降は46校の設置が予定されている(文部科学省HP)。

中高一貫教育については、1971年の中教審答申『今後における学校教育の総合的な拡充整備のための基本的施策について』(46答申)で6・3・3制を改革するために先導的に試行すべきとされ、1985年の臨教審『教育改革に関する第1次答申』でも6年制中等学校の設置提言がなされるなど、以前から制度導入の必要性をいう提案もあつたが、いずれも受験競争の低学年化を招くとして見送られてきた。

しかし、総合学科、単位制、総合選択制、学校間連携などを代表とする高校教育を多様化を推進する改革が1990年代に導入・実施され、その中で中高一貫教育が改めて浮上してきた。1997年の中教審答申『21世紀を展望した我が国の教育の在り方について(第2次答申)』で中高一貫教育の選択的導入が提言される。この提言を受け、1998年の学校教育法改正となるわけである。

文部省の『中高一貫教育Q&A』でその導入の理由は次のように述べられている。すなわち、総合学科や単位制高校の設置などの特色ある高校づくり、選択幅の広い教育課程の実施、高校入学者選抜の改善などの「中等教育を多様で柔軟なものにするための改革」をこ

れまで積極的に推進してきたが、「高校教育の学科、内容、履修方法等に関する改善措置にととまらず、学校制度として6年間を通じた異年齢の生徒が学校生活を送り、6年間の計画的・継続的な教育指導を行う仕組みを整え、より生徒の個性を伸ばす教育を展開し得るようにすることも必要と考えた」。つまり「中等教育を多様で柔軟なものにするための改革」を一層推進するために、高校教育の多様化だけでなく、中highのつなぎ方（従来は3・3）をも多様化することを目指して、中高一貫教育の導入が図られたのである。

2 中高一貫教育の利点と問題点

今回の中高一貫教育制度は、「選択的導入」という形で実施された。上の1997年中教審答申では、現行制度（3・3）にも多様な高校の中から自己にふさわしい学校を選択できる、中学・高校それぞれに多くの友達と交流できるなどの利点があり、現行制度と中高一貫教育の両者を選択できる柔軟な教育制度が望ましいとされている。また「選択的導入」は地方自治体や学校法人が「自らの創意工夫によって特色ある教育を展開する裁量の範囲を拡大することに資する」という効果もあるとされる。

しかし、かつての中高一貫教育制度案が、エリート養成のための複線型学校体系の復活案であり、受験競争の低年齢化を招くものであるとの批判を受けて導入見送りとなったように、高校入試廃止による全面的な中高一貫教育制度の導入ではないこの「選択的導入」も、受験競争の低年齢化やエリート養成教育の出現になりかねないという危険性があり、この問題に対処する必要がある。

同答申では、中高一貫教育の「利点」と「問題点」が併記されている。

「利点」としては、①入試がないのでゆとりある安定的な学校生活を送ることができる、②6年間の計画的・継続的な教育によって効果的な一貫した教育を行うことができる、③6年間の生徒の継続的把握によって生徒の個性伸長・才能発見を行うことができる、④生徒が異年齢集団の中で社会性や豊かな人間性を育むことができる、の4点が挙げられている。

「問題点」としては、①受験競争の低年齢化につながるおそれがある、②受験準備に偏した教育が行われるおそれがある、③小学校卒業段階での進路選択は困難である、④生徒の間に心身の発達の大きな差異があり、学校運営に困難をきたすおそれがある、⑤生徒集団が6年間にわたって固定することで学習環境になじめない生徒が生じるおそれがある、の5点が挙げられている。

このように同答申は一方向的に中高一貫教育をもちあげるのではなく、その問題点も併記し、特に受験競争に関わって、「入学者を定める方法」について公立の中高一貫教育校は学力試験を行わないことを求めている。この答申を受けて中高一貫教育制度の導入を図った学校教育法の改正に当たって、国会衆参ともに、「受験準備に偏した『受験エリート校』化など、偏差値による学校間格差を助長することのないように十分配慮すること」、「中高一貫教育を行う公立の学校では、入学者の決定に当たって学力試験を行わないこととし、…受験競争の低年齢化を招くことのないように十分配慮すること」という附帯決議が採択しており、「選択的導入」によっても中高一貫教育校が受験競争に乗り出すことのないようにいわば歯止めがかけられている。中高一貫教育制度の導入に当たっては、同制度のプラス面とマイナス面の両方を見極めた慎重な配慮が求められているといえる。

3 中高一貫教育批判論

利点と問題点の両面があるとされる中高一貫教育制度については、当然のことながらその導入をめぐる賛否両論がある。これを評価する意見は上の1997年中教審答申の「利点」を借りることとし、ここではその問題性を指摘する2つの代表的な見解を簡単に見ておくこととする。

中高一貫教育制度について非常に明確な批判を行っているのは藤田英典氏であろう。ここでは藤田氏の『教育改革——共生時代の学校づくり——』（岩波新書、1997年）の見解を見る。これは1997年中教審答申提出直後に出版されたもので、同答申批判をねらったものといえる。

藤田氏の批判は多いが、1つは教育上のメリット批判である。これは同上答申の4つの「利点」を批判したもので、それぞれに対して順に①中学選択・中学入試の問題が生じる、②中学校と高校のカリキュラムの重複は中高一貫教育制度を導入しなくてもなくせる（カリキュラムの重複排除はエリート主義が背後に潜んだ意見である）、③1度形成されたネガティブな関係や評価がずっと続く可能性がある、④12、3歳の子どもと17、8才の青年の発達水準・発達課題には落差が大きい、と批判する。藤田氏は上の「利点」が必ず実現する保障はなく、「弊害の方がはるかに大きい」という。

また少数の中高一貫教育校が導入された場合の問題点として、次の5点をあげる。①ゆとりと一貫性のある教育は一部の子どもにしか与えられず、大多数の子どもは今までと同様に高校入試の重圧から解放されない、②たとえ学力試験による入試を行わないとしても、特別の予算・施設・教員配置のもとで学校が作られ、生徒を広域募集・広域選抜すれば、教育熱心な親の選択行動によってエリート校が生まれる、③一貫校の評判がよければよいほど受験競争の低年齢化が生じる、④中等教育が複線化し、一貫校と非一貫校の制度的格差が生じる、⑤中学段階からの学校選択の自由を認めることになる、である。

同氏は、公立中高一貫教育校が推奨される理由を評して、「中等教育をゆとりある充実したものにするという教育的理由」は「独善的な理想主義」か「偽善的な建前論」でしかなく、「大学進学実績などの点で公立学校を私立の中高併設校に対抗できるようにしたい」という対抗的理由ないし「地域社会活性化の柱にしたい」といった地域的理由が本音という場合が少なくないという。ただし、中高一貫教育校がエリート校化すると批判しているところで、『「なんらかの困難を抱えた生徒を集めて理想の教育を追求する」というのではないかぎり」という言い方をしており、設置理念いかんではオールタナティブ・スクールとしての中高一貫教育校の可能性は否定していないように読み取れる。

次に、井深雄二氏の見解を『現代日本の教育改革——教育の私事化と公共性の再建——』（自治体研究社、2000年）に見る。同氏は、公立中高一貫教育の選択的導入は、「教育における平等原則を、…否定し、個性尊重の名の下に効率的なエリート教育（新しいエリート養成）の制度化を図るものである」と批判する。受験競争の弊害を説いた1993年14期中教審が中高一貫教育導入を躊躇したのに対し、1997年答申は同じく「過度な受験競争の緩和」を説きながら、この点（効率的なエリート教育）を「欺瞞的にクリア」しようとしており、「少なくとも都市部においては、選択的に導入される公立中高一貫校が、大学進学

に有利な地域のエリート校として出現し、その入学をめぐる受験競争の低年齢化を招くことはほとんど必至である」と断定している。

井深氏は、中等教育学校新設の特徴として次の 3 つをあげる。①中等教育学校は、「受験エリート」ではない真のエリート（新しいエリート）に対する経済界の強い期待を担って新設された、②選択の自由論を媒介にすることにより、中等教育の差別的編成（複線化）が学校制度原理のレベルで実現した、③中等教育学校の設立計画が地方自治体の判断に委ねられている、である。つまり、中等教育学校は、大競争時代の世界経済の中で経済大国日本を担い得る人材を育成することを目的とし、共通教育（普通教育）を根底から掘り崩す学校制度の差別的編成をもたらし、その設立は市場原理に委ねられて国民の教育要求をエリート教育に歪曲するものだという。ただし、同氏は、子ども、教職員、父母・住民のまっとうな教育要求を掘り起こし、これを学校、自治体レベルで組織化する「学校・地域からの教育改革」が現在求められており、6年制中等教育学校も、こうした学校・地域の主体的な取り組みによって「民主的な『先導的試行』の意義」を獲得し得るとも述べている。

両氏の中高一貫教育批判は全く同じ立場で行われているわけではないと思われるが、ここではその差異に注目するのではなく、両者を補完的なものとしてその批判を整理すれば次のようになる。①中等教育学校はもともとエリート育成という政策意図をもって新設されたものである、②受験競争から逃れてゆとりある充実した教育を実現できるという利点は問題点と表裏一体である、③学校制度の複線化を図るもので中等教育に制度的格差をもたらす、④選択的導入であるため中学校段階に学校選択と市場原理を導入するものである、⑤学力試験を行わないとしても中高一貫校は必ずエリート校化する、⑥ただし、設置理念の作り方や学校・地域の取り組み方によっては意義のある中高一貫教育校も生まれる可能性はある、の 6 点である。

4 本稿の視点

中高一貫教育校には周知のごとく 3 つのタイプがある。中等教育学校、併設型、連携型である。通常、連携型は就学を指定された中学校とその地域にある高校との連携であり中学校への入学試験はないのに対して、中等教育学校と併設型は中学校入学者を応募者の中から何らかの方法で決定＝選抜しなければならない。受験競争の低年齢化と受験準備に偏した教育が生じやすいのは中等教育学校と併設型であると一般に想定されている。藤田氏の著作は学校教育法改正前のものであり、周知の中高一貫教育の 3 つのタイプの分化が法制上明確になってはいない時期に書かれているが、同氏の批判的論述も主に少数の中高一貫教育校が設置された場合を想定して書かれている。井深氏の著作は大枠として公立中高一貫教育制度を問題としながらも、もっぱら中等教育学校に焦点を当てている。両氏の上の批判は主にある地域の中で少数の中等教育学校あるいは併設型が設置された場合のものと考えてよい。

これに対して、実際に 2002 年度までに設置された公立の中高一貫教育校 50 校のうち 38 校が連携型であり、公立中高一貫教育校を中等教育学校と併設型で塗りつぶすわけにもいかない。また、連携型が主に人口の少ない農村部、過疎地で設置されてきている点も注

意すべきである。これは中高一貫教育校設置の社会的文脈が大きく異なっていることを表している。多数の中学校と高校が設置されている都市部に1つないし2つの中等教育学校あるいは併設型が設置された場合にその学校でどのような教育が実施され、地域社会に何がもたらされるかを検討する必要も当然あるが、それと同時に地方で連携型がどのような教育を実施し、それが地域社会に何をもたらしているかを検討することも重要な実践的研究課題となっているといえる。

中高一貫教育の評価は、少なくとも藤田、井深両氏のいう上の6点の検証を行うことぬきにはなしえない。もっとも、中高一貫教育の「実像」を探るといふ本稿の問題意識からすれば、①の政策意図の検証は免除されるであろう。③、④、⑤はほぼ同義と見なし、中高一貫校がエリート校化、進学校化しているか否かを検証課題とすればよかろう。したがって、②、⑤、⑥の視点を念頭に置きながら、中高一貫教育の実態を調査することが本稿の課題となる。ただ、その際に、中高一貫教育一般ではなく、エリート教育や受験競争の拡大から距離があり、設置の社会的文脈が異なる連携型がいかなる実態にあり、その意義や課題は何であるかを明かにすることが本稿の目的である。

5 調査概要

調査経過を以下に掲げる。

<ヒアリング調査>

1) 2002年6月7日

- ①上川高校 校長・教頭
- ②上川中学校 教頭
- ③上川町教育委員会 教育長・学校管理課長

2) 2002年6月24日

- ④北海道教育庁企画総務部教育政策室
高校改革推進係長・同係主事

3) 2002年7月12日

- ⑤上川町議会議長
- ⑥上川町長
- ⑦上川中学校教諭 2名
- ⑧上川高校教諭 4名
- ⑨上川町住民 5名 (上川高校PTA会長・上川中学校PTA会長・上川小学校PTA会長・上川町商工会会長・観光協会専務理事)

<アンケート調査>

2002年8月23日回収(上川高校・上川中学校・上川町教育委員会との共同実施)

- ①上川町の中高一貫教育に関するアンケート 高校1年生
- ②上川町の中高一貫教育に関するアンケート 中学校3年生
- ③上川町の中高一貫教育に関するアンケート 高校1年生保護者
- ④上川町の中高一貫教育に関するアンケート 中学校3年生保護者

第1章 上川町における中高一貫教育制度の導入

1 北海道の中高一貫教育推進状況

(1) 北海道教育委員会における推進計画

①中高一貫教育推進計画立案の開始

北海道では、1997年7月北海道教育庁内に「中高一貫教育検討委員会」が設置され、本道における中高一貫教育の在り方について検討が開始された。

1998年度からは2ヵ年にわたり3地域6校を指定して中高一貫教育に係る実践的研究を行うとともに、道民各層の意見を幅広く聴取し多角的に検討する必要があることから、1998年度から1999年度にかけて、各教育局ごとに全道14管内において地域別フォーラムを開催し、父母や教育関係者、市町村行政関係者、地域産業界代表者等の参加を得て、パネルディスカッションや分科会などを実施した。

また、1998年9月、道教委によって外部有識者からなる「中高一貫教育研究会議（教育計画推進会議高校教育専門部会）」が設置され、14回にわたって、中高一貫教育導入の意義、他県等の現状と課題、設置形態、課題と対応策、本道における中高一貫教育の在り方・導入等について検討されている。

2000年3月、道教委の有識者会議である「教育計画推進会議」は、『中長期の展望に立った高校配置の在り方（報告）』が提出し、北海道における中高一貫教育導入の必要性について提案した。

この報告書の要点は以下の通りである。

- ・本道における中高一貫教育は、受験準備に偏った教育や受験競争の低年齢化につながらないように配慮しながら、比較的導入しやすいと考えられる連携型の早期導入が必要であり、併設型・中等教育学校の導入には十分な議論の後検討することが望まれること
- ・連携型の中高一貫教育は、本道の郡部において学校と地域の検討状況を踏まえながら順次導入していく必要があるとし、導入に当たっては、簡便な入試方法、地域の実態に応じた特色ある連携教育の内容の設定、中学校での適切な進路指導等を検討すること
- ・併設型の中高一貫教育では、市町村立の高校を設置し、中学校との連携教育に取り組んでいる市町村において議論を尽くし導入を検討することが望ましいこと
- ・一体型の中等教育学校では、複数の中学校と高等学校が存在する地域に設置することが望ましく、導入に当たっては、連携型や併設型の成果を見ながら、慎重に検討する必要がある

②『公立高等学校配置の基本指針と見通し』

道教委はこれらの研究や報告を踏まえて、2000年6月には『公立高等学校配置の基本指針と見通し』を策定し、本道の地域特性に見合った中高一貫教育の導入について、その基本的な考えを示した。その中で今後の理念・進め方としては、中高一貫教育は、ゆとりある学校生活の中で、計画的・継続的な教育指導を展開し、生徒の個性や創造性を伸ばすことや、子どもたちや保護者の選択幅を拡大するなどの観点、さらには、地域との結び付きが強まることが期待できることから、本道の広域性や地域性に配慮した導入を進めるとしている。

この『公立高等学校配置の基本指針と見通し』では、中高一貫教育校の個々の形態については、次のように述べている。

-
- 連携型は、6年間を見通した教育活動や異年齢間生徒、教員間の交流が促進されるほか、地域との結び付きが強化されることも期待される
 - ・導入地域については、地元の高校へ進学する割合が高く、近隣の市町村との間で生徒の出入りが比較的少ない郡部で、中学校と高校の間で連携した教育実践が進められている地域を基本とする
 - ・導入時期については、平成14年度を目途とし、その後、中高の連携状況や生徒の進路実態、地域の実情などを踏まえながら順次進める
 - ・教育内容については、地域の実情に応じた教育内容を基に連携の柱を設定し、特色ある教育を行うとともに、魅力ある学校づくりに努める
 - ・選抜方法については、連携する高校へ進む際、例えば面接や作文、中学校での課題学習の成果などによる簡便な方法を具体的に検討する
 - 併設型については、6年間の計画的・継続的な教育指導が展開でき、効果的な一貫教育が可能となることから、高校を設置している市町村での導入を促進する。導入時期、教育内容、入学者の決定、通学区域などについては、市町村において検討されることであるが、入学者の決定方法については、面接・実技・推薦・抽選などの方法を適切に組み合わせ、受験競争の低年齢化につながらない方法を検討する必要がある
 - 中等教育学校については、生徒の学校選択の幅を広げる観点から、教育長期総合計画の後期実施計画期間内において、連携型の実践を踏まえ、モデルとなる学校を設置できるよう検討するとともに、市町村での設置を促進する。教育内容や入学者の決定、通学区域などについては、受験競争の低年齢化につながらないように留意しながら今後具体的に検討する

なお、これは教育長期総合計画に基づく2007年までの見通しである。

③中高一貫教育研究会誌『本道における中高一貫教育の在り方について』

「中高一貫教育研究会誌」は、2000年10月、中高一貫教育に係る3年間の検討状況を最終的にまとめた『本道における中高一貫教育の在り方について——本道の広域性、地域特性に配慮した中高一貫教育の在り方について——』という報告書を提出した。その中では、公立学校における中高一貫教育の選択的導入は、現在中等教育の学校体系を見直すものであり、中等教育全体の多様化・複線化、さらには学校制度の複線化構造を進める一環として、極めて重要な意義を持っているとしている。また、中高一貫教育においては、6年間にわたる計画的・継続的な教育を行うことができるため、生徒の個性の伸長や新たな才能の発見が容易になること、ゆとりのある安定的な学校生活の中で豊かな学習が一層可能になること、異年齢集団による活動を通して社会性や豊かな人間性の育成が今まで以上に期待できることなどの利点があることを上げている。

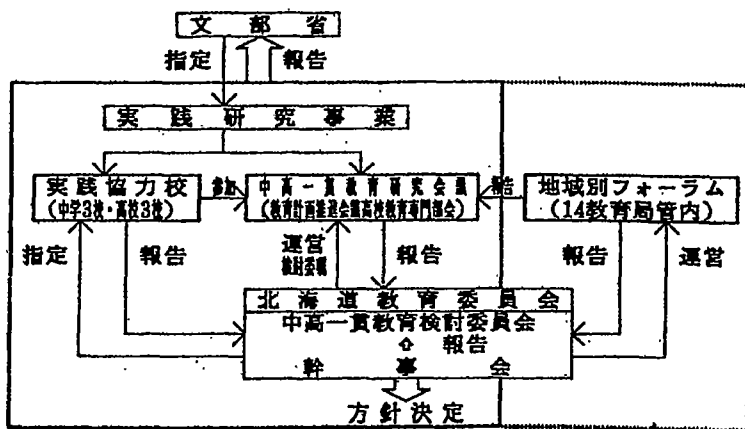
また、2002年10月には、同年度より上川町で中高一貫教育が導入されたので、文部科学省と道教委では、他地域における導入の機運を盛り上げ、また導入を検討している地域・学校に中高一貫教育の制度と実践をより深く知ってもらうために、北海道東北ブロックのフ中高一貫教育推進フォーラムを札幌で開催し、普及啓発活動を行なった。

2002年6月に私たちが行なった北海道教育庁教育政策室ヒアリング調査の中では、北海

道全体では、『公立高等学校配置の基本指針と見直し』に基づいて、連携型については郡部を中心に地域の実情を踏まえながら順次導入していくということであった。中等教育学校については、2007年までには受験準備に偏したエリート校にならないよう6年間のスパンの中での特色ある教育を重点に置いた、モデル的な学校を作ることができるよう検討中とのことであった。

この間の北海道における中高一貫教育推進事業の組織図を以下に掲げた（図 1-1、出所『本道における中高一貫教育の在り方について』）。

図 1-1 北海道の中高一貫教育推進事業組織図



④道教委の中高一貫教育校への評価と期待

2002年6月に行なった北海道教育庁教育政策室ヒアリング調査の中では、過疎化の進む郡部の小規模な学校では、少子化で生徒数が減少すると、部活動の縮小や教員数の減少の可能性もあり、学校活力の低下も懸念されるが、一貫化すれば学校行事等も中学校と高校が協力してやることができ、学校活力の維持につながっていくのではないかと期待されていた。また、小規模な一貫校では教職員の数が限られているのでなかなか難しいが、今までにない中学校と高校の教師が協力して教えるというものも基礎学力の向上につながることで、連携しないよりは、多様に、各教師の得意な分野で教えられるので、少しは広がりが出てくる、と期待されていた。

(2) 中高一貫教育実践協力校（推進校）の状況

①中高一貫教育実践協力校（1998年度）

北海道では、本道の広域性や地域特性に見合った中高一貫教育の在り方について研究するため、国の中高一貫教育実践協力事業の委託を受ける形で、1998年度から中高一貫教育実践協力校としてまず3地域から中学校、高等学校を併せて6校指定し、1999年度までの2年間にわたり実践的な研究を行なった。

1998年度 中高一貫教育実践協力校と研究テーマ

- | | | | |
|------|-------|--------|--------------------------|
| ○上川町 | 上川中学校 | 上川高等学校 | 地域の実態に応じた中学校と高等学校の連携の在り方 |
| ○清里町 | 清里中学校 | 清里高等学校 | 地域の実態に応じた中学校と高等学校の連携の在り方 |
| ○天塩町 | 天塩中学校 | 天塩高等学校 | 中高連携による学習指導等の在り方 |

いずれの学校も中学校は町立、高等学校は道立であるが、2年間にわたる実践の成果と課題の主なものとして以下があげられている(『本道における中高一貫教育の在り方について』より)。

- ・成果——教員相互の指導方法を学びあう良い機会となるとともに、生徒にとっても良い刺激となり、生き生きと学習に取り組む姿が見られたこと。教科の系統性や指導の重複、中高の生徒がつまづきやすい点などについての理解が深まり、指導内容の精選や、より丁寧な授業ができるようになったこと。出前授業やTTは授業者の専門性を生かすとともに、生徒に親近感や新鮮さを印象付けることができ、非常に有効であったこと。日頃の連携で互いの垣根が低くなってきており、生徒指導面でも連携を密にした指導ができるようになってきていること。町の子どもを共に育てていこうとする雰囲気が出てきていることなどがあげられている。
- ・課題——6年間を通してどのような生徒を育てるかという、地域としての中高一貫教育の理念の構築が必要であること。教育課程における連携の在り方や、中高の接続(入学選抜)の在り方の検討が必要であること。中高の授業研究や諸行事における日程調整、会場調整等の業務の煩雑さがあること。学校行事や日常業務の精選が必要であること

上川町の1998・99年度の実践研究の成果と課題については下の資料1-1を参照された(出所 『本道における中高一貫教育の在り方について』)。

②中高一貫教育推進校(2000年度以降)

2000年度からは上川中学校・上川高等学校の2校が継続して実践研究に取り組んだが、他の2地域4校は中高一貫教育実践協力校を終了し、新たに2地域4校が推進校として指定され、実践研究に取り組んでいた。なお制度が変わり、中高一貫教育実践協力校は中高一貫教育推進校と名称換えが行われた。

2000年度 中高一貫教育推進校と研究テーマ

- 上川町 上川中学校 上川高等学校(継続)
地域の実態に応じた中学校と高等学校の連携のあり方
- 長万部町 長万部中学校 長万部高等学校
地域に根ざした中学校と高等学校の連携の在り方
- 上ノ国町 上ノ国中学校 上ノ国高等学校
中高一貫による教科交流及び郷土研究

2001年度は、先の3地域6校が継続して実践研究に取り組み、新たに1地域2校が加わった。

2001年度 中高一貫教育推進校

- 上川町 上川中学校 上川高等学校(継続)
- 長万部町 長万部中学校 長万部高等学校(継続)
- 上ノ国町 上ノ国中学校 上ノ国高等学校(継続)
- 鶴川町 鶴川中学校 鶴川高等学校

2002年度からは、上川中学校・上川高等学校に連携型の中高一貫教育の導入が決まり、2地域4校が継続、1地域2校が中高一貫教育推進校を終了し、新たに2地域5校が推進校として指定され、実践研究に取り組んでいる。

2002年度 連携型中高一貫教育の導入

○上川町 上川中学校 上川高等学校

2002年度 中高一貫教育推進校

○上ノ国町 上ノ国中学校 上ノ国高等学校 (継続)

○鶴川町 鶴川中学校 鶴川高等学校 (継続)

○鹿追町 鹿追中学校 瓜幕中学校 鹿追高等学校

○えりも町 えりも中学校 えりも高等学校

資料 1-1 上川中学校・上川高校における実践研究報告書

○生徒数は平成11年度の数字。

地域の特色	大雪山の自然に抱かれ、農業、林業及び層雲峡地域を背景に観光の町として発展。また、鉄道や国道などの交通の要所としての役割も果たす。人口約6,000人。	
上川中学	2間口 生徒数151名	上川高校 2間口 生徒数142名
研究課題 研究内容	地域の実態に応じた中学校と高等学校の連携の在り方について ①学習指導の在り方 ②進路指導の在り方 ③特別活動の連携 ④職員合同研修会	
項目	実 践 事 項	成 果 と 課 題
学 習 指 導	①授業参観及び教科の研究会 ②資格取得検定合同実施 (数学、英語、漢字検定) ③ティーム・テーチング(TT) (地歴・公民、保健体育)	○相互の指導方法を学ぶよい機会になるとともに、中高の指導内容の重複について理解が深まり、精選が可能になった。 ○検定の合同実施は、生徒の意欲面でも単独実施の条件を満たす面でも有効である。 ○交流が深まり、互いの理解が進み、TTにまで発展。TTは双方の生徒に親近感や新鮮さを印象づけ効果的であった。 △準備日程の確保、業務日程の精選、時間的余裕の必要性など。 △教育課程における一層の連携の必要性。
進 路 指 導	①職業講話合同実施 ②上川高校体験入学 ③高校からの説明会	○交流が進んだため、体験入学、説明会など今まで以上に理解が深化した。 △発達段階に応じた進路指導の一層の工夫。
特 別 活 動 等	①部活動の連携 各種部活動の合同実施等 ②合同ボランティア活動	○小規模校の部活動活性化に大きな効果がある。特に中学生にとって、学ぶものが大きい。 ○異年齢の集団による良い効果がある。 △練習時間や場所の調整、引率の扱い等。
そ の 他	①生徒指導等の情報交換会 ②校内分掌ごとの交流会 ③教員の交流会	○高校入学時の情報、入学後の成長等がよく分かり効果的である。 ○教員間の交流が深まり、相互の教育活動に関する理解が深まった。 △中高の教育課程における接続の在り方。 △連携型中高一貫校としての学校像の確立。 △PTA活動や地域組織との一層の連携。

○主な成果 △主な課題

③研究校指定辞退の理由

道教育庁教育政策室へのヒアリング調査では、中高一貫教育導入へは、2年目、3年目と研究の進んでいる地域に期待ができるが、地域の実情を踏まえながら順次導入を図っていきたいということであった。研究校指定を受けるときは、まず設置者の道教委と市町村教委が了解し、それに加えて学校現場が了解した時点で申請するという手順になる。今後新たに研究指定校を増やすことについては、国の事業なのでその予算にもよるが、やりたいという地域で一定の条件を満たしていれば、国に申請していくことを考えているとのことであった。

これまでに天塩・清里・長万部の3地域は研究校指定を辞退し終わらせている。私たちが長万部高校に問い合わせたところによると、「教育方針、カリキュラム、進路指導、行事等の連携作業に必要なエネルギーは看過できないもの」があり、中高一貫教育の導入を辞退したということであった。その他の地域についても、一貫校化への労力の負担が足かせとなったり、ある程度研究して時期尚早という結果を出したためと推測される。人事・予算の面で連携型はそれほど大きなメリットがあるとはいえ、体制上の困難が連携型中高一貫教育導入を難しくしていると予想される。

では、あらためて行政から学校に対してどのような支援が行われているかを見よう。

(3) 中高一貫教育実施に対する道・国及び町(上川町)からの支援について

①国の取組みについて

国からの中高一貫教育の導入推進および導入後の支援策はおおよそ次の通りである。

○財政面

- ・推進校に対して――「中高一貫教育実践研究事業」において、先進地視察、研究協議会等の出席に要する経費を措置するとともに、中学校・高等学校に教員1名を加配。
- ・導入校（上川中学校・上川高校）に対して――上記の教員加配がなくなるが、高校に対しては高校標準法において（明記はされていないが、第6次定数改善計画の一環として）教員1名を加配。また「中高一貫教育開発指定校事業」において中学校に教員1名、高校に事務職員1名を加配（ただし事務職員は上川高校の場合2002年11月から配置されている）。
- ・「中高一貫教育実践研究事業」、「中高一貫教育開発指定校事業」については、都道府県の事業計画を基に、予算措置及び定数措置をしているが、概ね道の希望どおり措置されている。また、国としては直接都道府県に学校を指定することはない。

○普及啓発活動

- ・「中高一貫教育推進フォーラム」――各都道府県の中高一貫教育関係者（行政・学校等）を対象に全国6会場で開催し、有識者による講演、研究協議会等を実施。
- ・「中高一貫教育推進研究協議会」――各都道府県の中高一貫教育関係者（行政・学校等）を対象に開催し、事例発表等を通して先導的な事例を紹介。

②道の支援について

道からの中高一貫教育の導入推進および導入後の支援策はおおよそ次の通りである。

○財政面

- ・推進校に対して――「未来をつくる高校教育推進費」において、先進地視察、教育課程の研究、

中高連携活動等に要する経費を措置。

- ・導入校（上川高校）に対して——「連携型中高一貫教育推進措置」において、中学校との一貫性に配慮した特色ある教育活動の展開に要する経費（具体的には、中高合同実験・実習の備品や高校の取組みを中学校に紹介するための経費）を措置。

○人事面

- ・推進校等の管理職には、行政経験者など高校教育改革に精通している人材を登用する。

○その他

- ・道教育庁担当課や管轄の教育局から、随時、効果的な中高連携策や教育課程の編成等に対する指導・助言を行う。

③上川町の支援について

上川町からの上川中学校と上川高校に対する支援策はおおよそ次の通りである。

○財政面

- ・「上川町中高一貫教育」経費——上川中学校と上川高校に対して支出されている。国、道の補助経費を当てることのできない部分の経費に使用され、主に旅費、教材消耗品・報告等印刷費に当てられている。
- ・上川高校に通う生徒に対して——通学費と下宿費の補助をしている。年度ごとの該当人数と総額は、平成9年度24人4,318,000円、平成10年度41人6,999,000円、平成11年度49人8,358,000円、平成12年度53人6,890,000円、平成13年度43人6,736,000円であった。

④上川高校から見た財政支援

上川高校へのヒアリングの際に提供された予算資料から、上川高校に補助されている主な財政支援を整理すると下の表1-1のようになる。

道教委からの「連携型中高一貫教育」事業費は主に中高合同授業のためのバス代やカラーレーザープリンター購入に当てられている。「小規模校の活性化」事業費は小規模校が特色を出せるように道教委によって予算化されたもので、全道6000万円ぐらいの規模で100校程度に割り当てられている。上川高校ではこれを利用して深川市にある拓殖大学北海道短期大学と高大連携教育事業を行っている。

文部科学省からの「地球学習観測プログラム」事業費は同プログラム（後述）のための旅費や教材費等に使用される。「中高一貫教育開発指定校」事業費は国での会議への出席のための旅費に使用される。

上川町からの「上川町中高一貫教育」事業費は、中学校と高校に分割し配当される（使用項目は上述）。上川高校へのヒアリングでは、上川町は厳しい財政状況の中、「よく300万円もの費用を出してくれた」という感謝の言葉が聞かれた。

表1-1 中高一貫教育に係る上川高校への財政支援と予算額（2002年度） 単位：円

事業名	連携型中高一貫教育	小規模校の活性化(アウトドア教育の活性化と高大連携活動の推進)	上川町中高一貫教育	地球学習観測プログラム	中高一貫教育開発指定校
予算総額 7,553,000	2,877,000	700,000	3,000,000	346,000	630,000
配当元	北海道教育委員会	北海道教育委員会	上川町	文部科学省	文部科学省

(4) まとめとして

道教委の中高一貫教育推進・導入の姿勢は、本道の広域性・地域特性見合った中高一貫教育、特に過疎・少子化問題を抱える郡部の小規模校に比較的導入しやすい連携型中高一貫教育を、地域の実情を踏まえながら順次導入していくというものであった。これには、すでに触れたように、限られた教員数の中で中学校と高校の教師が互いに協力して教えることによって、多様な個性を持った子どもたち（少数ではあるかもしれないが）に、少しでも豊かで多様な教育ができるのではないかという期待が込められていた。

しかし、現場である上川町では、教育条件上の課題として次のようなことがあげられていた。

まず第1に、教員人事の継続性である。上川町の中高一貫教育の実施における中心的な教員が異動でいなくなることで、中高一貫教育自体の継続的発展が難しくなるのではないかという問題が地域では危惧されていた。教育長は、「先生が継続しないと無理だと思うんですね。1年1年携わる先生が代わっていくと中高一貫教育が継続しないのでは、と思っています」という。

この問題は現場でも意識されていた。上川高校教頭は、「中心になってがんばっている先生が抜けたら、当然継続というのは難しくなる」、上川町で中高一貫教育が2002年より実施できたのも「今の校長は道教委で中高一貫教育の方を担当していたから、他の県のいろんなことがわかっていて、だから上川で北海道初めての中高一貫教育を実現できたが、中高一貫教育を全然知らない校長先生が来られていたらこんなふうには動いていなかった」、というように、中高一貫教育を発展させていくために教員および管理職の人事の重要性を述べていた。

第2に、しかし継続すべきは教員・管理職だけでなく、行政の継続が必要だという考え方も現場にはある。上川高校校長は、自分たち教員はしよせん「転勤族」でしかなく、「本当に責任をもってやるのはやっぱり町の人だ。町の人に関心をもって、若い人も関心をもってほしい」と言っている。教員・管理職の在任期間を多少延ばしてもいつかは異動するわけで、中高一貫教育の成功のためには町教委の継続的な支援・援助が必要であろう（ただ同校長は、たとえば新聞社が取材で高校に来て町教委職員が駆けつけて来ないなどということに町・町教委の関心の薄さをやや感じている）。町教委自体もヒアリング調査では「行政の継続性」が必要だと述べていた。

第3に、教員の加配の問題である。推進校の時には、「中高一貫教育実践研究事業」によって中高ともに加配が1名ずつあるのに、連携型中高一貫教育校に本指定されるとこの加配が消える。高校は標準法によって加配が継続されるが、中学校では自動的に研究開発指定校になることで加配がなされている。町教委はこれを制度化してほしい、「推進校では加配が1名だったのであれば、本指定になれば2名の加配があってもおかしくないのではないか」と言っていた。これにかかわって、町教委に町費負担で中学校に町職員を1名置くことはできないかとヒアリング調査で聞いたが、財政的な負担の問題からそれは非常に厳しいという答が返ってきた。ただし、教育長は「時間講師という形で選択の授業に町の役場の人が先生の代わりをする（部活などで4、5時から）というようなことを実践したい」という考えをもっているようである。

第4には、カリキュラム統合ができないという連携型の限界である。現在、総合的な学

習の時間などでは合同授業をやっているが、それ以上は難しい。カリキュラム上の特例が認められていない連携型では、中高一貫教育を充実させていこうにもカリキュラム上の壁があり、隔靴搔痒の面がある。この限界を考えると、「将来的には中等教育学校か併設型を目指すことになっていくのではないか」（上川中学校教頭）という将来展望が語られるのも理解できる。

連携型という現在の制度では、中等教育学校や併設型の中高一貫教育よりも教員の加配数が少ない、カリキュラム上の接続が難しい、人事異動の配慮が必要であるなど、まだまだ検討していかなければならない問題が残っている。先に見てきたように、本道でもすでに何校か中高一貫教育実践協力校（推進校）を辞退している地域が出ていることからわかるように、予算や人事面での制度整備が大きな課題であるといえるだろう。一般教員人事の配慮（継続性と中・高両方の教員免許を持つ教師の配置など）や、数年で代わってしまう管理職の人事の特例、教職員の加配などが、これから考えていかなければならない課題といえよう。

2 上川町における中高一貫教育制度導入の経緯

この節では、上川町において上川中学校・上川高校に中高一貫教育が導入されるまでの経緯について述べる。

（1）上川町の特徴

上川町は、北海道のほぼ中央部、石狩川の源流に位置し、大雪山の裾野に広がる自然豊かな町である。面積は 1055 ㎏で全国市町村の第 8 位、香川県の 3 分の 2 に匹敵する。人口密度は 1 ㎏当たり 4.89 人で全道でも最も低い市町村の 1 つである（全道平均は 72.60 人）。昭和 30 年代に洞爺丸台風による多くの倒木を処理するために町内に二つの営林署ができ、人口は 15,000 人を超えたが、現在は 5,200 人を割りこんでいる。町の産業は観光のほか、米を中心とする農業と牧畜業、養殖業、林業などが主要なものである。層雲峡温泉は道内でも有数の観光地であり、年間約 300 万人の観光客が訪れている。町の東側は大雪山系を擁し、西側は道内第 2 の都市である旭川市と一部隣接している。市内中心部からは旭川市への通学が可能であるが、市内東部の層雲峡からは旭川市への通学は困難である。

（2）学校の概要

上川町には 3 つの小学校（上川小学校・東雲小学校・層雲峡小学校）と上川中学校、それに道立北海道上川高校がある。上川高校は上川町と隣町の愛別町の 2 町からなる上川第 2 学区にある。同学区には他に道立北海道愛別高校（普通科 1 学年 1 学級）があるのみである。愛別町唯一の愛別中学校の卒業生が上川高校に来ることはなく、愛別高校に進学しなければ旭川市の高校に進学する。

以下、上川中学校と上川高校の概要について述べる。

①上川中学校

i) 生徒数の推移

近年の上川中学校の生徒数の推移は表 1.2 の通りである。上川中学校は 1 学年 1 学級で、少子化により中卒者数も毎年減少してきている。なお、中学校入学者数は今後もほぼ 30 名台で推移していくと予想されている。

表 1-2 上川中学校生徒数の推移 単位：人

	1999年 度	2000年 度	2001年 度	2002年 度
1年生	43	39	36	36
2年生	55	45	36	36
3年生	53	55	42	36
合計	151	139	114	108
学級数	6	5	4	3

ii) 卒業生数と進路

近年の上川中学校の卒業生数とその進路は表 1-3 の通りである。就職者はなく、上川高校への進学率はだいたい毎年 5~6 割程度、残りが旭川を中心に学区外の高校に進学している。高校の地元中学校からの進学率についての道教委の話によると、上川のこの数字は比較的高い割合ということである。上川高校校長は、今後は上川中学校からの進学者数の目標を 7 割にまで高めたいというが、上川中学校の生徒数が 30 名台であり、その絶対数が非常に少ない状況のもとでは上川中学校からの上川高校への入学者数は低位に止まらざるを得ない状況である。なお上川中学校から愛別高校への進学者はいない。

表 1-3 上川中学校卒業生数と進路 単位：人

	1996年度	1997年度	1998年度	1999年度	2000年度	2001年度
上川高校	45	32	31	29	30	26
他の高校	14	21	14	25	23	16
就職等	0	0	0	0	0	0
合計	59	53	45	54	53	42
上川高校への進学率	76.3%	60.4%	68.9%	53.7%	56.6%	61.9%

②上川高校

i) 入学者数の推移

上川高校の入学者数と学区内入学者数（すなわち上川中学校出身者数）とその比率は表 1-4 の通りである。同高は 1 学年 2 学級の普通高校であるが、2002 年度の入学者数は 40 名を下回っており、「特例 2 間口」（入学者が 40 人を切っても 30 人以上であれば 2 学級を認めるという制度）の適用によって 2 学級を維持している。

学区内入学者数が減少しているのにその割合が平成 14 年度に 76.5% に跳ね上がったというのは学区外入学者数が減少したからである。上川高校校長によると、中高一貫教育を同年度から導入するということが旭川市等の中学校にアピールしたところ、その充実した教育がむしろ敬遠されて、従来いわゆる玉突き現象で旭川から押し出されて同校に入学していたような生徒が来なくなったということである。それを示す例として 2002 年度はけが・病気など以外の理由で保健室に行く生徒がほとんどなくなったということである。中高一貫教育によって充実した教育を実現しようとしたことが学区外からの入学者を減らすという逆説的な状況が生じている。

表 1-4 上川高校入学者数の推移 単位：人

	1996年度	1997年度	1998年度	1999年度	2000年度	2001年度	2002年度
入学者数	33	51	52	47	46	50	34
学区内入学者数	33	45	33	32	30	29	26
学区内入学者の割合	100.0%	88.2%	63.5%	68.1%	65.2%	58.0%	76.5%

ii) 卒業者の進路状況

上川高校の卒業生数とその進路状況は表 1-5 の通りである。大学進学者数が 10 名弱、専門学校進学者数が就職その他とほぼ同数と、全体のおよそ 3 分の 2 の生徒が進学している。地元中学校からの進学率が高い学校ではあるが、大学・専門学校への進学率が比較的高い方であると思われる。進学要求に対応する教育が求められているといえる。

表 1-5 卒業者の進路状況 単位：人

		2000 度			2001 度		
		男	女	計	男	女	計
進学者	大学	6	0	6	7	1	8
	短期大学	0	2	2	0	2	2
	専門学校	3	13	16	8	6	14
	小計	9	15	24	15	9	24
就職・その他	就職者	3	6	9	4	1	5
	その他・自営	3	5	8	6	3	9
	小計	6	11	17	10	4	14
合計		15	26	41	25	13	38

(3) 導入のプロセス

以下では上川町での中高一貫教育導入の経緯、プロセスを見てみたい。詳しい導入プロセスについては、後掲の表 1-6 経過年表を参照されたい。

① 実践協力校指定

1998 年、学校教育法が改正され、中高一貫教育の導入が認められた。また、2000 年 1 月には中高一貫教育推進会議によって『中高一貫教育の推進について——500 校の設置に向けて』が報告され、その方針を受けた道教委は道内にも中高一貫教育校を導入しようと乗り出すこととなった。

上川高校と上川中学校は、1998 年 9 月、中高一貫教育の実践協力校指定校の打診を道教委から受け、中学校・高校間の協議の結果、同年 12 月に 1998 年度協力校として指定を受け、実践が開始された。その後、道教委は上川高校、中学校に対して数回にわたり指導・助言を行ってきた。

② 上川町教委の動き

道教委は上川中学校の設置者である町教委に中高一貫教育実践協力校の引き受けの打診をしてきたのだが、町教委はむしろ道教委が中学校に直接に研究校指定を行ったというような認識をもっており、当初は積極的な関わりは持たなかった（教育長ヒアリング）。2000 年に上川町教委の教育長が交替し、新しい教育長が就任した。新教育長は中高一貫教育制度について特別な意識をもっていなかったが、上川中学校が実践協力校の指定を受けていることから本格的に検討を始めることとした。検討と学校での実践の進行の中で、今まで同じ町の中にも十分な面識がなかった中学校と高校の教員の交流が生まれるようになり、子どもたちを 6 年間通して指導する可能性とメリットが見えてきた。学校側は本指定を受ける考えは持っていなかったが、町教委は上の教育的メリット、そして町の活性化のためには高校の存続が必要であることなどから本格的に導入にむけて乗り出すこととなった。町教委は 2000 年 8 月の三重県立飯南高等学校への視察訪問など積極的に研究を進め

た。また町教委は中高一貫教育連絡会議に職員を出席させてはいたものの当初は学校に任せきりだったが、学校との積極的な意見交換をもつようになった。同年12月には、2001年度の推進校指定を希望するかどうかという点で学校側と町教委側の認識が一致し、推進校指定を受けることとなった。

③上川中学校の状況

中学校の受け止め方は、1998年の実践協力校指定に際してはとまどいが大きかったようである。教員の間に特に大きな反対の声は出なかったということであるが、新しいことを始めることへの不安感や、オーバーワークになるのでは、という心配がやはりあった。それでも、「普段着で、無理のないように、できることから…」という気持ちで始めていった（上川中学校 A 先生）。中学校は、当初町教委が本気で取り組むつもりがあるかどうか分からず、中高一貫教育校の本指定を受けることを想定して実践協力を行ったわけではなかったが、2000年6月ごろから町教委が意欲的になり始めた。また研究を進めていくうちに、中高一貫だからと構えずに、「自分たちのやっていることは中高一貫教育のためにやっているのではなく、最終的にはうちの子供たちを変容させる、夢を実現させるためにやっている」（中学校教頭）という認識が教員の間に生まれていき、同校は中高一貫教育指定を受ける決意を固めていった。

④上川高校の状況

高校側の教員の受け止め方も、中学校と同じようなものであった。「本当にうまくいくのか」、「教師のゆとりが確保できるのか、教師の負担が増えて生徒に目を向けられなくなったら意味がないのではないか」といった不安の声があった。当初は中高一貫教育とはそもそもどういふものなのかということを探しているような状態であり、半数の教員から反対意見や保守的な意見が出されたようである。ここでもまた「できることからやっぴいこう」という認識のもと、少しずつ中高一貫教育の研究と実践を進めていった。高校の反対意見や中高一貫教育連絡会議などの合同会議で中学校側からの意見は、中高一貫教育を実現していく上で貴重な指摘となったという（上川高校 C 先生）。

⑤住民と保護者

地域住民、特に子どもが上川小・中・高に通う保護者については、直接この導入に関わる機会はなかった。町教委主催の説明会や、学校便り、PTA会報、上川町広報誌エスボワールなどで広報活動が行われたが、保護者・住民は「中高一貫教育制度についての知識があまりないので問題にもならない状態であった」。ただ、他の高校への進学が難しくなるのではないかと、学力低下の心配があるのではないかとという声が多量あったという（教育長ヒアリング）。

（4）まとめ

上川町における中高一貫教育制度の導入は、国の政策を受けた道教委の働きかけに端を発したが、中学校、高校、上川町教委がそれぞれの立場からそのメリットや意義を理解することによって実現していった。導入のプロセスを分析すると、中でも町教委の態度によって、この導入が大きく前進したといえるのではないか。

中高一貫教育の協力先を探していた道教委は、地元中学校からの進学率が比較的高い上川高校を選んだ。同校では当初反対意見もあったが、「今のままではいけない」という思い

が教員の間にもあり、「うれしい負担」という発想で中高一貫教育実践に取り組んだ。一方、町教委は中高一貫教育導入に関してははっきりとした展望を持っていなかった。また中学校側としても、研究は進めているけれども、町の協力なしに導入することは難しいと考えていた。そうした中で、先にも述べたように、高校存続への危機感や、研究を進めて見えてきた中高一貫教育の利点から、町教委が導入に向けて積極的に乗り出したことで、導入への道筋がはっきりとしたのである。都道府県立高校は、都道府県教委からの指定によって同制度導入に方向付けられやすい。連携型中高一貫教育制度の導入・実現のためには、市町村立中学校と市町村教委が自覚的に同制度の必要性や意義を理解して本格的な取り組みに乗り出すことが鍵であろう（高校の役割が低いという意味ではない）。

上川町に中高一貫教育が導入されるにあたっては、上川町の活性化にとって高校の存続が重要だったこともこの制度導入の大きな要因であったことは隠すことのできない事実である。しかしそれと同時に、子どもたちに6年一貫した継続的な教育を提供できるという教育上のメリットが関係者の間で共通の理解として形成されていた。小規模校が連携によって教育上得られるもののがかなり多いということ、ここに同制度導入のもう1つの大きな理由があったのはいうまでもなからう。ではどのような教育上の成果をあげうるのか、これが次に問われることである。

表 1-6 上川町における中高一貫教育導入の経過年表

年・月	内容
1998.9	道教委から中高一貫教育実践協力校指定について打診
1998.12	中高一貫教育実践協力校に指定
1999.1	第一回中高一貫連絡会議→12月まで計6回実施
1999.11.	第20回中高交流会 社会・公民TT、保健体育TT
2000.3	2000年度中高一貫教育推進指定校通知
2000.4	第1回中高一貫連絡会議→2001.1まで計6回実施
2000.5	上川町中高一貫教育推進校合同会議
2000.6	「公立高等学校配置の基本指針と見通し」において2002年度を目途に連携型を導入
2000.7	2000年度北海道・東北中高一貫教育推進フォーラム（青森）
2000.8	三重県立飯南高等学校視察訪問（町教委・中・高）
2000.9	上川教育局訪問（局長への説明・視察報告）
2000.11	上川町民対象の第1回中高一貫教育説明会 第21回中高交流会 英語TT、社会・公民TT
2000.12	上川町民対象の第2回中高一貫教育説明会
2001.3	2001年度中高一貫教育推進校指定通知
2001.4	第1回中高一貫教育推進委員会（中高一貫連絡会議を改組・強化）→年度内に10回実施
2001.5	第1回中高一貫教育合同推進会議→年度内に2回実施
2001.6	上川中学校FSへの高校教員の支援開始→年度内に延べ約60名

2001.7	山形県立金山高等学校・青森県立田子高等学校視察訪問 2001年度北海道・東北中高一貫教育推進フォーラム（山形） 数学のTT授業 中学2年生の数学の授業で高校教員2名が指導
2001.8	上川町広報誌「Espoir」第1号発行→年度内に3号発行
2001.9	「2002年度公立高校適正配置計画案」において、上川中学校・上川高校における 連携型の中高一貫教育の導入を公表 上川町議会において事業の概要と成果を報告 中高合同総合学習 大雪地理巡検（上士幌町方面の見学・地域学習） 進路啓発学習（札幌市での環境・進路別学習）
2001.1	「中高一貫教育フォーラム in かみかわ」
2001.11	和歌山県立南部高等学校龍神分校視察訪問 中高一貫教育研究会に参加（奈良県）
2002.2~3	上川町教委及び道教委の学校管理規則を改正し、上川中学校と上川高校における連携型の中高一貫教育の実施を新たに盛り込む
2002.4	連携型の中高一貫教育のスタート 第1回中高一貫教育推進委員会→9月までに5回実施 中高一貫教育講師による上川高校「音楽Ⅰ」の授業開始 中高英語教師による上川中学校におけるTT授業の開始
2002.5	第1回中高一貫教育合同推進会議 上川中学校FSへの高校教員の支援開始（9月まで延べ82名）
2002.6	中高合同総合学習（大雪地理巡検、進路啓発学習、地域産業体験）
2002.7	高校教員による中学校テーマの総合学習への支援開始
2002.8	「まちづくりと中高一貫教育に係る町民研修会」（参加45名）開催 上川町広報誌「Espoir」2002年度第1号発行
2002.9	上川町議会において事業の概要と成果を報告

第2章 上川中学校・上川高校の中高一貫教育実践

1 上川町の中高一貫教育推進の組織

ここでは、上川町における中高一貫教育研究推進組織について説明する。

(1) 中高一貫教育研究推進組織体制の確立

2000年度までは、上川中学校と上川高校にそれぞれ「中学校推進委員会」、「高校推進委員会」が設置され、その上に「中高一貫連絡会議」が設置されて、これが両校および町教委の暫定的な協議・研究機関となっていた。その事務局構成員は、両校の教頭および教員各2名と町教委学校管理課長であった（上川中学校・上川高校『平成13年度文部科学省指定「中高一貫教育推進校」実践研究報告』2001年10月）。

2001年3月に、それまで実践研究のリーダーシップを担っていた中・高の両校長が人事異動することとなり、2001年度以降は両校の新校長の下、「中高それぞれの校内組織、中・高間、中・高と町教委による研究組織体制および教育局、本庁とを結びつけた中高一貫教育研究推進組織体制」が確立された。新しい組織体制は図2-1および図2-2を参照されたい（以下、組織については主に、道教委に提出された「実践研究報告書」2002年、および上川高校「上川中学校と上川高等学校における中高一貫教育について」2002年5月1日、による。「実践研究報告書」は2001年度に関するものであるが、組織体制は2002年度と変化ない）。

図2-1 上川町における中高一貫教育推進組織体制（1）

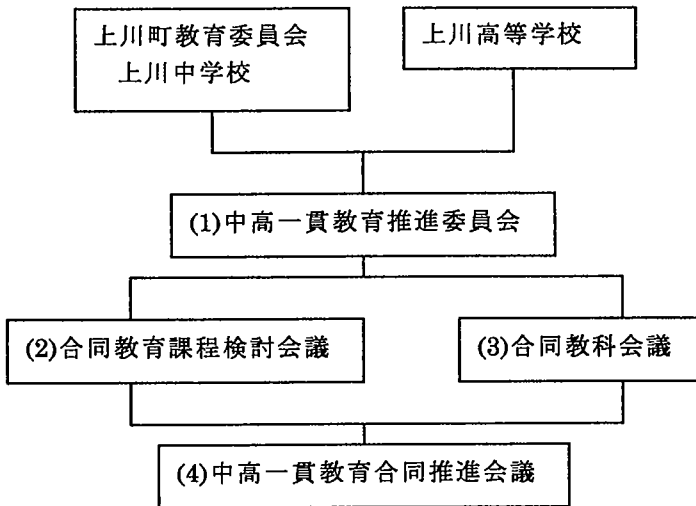
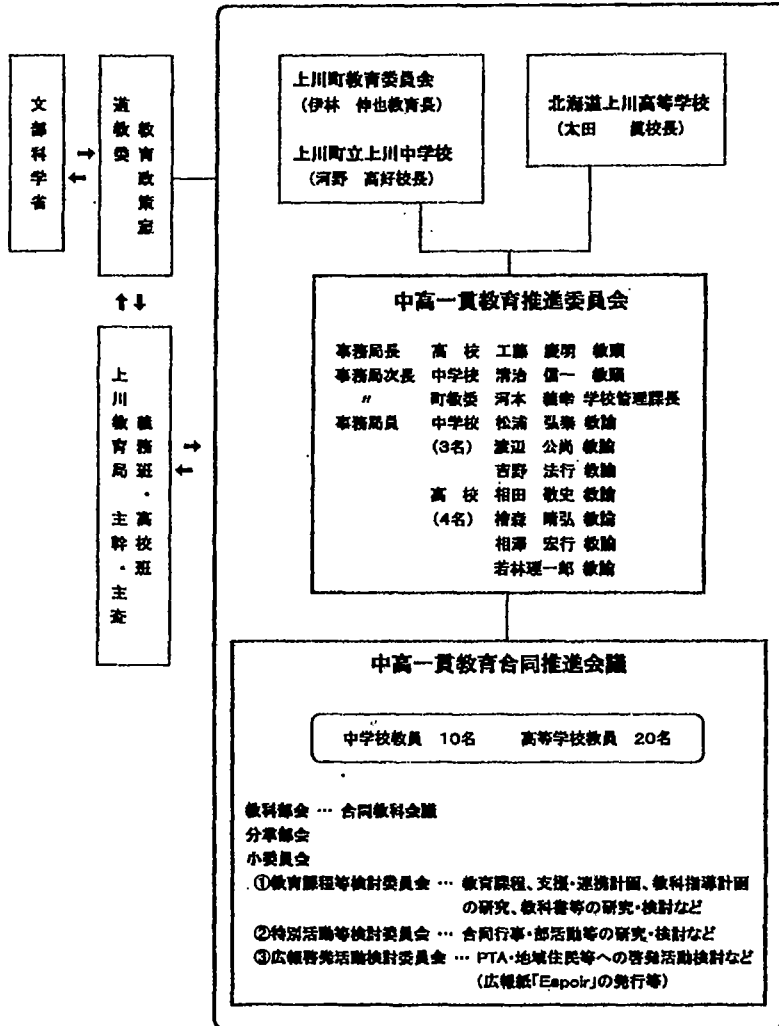


図 2-2 上川地区連携型中高一貫教育の推進組織



(2) 各組織とその役割

①中高一貫教育推進委員会 (年 10 回開催)

これは中・高間の研究推進組織で、中高の連絡・調整および事業の計画立案・推進の中心的役割を担うものである。事務局は事務局長 (高校教頭)・事務局次長 (中学校教頭・町教委学校管理課長)・事務局員 (中高 3 名ずつの教員) によって構成され、これらが推進委員となる (図 2-2 参照)。これは旧「中高一貫連絡委員会」を改組して設置された。この推進委員会は運営において中高の校長も参加できるものとしたため、単なる連絡調整の役割ではなく、そこで協議・決定したものを各学校に下ろして実践していく機関となった。

「実践研究報告書」では、「町教委の積極的な協力も得て毎月開催され、今年度（2001年度）の実践研究の推進役を充分果たした」と評価されている。2001年度は9回開催された。

②中高一貫教育合同推進会議（年に2回開催）

これまで春と秋に実施されていた「中高一貫懇談会」「中高交流会」を一体化し、中高の全教員を構成員としてこの推進会議を設置した。中高一貫教育の事業内容について検討・確認・協議することを目的とする。推進会議の下には、「教科」「分掌」の部会と3つの小委員会が設置される。3つの小委員会とは、「教育課程等検討委員会」、「特別活動等検討委員会」、「広報啓発活動検討委員会」である（その役割については図2-2参照）。ただし、これらの小委員会は、2001年度の実践研究においては「実質的に機能させることはできなかった」とされている（「実践研究報告書」）。

③中高一貫教育推進協議会（仮称）

これは、町民、PTA、同窓会、学識経験者など幅広い構成員によって組織され、町が主体となって本地区における中高一貫教育の推進を支援するものとして考えられたが、2001年度においては設置することができなかった（現在も未設置）。

④中高合同教育課程検討会議（年3回開催）

中高の中高一貫教育推進委員会委員及び教務担当者によって構成され、6年間を見通した教育課程編成について協議・推進するものである。

⑤中高合同教科会議（年5回開催）

中高の教科ごとの教員によって構成され、教科指導における連携・接続について実践的な研究・協議を行うものである。

（3）各組織の位置づけ

図2-1と図2-2を参照しながら、上川町における中高一貫教育推進諸組織の位置づけを見ておこう。

上川町における中高一貫教育推進のための諸組織の中では、まず中高一貫教育推進委員会が中核に据えられている。これは中高それぞれの意向・提案を受けながら、町教委も含めて同町における中高一貫教育推進のための基本方針の策定、企画の立案、連絡、意見調整などを行うものであり、ほぼ月1回開催されている。中高一貫教育合同推進会議はすべての中高教員が参加して、年2回開催される。その全体会では、中高一貫教育推進委員会で協議・確認されたその年度の実践研究内容について審議し決定する（第1回）、あるいはその年度の実践研究内容の成果と課題について協議する（第2回）。この合同推進会議には上述の2つの部会と3つの小委員会が設置されており、これらの部会と小委員会はより専門的な事業・内容に分かれて中高の教員が協議、確認するものである（これら2つの組織の議事内容の詳細については下の資料2-1を参照されたい）。2000年度までの組織体制における「中高一貫連絡委員会」は連絡調整機関としての側面が強かったが、2001年より中高一貫教育推進委員会と中高一貫教育合同推進会議の2つの組織が設置されて、上川町における中高一貫教育をリードしていく体制ができあがった。

上の2つの全体的な組織に対して、教育課程編成と教科ごとの連携・接続についてより専門的に協議・研究するのが、中高合同教育課程検討会議と中高合同教科会議である。連携型の中高一貫教育制度には教育課程上の特例がないが、それだけに中高一貫教育を推進

していく上で教育課程の実質的な連携・接続が最も重要になる。この2つの組織は2001年度になって新たに設置されたものである。上川町ではこの時点で連携型中高一貫教育における教育課程編成のあり方を本格的に検討する組織体制を明確にしたといえる（ただし今回の調査では上述の諸組織の詳細な議論の状況まで聞くことはできなかった）。

資料 2-1 2001年度中高一貫教育推進委員会等の主な内容

(1) 第1回推進委員会（4月18日 高校会議室）

第1回目の委員会では、平成14年度導入を視野に入れた教科指導面での継続的な実践研究に力を入れ、それを推進するための組織とその運営の在り方を確認し、具体的な実践研究を進めるための土台となる「連携の柱（特色）」について協議し、原案を定めた。

また、高校からは、中高合同の地域学習や進路啓発学習及び研究集会の実施や町民啓発の広報紙の発行を提案し、中学校からは学習の基礎・基本を身に付けることをねらいとする選択教科「FS」の実施が提案され、高校側からの協力・支援の方策について協議した。

さらに、中・高の全教員による第1回合同推進会議の進め方について検討した。

(2) 第1回合同推進会議（5月1日 高校音楽室）

1回目の推進委員会で教護・確認されたことをもとに、全体会において今年度の実践研究内容について審議し、決定した。

また、教科部会、分掌・行事部会での協議の中では、今年度の基本認識に基づき、2学期に教科指導面における中・高が協力した授業の実施や「未来をつくる高校教育推進費」（道教委事業）を活用した合同学習活動等を企画し、実施することを確認した。

(3) 第2回推進委員会（5月22日 高校会議室）

4月から1か月半の推進校事業実施内容と第1回合同推進会議での検討結果を確認するとともに、「未来をつくる高校教育推進費」を活用した中高合同の地域学習や進路啓発学習を「総合的な学習の時間」に位置付け、実施することを検討した。

また、連携した教科指導を進める際の基礎資料として、中・高の年間教科指導計画を合体させた学習指導計画を作成することにした。さらに、上川町主催行事の「上川町夢大使講話」には中高神門での参加を決め、その後、中高それぞれの平成14年度教育課程編成の検討状況などについて報告した。

(4) 第3回推進委員会（6月27日 中学校会議室）

教員交流による学習指導面での実践として、6月19日から6月26日に実施された選択教科「FS1～3」についての成果と課題について協議した。その中では、「FS」に対する中高の教員間に若干の認識の差もみられたが、中学生には好評だったという意見が述べられた。

また、中高教科間の中間打合せを1学期中に実施することや第1回合同推進会議で審議した計画の進捗状況報告及び2楽器の実践事項の確認をした。さらに、「未来をつくる高校教育推進費」を活用した中高合同の地域学習や進路啓発学習を9月中旬に実施することとした。

(5) 第4回推進委員会（7月25日 高校会議室）

中高教科間の中間打合せの実施状況を確認し、実施できていない教科については2学期早々の時点で実施することとした。また、前回の委員会で9月実施と決まった中高合同の学習活動を「大雪地理巡検」「進路啓発学習」とし、その実施要領について検討した。詳細については夏季休業中に事業所等への事前訪問を行い、2学期早々に検討することとした。

また、町民への啓発のための広報紙として、中高合同の学校通信の発刊について検討し、推進委員会による広報紙「Espoir（エスポワール）」を、8月15日に発行することとした。

11月に予定している中高交流会にあわせ、道外講師を招いての講演会を行うことについて検討したが、再度、吟味することとなった。

(6) 第5回推進委員会(8月27日 かみんぐホール)

1学期の実践研究状況の確認と2学期の実践への展望を協議し、教科面での実践の深化について確認した。また、2学期の合同行事については、芸術鑑賞、上川町夢大使講話について協議し、今年度の新規事業である「大雪地理巡検」「進路啓発学習」については、中高合同総合学習と性格付けした上で、事前訪問に基づき、内容を再度検討した。

前回、再検討となった外部講師による講演については、独立した行事として内容をさらに深め、「中高一貫教育フォーラム in かみかわ」として、先進地である三重県教育委員会中沢先生を招き実施することとし、交流会については、第2回合同推進会議・交流会として11月に実施することとした。

(7) 第6回推進委員会(9月12日 中学校会議室)

今年度の新規事業であり、次年度以降の中高一貫教育校の事業としても発展が期待される「大雪地理巡検」及び「進路啓発学習」についての最終打合せと今年度最大の対外的行事である「中高一貫教育フォーラム in かみかわ」の内容・役割分担・準備日程等について協議した。

(8) 第7回推進委員会(10月29日 高校会議室)

2学期に入ってからこれまでの実施事項の成果と課題を確認し、11月19日に実施する第2回中高一貫教育合同推進会議・第22回中高交流会の実施内容について協議した。

また、来年度以降の中高一貫校としての事業に対する上川町からの財政的支援について協議した。

(9) 第2回合同推進会議・第22回中高交流会(11月19日 中学校図書室他)

公開授業では、中高教員が事前に打合せをして、中学校全学年・全教室においてTTを実施した。その後の教科別懇談会では、当日の授業及び今年度の実践研究内容の成果と課題、来年度に向けての展望について協議した。

また、全体交流会では、教科別懇談会での協議について報告し、今年度の実践研究内容の成果と課題について全体で協議した。

(10) 第8回推進委員会(12月11日 高校会議室)

第2回中高一貫教育合同推進会議・第22回中高交流会の成果と課題を確認し、冬季休業中の実施事項の内容と担当を確認した。

また、広報紙「Espoir(エスポワール)」第2号の発行を決定し、石狩川エコチェーンプロジェクトについて協議した。

(11) 第9回推進委員会(2月5日 高校会議室)

今年度の実践研究について全体的に反省し、その成果と課題を確認するとともに、中高一貫教育校となる来年度の主な事業日程や推進のあり方について協議した。また、残された期間の事業として、広報紙「Espoir」第3号の発行、教科別懇談会、北大で前講座、体験講話等について協議した。

2 中高教員間連携のあり方

次に、より具体的に中高教員間でどのように連携活動が行われているのかを見てみたい。

(1) 教員連携の全体像 (2001 年度の実践)

2001 年度以前の実践では、「特別活動（各種行事・部活動・ボランティア活動など）などの連携は（年を重ねるごとに）着実に深化、拡充」していったが、「教科活動については前年度を継続・継承する側面が強く、深化、拡充には至らなかった」という。そこで 2001 年度においては、「中・高の教育課程上の接続に関する実践研究に重点を置き、昨年度までは遅れていた教科指導面での接続を進めること」が目標とされた（白井歩『中高で英語はどう連携されるべきか～中学校「FS」への協力をとおして～』p5）。そのような目標をもって実践された中高教員の連携には、ア中高合同教科会議、イ中高教員による T T の実施、ウ中学校選択教科「FS」への高校教員の協力、エ公開授業への参加、オ中高教員研修、の 5 つの取り組みが挙げられている。その具体的内容は以下の通りである（「実践研究報告書」）。

ア 中高合同教科会議

第 1 回合同推進会議で全教科による教科別懇談会が開催し、その後数学、社会、地歴公民で年間指導計画に基づく教科指導のための中高の教科会議を継続的に実施した。全教科による教科別懇談会は、さらに第 2 回合同推進会議および 2 月にも（次年度準備のため）実施した。

イ 中高教員による T T の実施

11 月の中高交流会のみで実施されていたが、定期的に合同教科会議を実施している数学科が 7 月 13 日に中学 2 年生を対象に実施した。2 学期には第 2 回合同推進会議・交流会（FS4—後述）において 5 教科で実施し、数学と英語はさらに不定期に実施した。

ウ 中学校選択教科「FS」への高校教員の協力

6 月下旬と 11 月上旬に実施された「FS1~3」に高校教員延べ 60 名が参加し、支援した。11 月の第 2 回合同推進会議・交流会では FS4 に高校全教員が参加・協力した。なお英語はその後も FS4 への協力を継続した。

エ 公開授業への参加

高校の第 1 回授業研究週間の公開授業に中学校教員が参観した。2 学期には、第 2 回同週間公開授業に中学校全教員が参観し、中学校の 1 日参観日の公開授業に高校教員 4 名が参観した。

オ 中高教員研修

前年度に引き続き、高校で行った教育相談に関する校内研修会を実施し、中学校の教員も参加した。

(2) 英語に関する教員連携 (2001 年度の実践)

上記白井『中高で英語はどう連携されるべきか』から、特に中高英語教員（中学校 1 名、高校 3 名）の連携について見てみると、次の 6 つの取り組みが挙げられている。中高合同教科会議の開催、中学校英語における T T（高校教員が中学校へ）、中学生の「FS」（基礎学習）の支援、公開授業への参加、英語検定の中高合同実施、体験入学での中学生の指導、である（前述の中高教員研修は特に取り上げられておらず、最後の二者が新たに付け加わっている）。上記白井レポートからは中高の教員の交流の様子がやや具体的にうかがえるので、以下にその内容を簡単に紹介しておく。

ア 中高合同教科会議の開催

会議の開催と会議内容は以下の通り。

- 第1回（5月1日）今年度の活動について
- 第2回（9月18日）中学校の学習内容について、TTの実施時期について
- 第3回（11月7日）中高交流会（11/19）でのTT授業・「FS4（3）」の打ち合わせ
- 第4回（11月19日）中高交流会：TT授業と「FS4（3）」についての報告・反省、今年度のこれまでの取り組みについての反省・まとめ、今後の活動について

この他に、検定実施や公開授業、「FS」、TT等について各担当者が個別に連絡を取り合って進めてきた。

イ 中高教員によるTTの実施

11月19日の中高交流会では、高校教員3名が中学校へ行き、2名が3年生「FS4（3）」に参加・支援、1名が中学校英語科教員・ALTとともに1・2年生TTを実施した。事前授業参観などを通じて中学生のふだんの授業の様子や生徒の学習能力を把握する時間が十分なかったため、指導法や時間配分、生徒の活動形態などについて中高の教員、ALTが綿密に打ち合わせを行って、無理のないように配慮して実施された。中学校の英語教員は1名しかおらず、個別指導が難しいため、このTT授業では後半はクラスを3つに分けて各グループの状況に合わせた指導を試みた。

ウ 中学校選択教科「FS」への高校教員の協力

中学校では、2000年度まで一定期間の「朝学習」「放課後学習」として実践してきた時間を、2001年度は学習の基礎・基本を身につけることを目的に、年間指導計画の中に選択教科の時間に位置づけた。生徒は学ぶ教科を各FSごとに選択でき、担当教員に自由に質問したり、ミニ授業やプリント課題を出してもらったりすることが可能で、「FS」は「自学自習」の側面と「普通授業」の側面をあわせもった時間である。2001年度より中学校からの協力要請に応える形で高校教員がこれに参加し、支援することを開始した。

2001年度の「FS」は以下のように実施された。

6月19～26日	：FS1～3（全学年）	25分間
11月5～9日	：FS1～3（全学年）	50分間
11月19日	：FS1～3（全学年）	50分間
11月30日	：FS4（1）（3年生）	50分間
12月10日	：FS4（1）（3年生）	50分間

エ 公開授業への参加

6月と11月の高校での授業研究週間の公開授業に中学校教員が参観した。また中学校での11月の1日参観の公開授業を高校教員が参観した。

オ 英語検定の中高合同実施

6月の第1回検定では中学生、高校生計21名が受検し、高校を会場に合同実施した。

カ 体験入学での中学生の指導

10月16日に中学生の高校体験入学で、英語の模擬授業に13名の中学生が参加し、英語科教員3名の指導のもと、ワードクイズに取り組んだ。

(3) 中学校教員・高校教員ヒアリングから見る連携実態（主に2002年度）

上記のほかに、私たちが中学校教員2名、高校教員4名に対して行ったヒアリング調査からも、個別の中高教員間の連携の様子がうかがえる。その連絡、コミュニケーションのとり方や中高教員間の関係を見ると、次のようなことがいえる。

まず、中高教員がそれぞれ連絡を密に取るように努めており、それを通じて教員間に信頼関係が生まれ、連携がうまくいくようになってきたとということである。

たとえば、上川中学校B先生は、通常なら交流はないが、中高一貫教育制度を導入してからは、「教科間、合同行事の打ち合わせ」などにより中高教員間の「接点が増えた」、「先生同士の交流が行われている」という。上川中学校A先生も、「教務や推進委員会を中心に・・・連絡を密にしている」、中高教員間で「コミュニケーションがとれるようになった」、これにより「より大きな単位で生徒を見ることができるようになった」という。コミュニケーションが深まり、それが中高をカバーする広い視野でものを考えることにつながったと言っている。

高校教員側も同様である。たとえばC先生は、「導入以前も毎年9月に交流会（飲み会）というものがあつたので、教師間にはそれほど壁というものはなかった」が、「導入後の変化としては、全体的に交流や打ち合わせの機会が増え、時間がたつにつれ、教師間の連携がなされてきてスムーズになるようになった」という。D先生は、導入以前も「中高交流会（交代で年一回公開授業を行うもの）」などによる「教師の交流」はあつたが、導入後は「新たな授業をゼロから協議」したり、「父兄向けの授業参観に中学教師も見学」に来たり、「高校教師の方が人数が多いので中学に支援に行く（唯一音楽は逆のパターン）」など、交流が増えたといい、E先生は、「（中学の先生とは）行事で一緒にやることも多く、お互いに授業参観をしているということもあり、同僚という感じの付き合いができています」という。F先生も、「自分は学級担任であるという制約があつて、忙しさのために中学へ行ってTTを組めないということもある」が、「そうした場合はメールなどでやりとりをしながら中学の先生に色々アドバイスを行ったりしている」、「実際相談を受けることも多く、教員同士のコミュニケーションを絶やさないようにしている」、「中学の先生が高校にいらして、上川中学から上川高等学校へ進学してきた生徒に関してはその情報を提供してください」、「高校教師である私自身も中学へ出向くことによって・・・中学の先生に指導の助言を行ったりすることができる」といっている。

ちなみに、教育長ヒアリングでも、教育長は中高一貫教育制度導入の最も大きな成果の1つとして「先生方の交流」をあげていた。

このように全体として中高教員間の交流の深まりがわかるのであるが、一方でヒアリングにおいては、教科によってその連携の密度に違いが生じていることも指摘されている。

特に「TTを実施している英語と数学は日頃から連携が密である」という（上川高校C先生）。実際ヒアリングでは英数の教員からはそれぞれの教科に関する連携の具体的事例を他教科の教員に比べて多く聞くことができた。たとえば、高校の英語のE先生のヒアリングでは、「（自身は）週に2、3時間TTに行く」が、「他の二人の英語の先生」は自分より4時間程多くTTの授業に行く、「前の週に次の週の時間割を中学の先生と見せ合つてTTの時間を臨機応変に決める」、「（中学の先生とは）打ち合わせを含めて週に2、3時間位関わっている。連続して同じ日にまとめることが多い。打ち合わせにはFAXを使う。」と

いった具合にそのやり取りが細かいところまで述べられ、高校数学のF先生のヒアリングでは、「例えば最近私は中学生の計算力の低下を実感し、中学の先生に「計算コンクールでも開催してみてもは？」と提案してみたなど、具体的な内容が触れられるが、他教科の教員の場合、そうしたところまで述べられることはなかった。

英数で連携が濃密なのはTTを実施しているのだから当然であり、他教科教員の連携のとり方の問題とはいええないと思われる。ただ、教科間の教員の関わり方のアンバランスが次の2つの問題を引き起こす可能性をもっていることもまた事実であろう。1つが教員の負担の問題であり、もう1つが教員間の意識のズレである。前者は本稿第1章2の国、道、上川町の支援のところを見ていただきたい。後者については、中高一貫教育推進委員会の委員をはじめ、中高間で連携の中心になっている教員とそうでない教員の意識や取り組み姿勢に温度差が生じる可能性もある。しかし、教育課程の接続の検討・実践はまだ始まったばかりである。また中高一貫教育合同推進会議など、全教員参加の会議も設定されており、大きな齟齬をきたさない工夫がされていると見ることもできる。

ほかに教員ヒアリングでは、教員数の関係からやむをえず高校主導で中高一貫教育の推進が実施されているという指摘があったことも付け加えておきたい。

以上、中高教員間の連携の実態について見た。英数を中心にしながら、中高の教育課程の連携・接続を図るべく、中高各教員がコミュニケーションを深め、共同で研究と実践を行いつつある状況をとらえたとはいえる。これは中高一貫教育導入以前と比べて中高の関係が大きく変わった事態である。課題とすべき事態も若干見られたが、これについてははいま少し時間をかけて検討すべきことであろう。

3 上川中学校・上川高校での教育実践

上川中学校・高等学校のような連携型の中高一貫教育校は既存の中学校、高等学校を活用することができ（大きな財政措置を必要としないなど）、中等教育学校・併設型に比べて導入しやすい。しかし、反面中高一貫教育校としての教育課程の基準の特例が設けられておらず、中高一貫教育の利点をいかして教育課程の編成・実施を行うことが比較的難しくなる。たとえば、中等教育学校、併設型では必修科目の授業時数を減らすことが可能であり、重複を省いてその時間を選択科目などにあてることができるが、連携型ではほかの中学校から進学してくる生徒への配慮から必修科目における6年間の授業編成は難しい。6年間通した一貫性のあるカリキュラムを編成し、教科・科目の設定の工夫、指導方法の工夫など、特色ある教育活動を行うという中高一貫の理念を連携型では、どのように取り入れることができるのだろうか。上川中学校・上川高校の実践を通して探ってみたい。

(1) 上川中学校・上川高校の教育課程

上川中学校・上川高校では、さまざまな特色ある教育実践が行われている。まずは中学校、高校それぞれの教育課程をみていく。

①上川中学校

上川中学校の教育課程を表すものとして、表 2-1を参照されたい。

上川中学校では、必修科目に加え、総合的な学習の時間、選択教科が行われている。こ

ここでは必修科目はおき、総合的な学習の時間と選択教科の内容を見ておこう（資料は『平成14年度上中の教育』）。

i) 総合的な学習の時間

総合的な学習の時間には、主にスキル学習・テーマ総合学習・進路啓発総合学習・中高合同総合学習がある。その授業時数は表2-2の通りである。またそれぞれの内容は以下の通りである。

- ・ スキル学習とは、コンピューターの基本的な使用方法及びインターネット検索方法など、総合学習に取り組む上で必要な基礎・基本的な内容の補充補完を行うための時間である。
- ・ テーマ総合学習は、全校テーマ「広がる自分の世界」のもと、全校縦割りで11のプロジェクト制で行われ、調べ学習から脱却したより質の高い「提案型」の学習を行おうとするものである。
- ・ 進路啓発総合学習では、職場実習（2年生）や、旭川大学との連携による講演・講座（全学年）、1日体験入学（3年）などが行われている
（中高合同総合学習については後述する。）

ii) 選択教科

選択教科には主に選択F・S・選択A・選択Bがある。その授業時数は表2-3の通りである。選択Aと選択Bの内容は以下の通りである。

- ・ 選択A・Bでは、各教科で学習した内容を詳しく調べ、興味関心に基づいて深く発展的に学習をする。選択A（2、3年生）では音楽・技術家庭・美術・保険体育から3～4コースが、選択Bでは国語・社会・数学・理科・英語から5～6コースが設定され、生徒が1つ選択する。

（F・Sについては後述する。）

表2-1 上川中学校の年間授業日数及び授業時数

区 分		第1学年	第2学年	第3学年
各教科の授業時数	国 語	140(4.00)	105(3.00)	105(3.00)
	社 会	105(3.00)	105(3.00)	85(2.43)
	数 学	105(3.00)	105(3.00)	105(3.00)
	理 科	105(3.00)	105(3.00)	80(2.29)
	音 楽	45(1.29)	35(1.00)	35(1.00)
	美 術	45(1.29)	35(1.00)	35(1.00)
	保健体育	90(2.57)	90(2.57)	90(2.57)
	技術家庭	70(2.00)	70(2.00)	70(2.00)
	外国語	105(3.00)	105(3.00)	105(3.00)
道 徳	35(1.00)	35(1.00)	35(1.00)	
特 別 活 動	35(1.00)	35(1.00)	35(1.00)	
選 択 教 科	30(0.86)	60(1.71)	120(3.43)	
総合的な学習	70(2.00)	95(2.71)	115(3.29)	
総授業時数	980(28)	980(28)	980(28)	

注) カッコ内は週当たり時数

表 2-2 上川中学校の「総合的な学習の時間」の分野と時数

	オリエンテーション	スキル学習	テーマ学習	中高合同	進路啓発	現地集合型修学旅行	合計
1年	1	20	40	9			70
2年	1	20	45	9	20		95
3年	1		45	9	28	32	115

表 2-3 上川中学校の選択教科の分野と時数

	オリエンテーション	FS1～5	FS6	選択A	選択B	発表会	合計
1年	2.5	27.5					30
2年	3.5	27.5		27		2	60
3年	5.5	27.5	29	27	27	4	120

②上川高等学校

上川高等学校の教育課程表は表 2-4、表 2-5 である。2002 年度入学者と 2003 年度入学者では教育課程が異なっており、2003 年度入学者予定案も掲げた。そのおもな特徴は次の通りである。

- ・ 数学と英語で 1 年次から習熟度別指導を行っている
- ・ 大学進学や就職のための資格取得に対応する選択科目を設定している。2002 年度は教科「商業」として、簿記（2、3 年次で 3～8 単位）・情報処理（2、3 年次で 3～5 単位）が設定されている。2003 年度入学者教育課程では、2 年次で理系進学希望者向けに数学 A、文系進学希望者向けにリーディング、就職希望者向けに情報処理が設定されており、3 年次では進学希望者向けにライティング、就職希望者向けに簿記が設定され、進路に応じた選択が可能である。
- ・ 教科「総合」として『「大雪」基礎』（2 年次 3 単位）・「アウトドア基礎」（3 年次 2 単位）が設定され、総合的な学習の時間が各学年 1 単位設定されている。2002 年度入学者からは『「大雪」研究』が設定され 3 年次で選択する。また、2003 年度入学者は 2 単位に増やされた総合的な学習の時間の中で『「大雪」基礎』（1・2 年次）を学習することになる。また、3 年次では『「大雪」研究』の他に新たに設定される「生涯スポーツ」も選択できる。

（「大雪」基礎・アウトドア基礎の内容については後述する。）

（2）上川中学校・上川高等学校の連携した教育活動

次に、上川中学校および上川高校の教育課程、教育実践の中で、中高一貫教育導入にかかわるものを取り上げる。

①連携の基本理念、テーマと柱

2000 年度までは行事などの特別活動や課外活動を中心に連携した教育活動を行ってきたが、6 年間を見通した連携型の中高一貫教育を推進する上で最も重要なものが、「連携の柱（特色）」とそれを実現する「教育課程の編成」にあるとされる（『実践研究報告書』）。

上川中学校・上川高等学校における連携の基本理念、連携テーマ及び連携の柱などが、2001 年 5 月 1 日の第 1 回中高一貫教育合同推進会議で以下のように定められた。

<基本理念> 「豊かな自然の中でゆとりを活用し、多様な連携・交流を創造して生徒一人一人の夢を実現する」

<育成すべき生徒像>

- ア 自己を見つめ、自ら考え自ら学ぶ生徒
- イ 基礎・基本を身に付け、個性的で創造的な生徒
- ウ 豊かな人間性を見に付け、健康でたくましい生徒
- エ 郷土に学び、地球市民として行動できる生徒

<連携テーマ> 「私たちと風土——郷土に学び、自己を見つめる——」

<連携の柱> 「6年間の一貫した地域・環境学習及び進路学習」

連携のテーマ、「私たちと風土」のうち、「私たち」と「風土」はそれぞれ次のように意味づけられている。

「私たち」

- ① 上川町に存する中学校と高等学校に生活している集団としての生徒
- ② 地域社会の一員であるとともに国際社会に貢献できる一人の人間としての生徒
- ③ 学び方や自己の在り方生き方について考えることのできる生徒

「風土」

- ① 生活の中心である上川町の自然、歴史、文化、産業等を考える基盤
- ② 広く北海道や日本国民であること、さらには地球人として考える基盤
- ③ 地域や学校の特色あるいは実態に応じた学習活動の展開を考える基盤

表2-4 上川高校2002年度入学者教育課程

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30					
1年	国語Ⅰ			現代社会				数学Ⅰ			生物ⅠB			体育		保健		音楽Ⅰ		書道Ⅰ		英語Ⅰ			家庭一般		総合	LHR							
2年	国語Ⅱ		世界史A		数学Ⅱ	数学A	化学ⅠB				体育		英語Ⅱ		OCA		家庭一般		大雪基礎		古典Ⅰ		数学B		生物Ⅱ		物理ⅠB		情報処理		簿記		総合	LHR	
3年	国語Ⅱ		国語表現		日本史A		数学Ⅱ			体育			音楽Ⅰ	リーディング	英語Ⅱ	書道Ⅰ	OCA	家庭一般		ライティング		化学Ⅱ		数学Ⅲ		世界史B		政治経済		情報処理		大雪研究		総合	LHR

* は習熟度別授業

表2-5 上川高校2003年度入学者教育課程(案)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
1年	国語総合			現代社会	数学Ⅰ			生物Ⅰ			体育			保健	音楽Ⅰ 書道Ⅰ	英語Ⅰ			家庭総合	情報A		総合「大雪」基礎		L H R						
2年	国語総合		世界史A	数学Ⅱ			化学Ⅰ			体育			保健	英語Ⅱ			家庭総合	数学A リーディング 情報処理	物理Ⅰ 古典講読 簿記	総合「大雪」基礎		L H R								
3年	国語表現Ⅰ		日本史B	政治経済数学Ⅱ		数学B 数学基礎		理科基礎	体育			リーディング	ライティング		英語Ⅱ	発達と保育	フードデザイン	化学Ⅱ 「大雪」研究	数学Ⅲ 生物Ⅱ 世界史B	OCI	簿記	情報処理	生涯スポーツ	L H R						

* □ は習熟度別授業

②中高連携した教科指導

i) 高校教員による中学校への支援

イ F S (Fundamental Study 基礎学習)

上川中学校ではF Sという特色ある時間が設けられている。これは当初、朝学習・放課後学習として実践されてきたものが、年間指導計画の中に選択教科として組み込まれるようになったものである。

F Sでは基礎学力の定着を目指し、ふだんの学習で理解不十分な内容やもう一度学習したい内容などといった学習内容を生徒が自分で決定し、先生を活用しながら学習する(F S1~5 各学年年間27.5時間)。自分で学習する教科を選択するだけでなく、どのように学習するかも自分で決定できる。たとえば、自習でもよいし、担当教員に自由に質問したり、ミニ授業やプリント課題を出してもらうことも可能である。

F S1~5では、それぞれにおいて国語・社会・数学・理科・英語から1コースずつが選択される(コース内容は資料2-1参照)。2002年度は1~2学期の期間に1コースあたり25分間(朝8時40分~9時5分)のF S1~5が7回(7週間)、50分間(第5校時)のF S1~5が2回(2週間)行われる(計9週間)。

またF S6(3年生のみ29時間)では、F S1~5の発展に加え、「中高一貫教育による学習のまとめ」(後述)の学習が行われる。2002年度は、11月中旬から2月まで行われ、12月までは全生徒「中高一貫教育による学習のまとめ」の学習を、1月からは上川高校進学志望者は継続して「中高一貫教育による学習のまとめ」の学習を、他高校進学志望者は

5 教科の学習を行う。

F Sは全校いっせいに行われ、全教員が指導にあたる。多様な生徒の学習状況に対応するためには、それぞれの要求に即応した複数のクラスが設けられることが望ましいが、上川中学校の教員だけではその数に対応することが難しい。また中高一貫教育を進め、高校側から見てなぜ生徒はこういうことが分からないのかと感じる学習・学力上の問題点について中高の教員が協議する中で、上川中学校の生徒の学習・学力状況を高校教員も知り、さらには中学生の学習の発展を図る取り組みが必要であるとの議論が出てきた。そこで、このF S授業には上川高校の教員も参加して、中学校の教員と同様に指導にあっている。これにより、F Sにあたる教員数が確保され、F S授業をより少人数単位で、個々に即したもののつつ、生徒の基礎学習を促進することができるのである。

資料 2-1 上川中学校の選択F S1~5 (全年) の内容

- | |
|---|
| F S 国語 (1) : 漢字や文法、長文読解などの基礎的な学習、漢字検定などを旨します。 |
| F S 国語 (2) : 自分で文章を作ったり、読んだりする基礎的な学習、ワープロ検定などを旨します。 |
| F S 基礎数学 : 小学校での学習内容や中学校で習ったところまでの学習をします。 |
| F S 数学 (計算) : 文字の入らない計算から文字の入った計算など計算の基礎を学習します。 |
| F S 数学 (関数) : 比例反比例、1次関数や2次関数など関数の基礎を学習します。 |
| F S 数学 (図形) : 角度の求め方、証明の仕方の基本を学習します。 |
| F S 基礎社会 : 中学校で習ったところまでの学習をします。 |
| F S 社会 (地理) : 地理に関する基礎的な学習をします。 |
| F S 社会 (歴史) : 歴史に関する基礎的な学習をします。 |
| F S 社会 (公民) : 公民に関する基礎的な学習をします。 |
| F S 基礎理科 : 中学校で習ったところまでの学習をします。 |
| F S 理科 (1分野) : 化学や物理に関する基礎的な学習をします。 |
| F S 理科 (2分野) : 生物や地学に関する基礎的な学習をします。 |
| F S 基礎英語 : 中学校で習ったところまでの学習をします。 |
| F S 英語 (単語) : 単語や簡単な文章を読んだり書いたりできるようにします。 |
| F S 英語 (英検、応用) : 長文読解、会話、歌、英語検定に向けての学習などもOKです。 |

ロ T T (Team Teaching)

F Sと同時に、中学校の数学と英語にも高校の教員がT Tというかたちで参加し、支援している。上川中学校では各教科に教員が1人、ないし2人であり、T Tを行うことが難しかった。

ハ 中高教科会議

各教科の中学校教員と高等学校教員の間で指導内容や、指導方法、生徒の学習状況、T Tの計画などの会議がもたれている。一貫性のある指導計画の在り方や、授業についての研究を進め、生徒の学習の達成度や、学習のつまずき原因、対策についても共同で検討している(本章2で既述)。

ニ まとめ

2001年度では、朝のF Sは1~3しかなかった(3年生のみF S4あり)。しかしF S1~3では生徒は5教科のうちの3教科しか選択できず、選択幅が小さいという難点があっ

た。それで2002年度にはこれをFS1~5に拡大したのである(上川高校教頭)。

高校英語科教員の2001年度のFS支援についての考察によれば、朝のFSは気軽に協力しやすいというメリットもあるが、教科としての効果的な指導支援や効率性を考えた時には疑問が残るといふ。50分のFS4は十分な時間が確保されるが、選択科目であるため対象となる生徒が限定される。したがって多くの生徒を効果的に指導していくためには通常の授業におけるTTを考えていかねばならないという(白井歩『FS』支援~英語科のこれまでの取り組み~)。

FSかTTかはおくとして、このような高校教員が中学校の授業を支援するという取り組みには、次のような利点があるだろう。上川中学校の生徒は高校教員から高校に入るまでにどのような勉強が必要なのか、高校ではどのように発展するのかなどの説明を聞くことができる。また、高校教員は授業を通じて中学校の生徒の顔を覚えることができる。上川高校に進学する生徒にとっては高校がなじみのあるものになり、高校生活へとスムーズに移行することが可能になるだろう。高校の教員は生徒の学習状況、学習内容を知ることにより、中学校の生徒が高校に進学した際の生徒の指導に役立てることができ、双方の授業に触れることにより、新たな教授方法を獲得することにもつながると考えられる。

ii) 中学校教員による高校への支援

高校の科目「音楽I」の指導を中学校の教員が行っている。TTではなく、「中高一貫教育講師」として、年間通して指導し評価まで行うことは全国的にも珍しい。

iii) 公開授業への中高教員の相互参観

高校で行われる授業研究週間の公開授業への中学校教員の参観、中学校で1日参観日の公開授業への高校教員の参観が行われている。お互いの指導内容や方法、生徒の学習状況などについて協議し、理解を深めている(本章2で既述)。

②「総合的な学習の時間」の連携・接続

総合的な学習の時間の具体的な内容は学校ごとに定めることが可能であり、中学校と高等学校が共同で指導計画を作成することができる。上川中学校・高校ではこの総合的な学習の時間を用いて、中高一貫教育校としての特色あるカリキュラムをつくっている。

i) 「総合的な学習の時間」の連携・接続の研究

中高それぞれの校内研修の実施や合同教育課程検討会議などにおいて、6年間を見通した「総合的な学習の時間」のあり方や内容について研究がなされている。

ii) 中高合同総合学習の実施

中学校・高等学校の生徒がそれぞれ選択したコースに分かれ、合同で体験的な学習などが行われる。2001年度は大雪地理巡検と進路啓発学習の2コースに分かれて9月20日に実施され、2002年度は地域産業体験が加わって3つのコースが設定されている。

・大雪地理巡検

大雪山周辺の地形や近隣の町の様子を見学することで、自分たちの住む上川町を見つめなおすことを目的とする。2001年度は、三国峠での景観学習、大雪湖へ向かうバスでの高校生による中学生への層雲峡等についてのガイド、ひがし大雪博物館、上士幌高校生との交流、上士幌町の自然ガイドセンター職員・学芸員の講演を行った。

・進路啓発学習

興味・関心にあわせたコース選択を行い、各施設で体験見学をすることによって進路に対する意識を高めることを目的とする。2001年度は、午前は北大大学院地球環境科学研究科で教授から講義（同研究科の自然ガイド養成コースについて）を受け、午後は札幌銀行・道警・札幌テレビ・北大博物館・大原学園の5コースに分かれての視察訪問を行った。

・地域産業体験

上川町の基幹産業である「観光」について理解を深め、上川町について見つめ直すことを目的とする。2002年度は6月26日に層雲峡のホテルで礼儀作法、テーブルマナーを学んだほか、風呂掃除や布団上げを体験した。

iii) 高校教員による中学校のテーマ総合学習への支援

中学校の各プロジェクトに対して全高校教員がアドバイザーとして協力する。中学生が総合学習の時間に高校を訪問し、担当の高校教員から指導・助言を受ける

③地域・環境学習の連携

i) 高校教員による中学生への水質調査及び分析方法の指導

中高合同水質調査（GLOBE事業の一環）の実施

GLOBE（Global Learning And Observation to Benefit The Environment）とは、学校を基礎とした国際的な環境教育プログラムであり、現在世界各国で9000校が加盟している。GLOBEの活動内容は、学校で測定可能な環境に関する観測データをインターネットで米国のGLOBE本部へ送り、世界中の参加校がそれらのデータを受信利用する。上川高校は、中高一貫教育の連携の柱である「6年間の一貫した地域・環境学習及び進路学習」を推進し、充実させるために、文部科学省から「平成13・14年度環境のための地球観測プログラム（GLOBE）推進事業」（グローブ校）の指定を受けた。

上川では中学校は選択「理科」、高校は「総合的な学習の時間」を活用し、世界環境デーの6月5日に、「環境学習フォーラム北海道」の指導を得て、中高の生徒が合同で石狩川とその支流留辺志部川の水質調査を行っている（年6回実施予定）。

上川高校では、これに加え、学校設定科目『「大雪」基礎』『アウトドア基礎』における地形・気象・大雪山の自然などの学習、必修科目「生物ⅠB」における水質調査法・気象観察法の学習、選択科目「生物Ⅱ」における土壌の水分調査及び土壌動物の調査・植生調査、など行っている。

ii) 上川高校の特色ある教科・科目（「学校設定科目」）

上川高校では、選択科目として学校設定科目『「大雪」基礎』、『アウトドア基礎』を設置し、地域・環境に関する学習のほか「北海道アウトドア資格」の基礎分野に係わる内容を含む指導を行っている。また学校設定科目として「生涯スポーツ」がある。

・「大雪」基礎

雄大な自然環境の広がる上川地域において、その自然の魅力や人間とのかかわりを学ぶとともに、自然と人間の望ましい触れ合いを支援する「アウトドアガイド」に求められる基礎的な知識などについて学習する。

・「アウトドア」基礎

雄大な自然環境の広がる上川地域において、その自然の魅力や人間とのかかわりを学ぶとともに

に、自然と人間の望ましい触れ合いを支援する「アウトドアガイド」に求められる基礎的な知識などについて学習し、実践的な能力や態度を身につける。

- * 上川高校は北海道の「アウトドア資格認定制度の基礎分野」人材育成機関として登録申請されており、『大雪』基礎あるいは「アウトドア基礎」を修了した生徒は、北海道アウトドアガイド試験（基礎分野の筆記試験）が免除される。高校におけるこれらの学習は、中学校の「総合的な学習の時間」における地域環境を生かした学習を高校において、より深化させるものである。

・「生涯スポーツ」

基礎体力の向上とともに、スポーツライフの設計と生涯にわたってスポーツを継続していく為の方法を身に付けることを目的とする。また通常の体育の授業では取り組まない救急救命法や野外活動についても学ぶ。

（「アウトドア基礎」は、2001年度入学者教育課程に設けられていたもので、2002年度以降は「大雪『基礎』」に発展的に統合されてなくなっている。それゆえに、表 2-4、表 2-5に「アウトドア基礎」の授業科目はない。）

iii) 上川高校における「学校外の学習の単位認定」

上川高校では、単位認定できる学校外での学修として、ボランティア活動（シャトルバスガイド等）、町教委主催自然観察会への参加、放送大学等の学修を認めている。

iv) 上川高校と拓殖大学北海道短期大学との連携

上川高校は拓殖大学北海道短期大学と連携を行っており（2002年7月11日に協定締結）、『大雪』基礎あるいは「アウトドア基礎」を履修している生徒が、体験型観光に関する知識を学ぶ同大学の経営経済地域デザインコース部門のアウトドア実習授業などの講座を履修すると、上川高校の単位として認定される。2002年度7月31日から8月5日まで道内鹿追町の然別湖などで同大学生と合同合宿を行い、乗馬やカメラ、ラフティングなどを行った。ここでは、環境学習における高大の接続が行われており、これによって、上川中学校における環境学習から大学における環境学習へと環境学習における中・高・大接続が可能になる。

v) 地域・環境学習の接続

これらの環境学習の取り組みについて上川高校教頭は、「中学校の段階で総合的な学習の時間でテーマをみつけて地域のことを学んだ生徒が、途中高校と一緒になった合同行事もやって、そして高校に入学したら大雪基礎でその部分をもうちょっと深く勉強しながら、資格も取れるようにする、大雪研究ではもっと深く勉強できるようにしていく」、「特色ある科目を中学校と高校の総合的な学習の時間をひとつのパイプにしなが、高校では学校設定科目というより専門的なものに発展させていくという形で、中高一貫カリキュラム作りをおこなっています」と述べている。

地域・環境学習において中高共通する教科設定により、継続的な学習が可能になり、地域や郷土について深く学習する。上川中学校・高校は上川町という地域に根づいた学校であることを活かし、連携型の中高一貫校としてのカリキュラムの特色を地域・環境学習におくことにより、一貫性のある系統的・計画的な教育指導を実践している。

④合同検定の実施

上川中学校・上川高校のような小規模校においては、受検生が少ないため、団体受験が（特別準会場の設置）が難しく、近隣の実施会場まで足を運ばなくてはならない。中学校と高等学校が合同で検定を実施することにより、団体受験が認められる可能性が高くなる。

2001年度は、漢字検定2回（延べ中学生24名・高校生32名）、実用英語検定（延べ中学生15名・高校生23名）、数学検定1回（中学生8名・高校生2名）が実施された。2002年度にはこれにワープロ検定が追加されている。

⑤中高合同行事などの実施

次の行事が、中高の生徒全員または一部の参加で行われている。中高合同芸術鑑賞、中高合同禁煙に関する研修会、中高合同薬物乱用防止教室、上川町夢大使講話、北海道大学出前授業、中高合同ボランティア活動（交通安全キャンペーン）である。これらの合同行事において、中学生は高校生の姿に啓発され、高校生は責任感やリーダーとしての姿勢を養うことが期待されている。

⑥部活動の合同練習

上川中学校・高校は人数が少ないため、部活動の合同練習が行われる意味は大きい。クロスカントリースキー部・バトミントン部などで行われている。

また、部員不足による休部状態から復活した歴史ある上川高校の野球部においては、日本高野連では現在、原則として中学生との合同練習は認めていないが、対象となる中学校と高校が一貫した組織とみなされた場合、事前に学校から趣旨説明などを盛り込んだ文書を高野連に提出すれば、高校の指導者がコーチなどの「サブ指導者」として中学校の練習参加が認められるという。

⑦入学者選抜

連携型の中学校から連携型の高等学校へ進学する際の入学者選抜は、調査書や学力検査を用いない簡便な方法での実施が可能とされている。

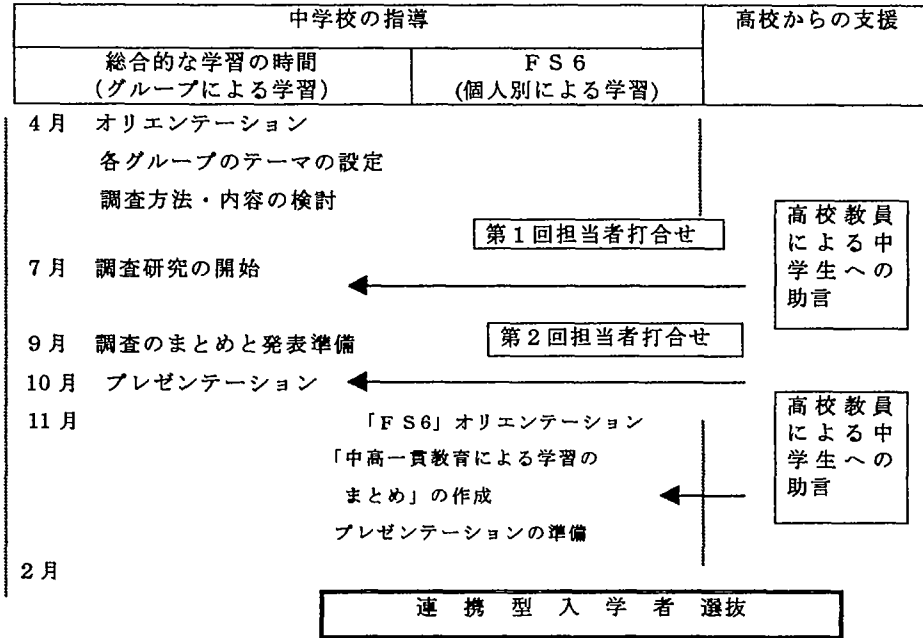
実際にこの入試方法が行われるのは、上川高校の場合 2003年度入学者からであるが、そこでは上川中学校の生徒が上川高等学校へ進学する際の入学者選抜は、「中高一貫教育による学習のまとめ」及び面接の結果を総合的に評価して決定される。面接では、一般面接に加えて「中高一貫教育による学習のまとめ」のプレゼンテーションが行われる。この「中高一貫教育による学習のまとめ」は中学校における「テーマ学習」及び「FS6」において指導されたものである。ここでも高校の教員が指導に加わる。中学校のテーマ学習の各プロジェクトに対して、全教員で分担して中学生の学習活動のアドバイザーとして助言する。また、テーマ総合学習の発表終了後には、FS6の時間を利用した「中高一貫教育による学習のまとめ」の作成に関して、高校教員が中学校教員に協力して中学校3年生に助言する。

上川中学校・高校では入試を中高一貫教育実践の中に組み込まれたものにし、中学校で学んだことを高校入試でしっかりまとめ、それを高校でさらに発展させるためのものとしている。中高一貫教育を導入し、これまでの学力検査による入試が行われないことにより、学力低下が生じるのではないかとこの憂慮が少なからず存在する。FS・TTの活用、目的意識をもった「中高一貫による学習のまとめ」が作成されることにより、生徒数が少ないということを利点とした個々に応じる決め細やかな指導を行われ、学力低下の不安を払

拭されるよう努めている。

上川中学校の指導と上川高校からの支援の流れを図化したものが図 2-3 である。

図 2-3 上川中学校の指導と上川高校からの支援の流れ



(3) まとめ

中高一貫教育の利点としてまず高等学校入学選抜の影響を受けずにゆとりある安定的な学校生活を送れることをあげることができる。上川中学校・上川高校のような地域にある学校では、もともと高校入学段階での受験競争があまり激しくはないため、ゆとりがあることによる利点への評価ではなく、むしろこのゆとりによって生徒が勉強しなくなるのではないかという学力低下への不安が生まれやすい。これに対して上川中学校・上川高校では、入試がないから勉強をしなくてもよいという考え方に結びつけないように対応が行われている。FS授業は中高一貫によらねば行うことのできないものとは言えないが、高校教員の支援を受けるという中高一貫導入により生まれた新しい教員間の連携を得て、生徒の基礎学習の定着を目指すものの1つである。また、高校の教員の交流、上川高校の教員の上川中学校への授業参加によって、連携型であっても6年間にわたり生徒を継続的に把握することが可能となるよう多大な努力がなされている。

次に、教育課程の基準の特例を活用することにより、特色ある多様な教育活動が展開できることという中高一貫教育の利点に関しては、上川中学校・上川高校では連携型であるため特例はないものの、6年間通した一貫性のあるカリキュラムを地域・環境学習及び進路学習を柱として編成することにより、地域に結びついた特色ある教育活動を目指している。これらの過程においては、生徒数が少ないということを活用して、中高一貫に期待される生徒の個性に応じた多様な教育と丁寧な指導を行うことができる。上川では生徒が地域・環境について興味をもって学ぼうとするとき、その学習を発展させていくための土壌

が先々へと用意されているといえるだろう。

上川中学校・高等学校は 2002 年度から正式に連携型中高一貫教育校としてスタートした。これらの取り組みがどのような効果を生み出すかということは、今現在の中学生在が高校生になり、卒業する段階になればおのずから見えてくるだろう。現段階でいえることは、連携型という設置形態において可能となる取り組みをできる限り行っているということだ。

第3章 教員と住民の評価から見えるもの——ヒアリングから——

本章では、上川中学校および上川高校の教員と上川町住民のヒアリングから、上川町における中高一貫教育が彼らにどのように受けとめられ、評価されているかを検討する。

1 中学校教員・高校教員の中高一貫評価

まず教員の方は、上川町中高一貫教育推進委員会委員である中学校の教諭2名、高校の教諭4名に話を聞くことができた。

中学校と高校との間の考え方の違いというものはほとんど見られなかった。これはヒアリングした教員数が少なかつたせいもあるかもしれないが、ヒアリングの結果からは推進委員会において十分な話し合いが重ねられて中高の間で意思疎通がなされていることを読み取ることができた。そのため、ここでは中高両校の教員の評価をまとめて論じることとしたい。

(1) 導入当初の不安

中高一貫教育導入に関して、教員は教務、推進委員を中心に話し合いを重ねてきた。最初は教師の中にも「本当にうまくいくのか」、「教師のゆとりは確保できるのか」等の導入に対して不安な声も出たようだが、「できることからやっっていこう」をスローガンに無理のないように進めていった。

(2) 教員と生徒の変化

中高一貫教育導入によって、教員と生徒の中でどんな変化があったのだろうか。

教員は「生徒を6年間という長いスパンで見ることができるので学習状況や生徒自身をよく理解できるようになった」という。また、中高の教員の打ち合わせが増えたことによって「教師同士の交流が増え、同教科の教師間では相互に助言し合ったりする」ようになった。

一方、生徒の変化はというと、「TTやFSの生徒の反応は良好」で、TTで教員が2名に増えたことにより、「生徒が積極的に授業に参加するようになってきた」こと、さらにTTやFSなどで高校の教員が中学生と関わる機会が増えたことにより、「上川高校に入学する時の生徒の不安が少ない」という話があった。また、中高両校の生徒による合同行事では、「高校の生徒の中に中学生をリードしようとする姿勢が見られる」などの変化があるようである。しかし、多数の教員が感じることで、行事といっても実際に生徒同士が関わることはあまりないこと、他の学年と一緒にいることを嫌がる声が生徒の中では多いことがあった。その中で「地理巡検では交流ができたのでそのような機会をもっと増やしてはどうか」という意見や、「中高両校の生徒が一緒にいるなどもっと交流できないか」、「生徒会・部活動の交流をもっと活発にしてはどうか」という意見が出されていた。合同行事に関しては中高の生徒間の交流を促すような工夫が今後課題となってくるだろう。

(3) 教員の負担について

ほとんどの教員が「負担に感じない」と答えた。しかし、実際には打ち合わせなどで教員個人の作業量が増えたことは事実だということだった。教員には増えた分の作業量を負担だという意識がないということなのだろう。「今のところ大きな不満の声は出てきてい

ないが、負担を軽減する策の検討が課題として残されている」という声もあった。

(4) 学力低下の問題について

中高一貫教育導入によって上川高校が学力試験を行わず、「中高一貫教育による学習のまとめ」と面接による入学者選抜方法に変わったため、学力低下が生じないか心配される。この問題に対してほとんどの教師はその可能性は否定しなかった。しかし、その「学力」とは高校入試のための「詰め込み的な学力」のことで、その学力については低下する可能性はあるということだった。「中高一貫教育による学習のまとめ」と面接の中で必要とされるのは自分の「表現能力」を身につけることで、それを身につけるためには5教科の基礎基本は必要であるというのは教員の共通認識のようだ。基礎基本を身につけるためにFSを取り入れるなどしているのはこうした認識による。教員の中には、基礎基本や「表現能力」を確実に生徒に身につけさせるために、「入試が決まった生徒に対しては基礎学力を強化する指導を行ったり、総合的な学習にしっかり取り組まないと高校に入学できないようなシステムをつくるべきだ」という意見もあった。

(5) 課題と展望

最も多かった意見は「上川町全体に子どもを育てるという一体感が広がって欲しい」というものだった。地域の住民や父母の受け止めは全体的には好意的な反応で表立った反対は無く、学校側からのパンフレット配布や公開授業、住民むけのミニフォーラムの開催によって地域との接点は少しずつ増えている。しかし、「実際には中高一貫教育に関わっていない人はその内容をほとんど知らないのではないか」と考える教員がほとんどだった。中高一貫教育導入によって地域の子どもを育てるという意識が教員の間にはかなり広まったが、学校教育現場だけでは限界がある。今後はどうすれば地域の人々に中高一貫教育を理解してもらえるのかということを検討していく必要があると思われる。

また、「中高の学校間を移動する教員の負担や、中高の時程の違い（授業時間のずれ）による授業連携の困難さなどから併設型への移行が望ましい」とする声や、「地域の子どもを6年間のスパンで育てていくには中等教育学校への移行が望ましい」等の現在の連携型を変えるべきという声もあった。さらに、「上川町の少子化が教員数の減少に影響を与え、様々な授業展開や細かな指導等の魅力ある中高一貫教育のシステムが崩れてしまう」という教員数の減少を心配する意見もあった。

2 地域住民の中高一貫教育評価

地域住民のヒアリング調査では、小・中・高の各PTA会長と上川高校振興対策協議会会員の2名に話を聞くことができた。以下、今回のヒアリングの結果から地域住民の中高一貫教育導入への関わりと、住民の中高一貫教育への期待と評価について述べる。

(1) 地域住民の中高一貫教育導入への関わり

最初に住民に中高一貫教育導入のことが知らされたのは上川町の広報誌であった。その後導入に関わって住民が具体的に意見を述べる場というものは特に無かったらしい。「住民は中高一貫教育を導入することは知っているけれども、実際の中高一貫教育の内容について詳しく知る人は少ないのではないか」という意見が多かった。一方、PTA役員などの限られた住民は2000年の説明会で詳しく中高一貫教育の内容を知ることができた。た

だ、説明会では中高一貫教育の内容の説明だけであり、意見を述べる段階には無かったのが実情であつたらしい。「PTA総会の懇談会で話題になっても父兄の理解が不十分だったため、父兄から意見を述べる状況ではなかった」、「PTA役員の中で校長先生から意見を求められても専門的なのであまり言えなかった」という声もあり、全体的に住民が中高一貫教育に対して意見を述べることはほとんど無かったと言える。ただ、その中でも4、5年前から上川高校振興対策協議会の中から、観光学科をつくってはどうかという意見を出されていて、それが授業「大雪基礎」やアウトドア資格認定科目が新設されたことで、「ある程度意見が具体化されたのではと喜んでいる」という声もあった。

(2) 住民の中高一貫教育への期待と評価

現在の時点では今回お話を伺うことができた全ての方が中高一貫教育を高く評価していた。そして今後住民が中高一貫教育に期待するものとして親の立場と住民の立場からの2つの点があげられる。

親の立場からは、「受験勉強が無くなり、進学におわれる教育よりも人間性の育成や人間形成のための6年間を教育ができる」、「学力重視ではなく、体験を通した学習を6年間一貫して行なわれることによって子どもにとってプラスなってほしい」という期待の声が多かった。

また、住民の立場として期待するのは高校の存続である。少子化の影響によって高校の存続が不安視される中、町の中でも重要な雇用の場、人の集まる場である高校は町の経済に大きな影響を与える。中高一貫教育導入によって、新設された授業「大雪基礎」やアウトドア資格認定科目で観光産業の後継者を育成できることや、上川に魅力を感じて若者が上川に残ること、外から人が入ってくることによって上川町の人口の増加につながり、さらには観光客の増加、街の活性化につながるものとして住民は大きな期待を寄せている。しかし、その中でも「一般の住民は学校存続危機意識がなく、期待は薄いのではないだろうか」という指摘もあった。

3 まとめ

以上、中高教員と上川町住民の中高一貫教育評価をまとめた。中高教員の話の中から感じたことは、生徒一人一人を6年間という長いスパンで育てるために、できるところから今の教育を変えていこうとする前向きな姿勢であった。中高間の意見の差異が感じ取れなかったのも、両校が中高一貫教育に子どもの教育において大きな期待をかけており、それを協力し合って取り組んでいこうとする意識の表れのように感じ取れた。しかし、指摘にもあったように教員の負担は実際には増加している。中高1名ずつ加配がされているものの、今後少子化により学級減と教員の減少が考えられることもあるので、何らかの負担緩和策を早急に検討する必要がある。もちろん、これは学校だけでは解決できない性格の問題であり、行政の側が大きな課題を背負っているというべきである。

また、住民は中高一貫教育に「全面的にバックアップしたい」という声に代表されるように、その評価は高い。中高一貫教育が子どもにとってプラスになるのではという住民の期待、そして住民の期待の中で最も大きいのは高校存続が地域の活性化につながるということだった。「中高一貫教育を契機に父母や住民が多少は子どもの教育を考えるきっかけとなった」という声があり、町全体で子どもたちを育てるという意識を広げたということ

は大きな意味を持つものだろう。しかし、教員の指摘や住民の中からも指摘があったように、直接関わっていない住民にまでその意識が広まっているとは言い難い。住民の中では中高一貫教育はあくまでもスタートラインに立ったに過ぎない。

また、現在の上川町ではせつかく地元に残っても職が無いという状況があり、「町の取り組みとして上川高校卒業後の雇用の場を確保することが重要な問題である」という住民の指摘があった。これは簡単には解決できない問題であるが、少なくとも子どもたちが「町に残りたい」「戻ってきたい」と思うような町づくりをしていかなければならない。そして学校はそうした子どもを育てる教育を実践しなければならないし、そのためには住民が中高一貫教育の内容の理解を深め、意識を高めて、学校づくりに協力していく必要がある。

第4章 生徒と保護者の評価と意識傾向——アンケート分析から——

本章は、上川高校1年生と上川中学校3年生およびその保護者に対して実施したアンケート調査の結果から、生徒と保護者が上川町の中高一貫教育をどのような関心や意識のもとにいかなる評価をもっているかを分析する。なお、このアンケートは、上川高等学校、上川中学校、上川町教育委員会の協力を得て行われ、2002年8月23日に回収された。アンケートの集計結果は本稿末尾に集計表とグラフの形にして掲載してあるので参照されたい。

1 上川高校1年生の設問別分析

まず、上川高校1年生のアンケートの集計結果を設問ごとに分析する。

* 基本属性（【Q1】～【Q4】）

- ・ 性別…男 21、女 12（回収率 100%）
- ・ 出身中学校…上川中が 25 人、その他旭川の中学校が全部で 3 人、その他 5 人
- ・ 出身小学校…24 人が上川小学校、旭川の小学校が全部で 4 人
- ・ 中高一貫化の認識…33 人中 28 人が、本年度から正式に一貫化したことを知っている
と回答（ただし知らないと答えた 5 人も本来飛ばすべき以下の設問に回答している
ので、一貫化されたことは知っていると思われる）

【Q5】 どうやって知ったか

「中学校で（先生もしくは文書）」というのが 19 人。今の高 1 が中 3 のときに正式な決定がなされたので、この項目に集中するのは自然。他に「友達」が 3 人。メディアが 3 人いる。

【Q6】 いつ知ったか

実践校指定が 1998 年（今の高 1 生が小 6 の頃）、1999 年（中 1）・2000 年（中 2）と実践研究が続き、正式導入を決定したのが 2001 年（中 3）、実際に実施されたのが 2002 年（高 1）というわけであるから、回答が「中 3」に集中するのは当然である（28 人）。
「中 2」に知ったというのが 1 人、「上高に入ってから」というのが 3 人（9%）いる。

【Q7】 中高一貫教育についてきちんとした説明を受けたことは

「はい」が 21 人、「いいえ」が 12 人。「きちんとした説明」の捉え方が人によって違うということであろう。

【Q8】 パンフや広報誌を読んだことは

「ない」ほうが多く 25 だが、「ある」人も 8 人いる。【Q5】では「パンフや広報誌から知った」が 0 人なので、生徒への説明の後で広報にのったものと判断できる。

【Q9】 中高一貫の 3 タイプを知っているか

上川が連携型だと「知っている」人が 13 人と多い。何らかの形で説明されたものだと思う。しかし、「知らない」は 20 人でもっと多い。

【Q10】 中高一貫の取り組みで知っているものは？

「環境学習」（30 人）、「中学の音楽の先生による高校での授業」（27 人）、「F S」（26 人）、「総合学習の連携」（25 人）がかなりの認知度の高さである。「合同行事」（24 人）、

「学力テストがない」(23人)、「検定の合同実施」(23人)、「TT」(22人)、「アウトドア資格」(22人)も高い。どの選択肢もまんべんなく知られているとよい。ただ、「部活の合同練習」「進路学習」については12人とやや低めであった。

全員が経験しているはずなので全ての項目を全員「知っている」はずなのだが、認知度100%の項目はなかった。それらが「ある」ことは知っているが、「中高一貫の取り組みである」ことは知らない可能性が考えられる。

【Q11】 やりがいのあるもの

「保健体育」がトップで22人。次が「英語」14人、数・理・音がそれぞれ11人。「総合的な学習」は8人とどまった。

【Q12】 上中のFSについて

「授業理解に役立つ」(10人)、「科目を選べるのがよい」(18人)が最も多い。「もっと多くを」が10人。全体的にかなりの好評価である。ただ、「意欲がわからない」(6人)「勉強にならない」(6人)、「負担増」(5人)、「必要ない」(5人)などの項目にも一定の回答があった。

【Q13】 TTについて

「授業がよくわかる」が(10人)、「高校の先生が新鮮」(9人)、「他の授業科目でも」(8人)、「緊張する」(6人)、「あまり変わらない」(5人)。全体的に肯定的評価が多い。ただ、「もっと回数を増やして欲しい」は少なかった(1人)。

【Q14】 大雪地理巡検について

「自然や環境を学ぶのは面白い」(14人)、「地元について学ぶのはおもしろい」(8人)、「興味関心がわく」(10人)と肯定的評価が多い一方で、否定的評価も「おもしろくない」(11人)、「意欲わからない」(7人)、「負担」(7人)、「観察場所等を減らしてほしい」(8人)と多い。

【Q15】 進路啓発学習について

「よく分かる」(9人)、「将来を考えるのに役立つ」(8人)、「刺激を感じる」(7人)。全体的にはやや肯定的評価が多いが、否定的評価もそれなりにあった。「面白くなかった」(5人)、「減らしてほしい」(5人)など。

【Q16】 大雪基礎・大雪研究について

「地元について学べるのでよい」(17人)、「地元について考えるのは大切」(16人)が圧倒的に多い。「学力」や「興味・関心」の項目もそれぞれ8人と高い。自分たちが住む地域について学習することに大きな意義を見出しているといえるだろう。

【Q17】 アウトドア資格

「将来役立つ」(18人)、「積極的に取得したい」(9人)に対して、「どのような資格か分からない」も11人と多かった。役立つだろうとの認識がある一方で、その内容については詳しく知らないとの側面もあるようだ。

【Q18】 中学生と関わる機会が増えたことについて

「年下の考え方を知る機会」(12人)、「行動や考え方が参考になる」(13人)、「既知の人が多いためやりやすい」(14人)など、とまどいを感じている中学生とは対称的に落ち着いて受け止めている様子が見える。ただ、「どう接していいかわからない」(9人)、「別々に行ってほしい」(8+1人)という意見も多く、異年齢集団との関わりに不安は残

るようである。

【Q19】 現在の上高一貫の評価

肯定的評価で多いのは、「継続・計画性」(11人)、「ゆっくり将来を考えられる」(17人)、「地元のことを学べる」(11人)。逆に否定的評価で多いのは、「友達の範囲が広がらない」(9人)などである。中学生よりもさらに肯定的評価が多い。

【Q20】 どんな教育を望むか

「就職に役立つ」(22人)、「資格がとれる」(20人)が多い。「学力が身につく」(18人)、「進学に役立つ」(18人)も多い。「人間・自然」や「社会や世界」のことを知る授業も各16人、15人と多い。およそベーシックに教育に求められる役割を望んでいる傾向がうかがえる。

しかし、「地域のことを学ぶ」(8人)、「社会人や地域の人と関わる」(8人)、「地元で貢献できる力をつける」(6人)が比較的少なかった。「地元から出て行ってもやっていける力をつける」が13人いたこととも考え合わせると、地域・地元に向けた教育よりはそれほど強く望まれていないといえる。

【Q21】 上高以外で希望した進路は

「なかった」が16人。旭川市内の高校が合わせて14。上高志望者と旭川の高校(専門科ふくむ)志望者がほぼ半々に分かれた形である。

【Q22】 上高志望理由

「近い」が最多で19人。次が「少人数指導」(13人)、「学力レベル上の問題」(12人)、「自然環境」(11人)、「経済事情」(11人)。学力面と経済面、地理面が代表的な理由となった。中高一貫の実践を理由に挙げた回答はあまり多くない。

【Q23】 学区制度について

「現行のままで良い」が7人、「廃止すべき」が6人、「拡大すべき」をあわせて6人、「どうでもよい」が7人。現行を支持する者と拡大を支持する者に分かれたといえる。旭川へ行きたかった生徒は選択幅の拡大を望んだのかもしれない。「どうでもよい」は学区制度についてあまり理解していないととるのが妥当ではないか。

【Q24】 将来つきたい職業

「技師・技術者」が5人いる以外は、どの項目もちらほらとしか選択されていない。「その他」への記述も人それぞれで多彩な職業が記入されている。やはり中学生に比べて将来を考えている人は多いようだ。

【Q25】 高卒後の進路

「大学」(5人)、「専門学校」(7人)、「就職」(10人)。全体的に進学志向と就職志向が半々といえる。「まだ考えていない」は7人。

【Q26】 将来どこで就職したいか

「旭川」「その他の道内」「道外」がそれぞれ7、9、5人。地元は0だった。脱地元志向が如実にうかがえる。「まだ決めていない」が10人いるのは、この段階では自然なことであろう。

【Q27】 将来地元に住みたいか

「はい」が2人、「いいえ」が13人、「分からない」が16人。脱地元志向がかなり多い。

【Q28】 進路情報、指導、学習機会

(1)も(2)も(3)も「まあまあ十分」が最多だが、(1)と(3)は不満足さが比較的多い。だんだん将来のことを考え始めていることの現われといえるだろうか。

【Q29】学校生活

「ふつう」(12人)、「たいへん満足」(8人)、「まあ満足」(6人)と全体的に満足の方が多い。満足の理由としては、「勉強しやすい」「学習に身が入りやすい環境」などが記述されている。

2 上川中学校3年生の設問別分析

上川中学校3年生のアンケートの集計結果を設問ごとに分析する。

*基本属性(【Q1】～【Q3】)

- ・ 性別…男 18、女 18 (回収率 100%)
- ・ 出身小学校…約 8 割が上川小学校、近辺も含めると 95%
- ・ 中高一貫化の認識…36 人中 35 人が、本年度から正式に一貫化したことを知っているという回答(ただし知らないと答えた 1 人も本来飛ばすべき以下の設問に回答しているので、一貫化されたことは知っていると思われる)

【Q4】どうやって知ったか

「中学校で(先生もしくは文書)」というのが 21 人。保護者・地域の人・友達という口コミメディアを合わせて 6 人。マス・メディアが 3 人。「町や推進委の広報誌」からは 0 人。上川中生であれば、「中学の先生から」というのが最も多いのはごく自然。

【Q5】いつ知ったか

実践校指定が 1998 年(今の中 3 生が小 5 の頃)、1999 年(小 6)・2000 年(中 1)と実践研究が続き、正式導入を決定したのが 2001 年(中 2)、実際に実施されたのが 2002 年(中 3)というわけであるから、回答が「中 2」に集中するのは当然である(27 人)。

「中 1」に知ったというのが 4 人、「中 3」になってからというのが 3 人いる。

【Q6】中高一貫教育についてきちんとした説明を受けたことは

「ある」が 22 人。「ない」が 8 人。「ある」の具体例としては「集合 HR で」「学活で先生に説明された」などの記入があった。「その他」6 人はいずれも「忘れた」という趣旨の記入である。

【Q7】パンフや広報誌を読んだことは

「ない」ほうが多く過半数だが、「ある」人も 14 人(39%)と多い。パンフは配布されているはずだが、読んでいなかったり、忘れていたりするのかもしれない。

【Q8】中高一貫の 3 タイプを知っているか

上川が連携型だと「知っている」人が 24 人と多い。「知っている」と答えた生徒の中に「参観日の時先生から説明」があったと書いている者がいる。「知らない」も 12 人いる。

【Q9】中高一貫の取り組みで知っているものは

「FS」(30 人)、「学力試験なし」(30 人)、「総合の連携」(26 人)が非常に認知度が高い。「検定の合同実施」(25 人)、「中学音楽の先生の高校での授業」(22 人)、「TT」(21 人)、「合同行事」(17 人)、「部活」(15 人)、「環境学習」(15 人)、「進路学習」(15

人)も認知度が高い。「アウトドア資格」(5人)のみは高校の内容のためか認知度が低かった。全体的にはよく知られているといえる。

アウトドア資格以外は全員が経験しているはずなので全員「知っている」はずなのだが、認知度100%の項目はなかったのは、それらが「ある」ことは知っているが、「中高一貫の取り組みである」ことは知らないという可能性が考えられる。

【Q10】 やりがいのある授業

「実技系教科」が12人で最も人気が高い。普通の5教科は10人。FSと、「総合のテーマ学習」がそれぞれ8人、「総合の進路啓発」が7人と、いずれも15%ほどの支持である。「スキル学習」は1人と明らかに少ない。

【Q11】 FS (ファンダメンタル・スタディ) について

「授業理解に役立つ」(13人)、「科目を選べるのがよい」(11人)が最も多い。他の項目はほぼ同じ選択数である。肯定的評価が多いが、「負担増」「意欲わかぬ」など否定的評価も無視できない数ある。

【Q12】 TT (ティーム・ティーチング) について

「TTでも1人の先生でもあまり変わらない」(15人)と言うのが群を抜いて多い。「回数を減らして欲しい」という意見も6人あった。ただ、「よく分かるのでたいへんよい」(7人)、「高校の先生が新鮮」(5人)、「他の授業でも導入して」(5人)と良好な評価も多い。成功している側面はあるといえるが、効果はあまり感じていない生徒も多い。

【Q13】 大雪地理巡検について

「面白くない」が12人で最も多い。「普通科目の方を重視せよ」(5人)、「意欲わかない」(5人)もあるので否定的評価がかなり大きいことが伺える。ただ、「興味関心がわく」(9人)、「地元の～面白い」(7人)、「自然～面白い」(6人)と肯定的評価も決して少なくない。評価がわかれた行事といえるだろう。

【Q14】 進路啓発学習について

「興味関心」(12人)、「よく分かる」(12人)、「将来に役立つ」(12人)、「増やして」(7人)とかなりの高評価である。ただ、「面白くない」(9人)、「負担が大きい」(6人)という意見も一定数ある。

【Q15】 地域産業体験について

「地元のことを学ぶことができる」(15人)、「将来に役立つ」(9人)が多い。「たいへんさがわかる」(12人)も注目される。大切なことを学んでいるけれども、面白いと感じていない生徒(8人)、興味・関心が湧く内容とは感じていない生徒(3人)もある程度いるようである。

【Q16】 大雪基礎、大雪研究について

「大切だ」(7人)、「おもしろくなさそう」(7人)の両評価はあるが、高校の科目だけに「よく知らない」が16人で圧倒的。その他の4つの回答の記述も全て「よく知らない」に入れられるものである。

【Q17】 アウトドア資格について

「将来役立つ」が8人だが、「分からない」が圧倒的(15人)。「その他」の6人もほとんどこれに入る。役立ちそうだけど、実際のところどんな資格なのかかわからないという状態がうかがえる。

【Q18】 高校生と関わる機会が増えたことについて

「接し方が難しい」(9人)、「面白くない」(10人)の否定的評価と、「何とも思わない」(13人)の中立的評価に大別される。「その他」にも「引っ込み思案になって、自分の意見を言えない」との記述があった。発達段階も関係しているのか、異年齢間の交流にとまどいがあることが読み取れる。

【Q19】 現在の上川一貫の評価

「友達の範囲が広がらない」(5人)、「他高校に進学しにくい」(7人)などの否定的評価は多かったが、「ゆっくり将来を考えられる」(9人)、「継続・計画性」(6人)、「地元のことを学べる」(6人)などの肯定的評価の方が多かった。進学について不安があるという側面もあるが、全体としては継続的な教育によるゆとりや安心を感じる生徒が多いといえる。

【Q20】 卒業後の進路

「上川高校」(10人)、「旭川の普通高校」(10人)、「未定」(8人)に大きく分かれた。特に上川と旭川とで二分されているのが注目される。

【Q21】 上高志望理由

「近い」が最多で5人。次が「継続性」(3人)、「学力レベル上の問題」(3人)、「学力を身につけられそう」(3人)、「資格がとれる」(3人)。回答対象者が10人なのでこれでも結構高い回答率である。「習熟度別授業」、「大雪基礎」など、「熱心な指導」、「知り合いがいる」、などの項目は0だった。中高一貫だから、という傾向はさほど強くない。

【Q22】 上高以外の高校志望理由

「やりたい部活がある」が6人と多かった。上高は規模の面で、部活の数や強さに不利さがあるのだろう。「就職に有利」は7人いたが、「進学に有利」は3人とやや低めだった。部活と就職が大きなポイントとなっている。「地元から離れたい」も4人いた。

【Q23】 学力入試がないことについて

「ゆとりがある」と答えたのが9人。それに対して、「勉強する意欲がなくなる」(4人)、「評価方法に不安」(6人)、「学力面の不安」(5人)と不安を見せる回答が多かった。「分からない」も10人いた。「その他」にも「学力に個人差が出そうだ」「総合などでがんばらないといけないから大変」などの記述があり、ゆとりを感じる一方で生徒のとまどいが見取れる。

【Q24】 学区制度について

「どうでもよい」が14人で最多だが、本当にどうでもよいと思っているというより、学区制度についてあまり理解していないととるのが妥当だろう。「その他」にも「意味がよく分からない」という記述があったし、無回答も7人と多めである。「現行のままでよい」(4人)、「廃止すべき」(7人)もやや多かった。

【Q25】 将来つきたい職業

「まだ考えていない」が13人で圧倒的。やはり中3の段階で将来の職業まで考えているのは少数派といえる。

【Q26】 高卒後の進路

「まだ考えていない」(8人)、「就職」(6人)、「専門学校」(4人)、「大学」(3人)の順。中3の段階なのでまだ考えていない人が多いのは無理もない。全体的には進学志向と就職

志向が半々。

【Q27】 将来どこで就職したいか

これも「まだ考えていない」が15人で最多。「旭川」が6人、「道外」が5人。「地元」はわずか1人である。「未定」が多いので断言はできないが、この段階では地元志向は弱いといわざるをえない。

【Q28】 将来地元に住みたいか

「はい」が4人、「いいえ」が15人、「分からない」が11人。かなりの脱地元志向といえる。評価については上に同じ。

【Q29】 進路情報、指導、学習機会

(1)も(2)も(3)もほぼ同じ分布といえる。「まあ十分」、「少し不足」にほぼ集中するので、だいたい適当な情報量があると生徒は判断しているようである。

【Q30】 学校生活

「まあ満足」(11人)、「ふつう」(12人)、「少し不満」(5人)。少し不満の理由として「中高一貫になっているんなことが始まって大変」が挙げたのは注目される。とはいえ「ふつう」に比べ「まあ満足」がそれなりに多く、不満も少なく、学校生活に対しておおむね満足しているとみていいだろう。

3 高校1年生・中学校3年生の意識傾向と評価

上川中学校・高校で実施したアンケート調査のうち、中学3年生および高校1年生を対象に行ったアンケート結果について総括する。

(1) 中高一貫教育の認知度

まず、両校における中高一貫教育の認知度について述べる。実際に通っている生徒たちなので、自分たちの学校が中高一貫教育を実施していることは当然ながら認識しているわけだが、中高一貫と関わる取り組みには何があるのか(何が中高一貫に関わる取り組みで何がそうでないのか)を完全に把握しきってはいない可能性がある。特に上川高校で取得できるアウトドア資格については、中学生・高校生ともに認知度が低かった。また、高校では一部の部活で行われている中学との合同練習についての認知度もやや低かった。

(2) 中高一貫に関わる教育実践の評価

次に、中高一貫教育に関わる教育実践の評価について述べる。ファンダメンタル・スタディ(FS)と中高の先生の協力によるティーム・ティーチング(TT)の実施については、中学生・高校生ともおおむね好意的に受け止めているが、学習効果についてはあまり変わらないという生徒も特に中学生に少なくないといえる。総合的な学習として行われている「大雪地理巡検」は肯定的評価と否定的評価がともに多く、「進路啓発学習」「地域産業体験」は役立ってはいるものの面白さには必ずしも結びついていない側面があるといわざるをえないようだ。また、「大雪地理巡検」や「大雪基礎」・「大雪研究」について、地元のことを学ぶことに意義を見出しているが、面白くないという意見も一定数ある。

総合学習についても、FSやTTについても中学生より高校生の方が肯定的評価が多い。総合学習などをがんばらなければならないという大変さを感じている中学生が一定おり、その負担感が中高の差となってあらわれたものと考えられる。この差は年齢的な発達段階

の差から来るものか、それとも中高の教育の差あるいは入試を控えているかいないかの差から来るものかは検討を要する。

(3) 中高一貫教育をどう見ているか

中高一貫教育をどう評価しているかについて次にみる。高校生と中学生が関わる機会が増えたことについては、発達段階の問題もあり、とまどいを感じている者が特に中学生に多いことが分かるが、同時に中高一貫教育によって中学と高校がそれなりに強く結合することで他の高校へ進学しにくくなることや、友達関係が広がらなくなることへの不安もうかがえる。「ゆっくりと将来を考えられる」など継続した教育への安心感が最も強いが、一方で、上川高校を選ぶ(選んだ)理由としては、「近さ」「経済事情」「学力レベル」が三大柱であり、中高一貫校だからという趣旨の理由は少ない。

(4) 進路意識

最後に進路意識についてだが、高卒後の進路については、まだ考えていない生徒が多いが、中学生・高校生ともに全体的には進学志向と就職志向が今のところ半々といえる。どこで就職したいかに対しては、旭川が多く、地元と答えた生徒はほとんどいない。将来地元に住みたいかについても、住みたいと答えた生徒はわずかで住みたくないと答えた生徒は多数であった。現段階ではこれを現状としてまず受け止めなくてはならない。

中高一貫教育の導入は上川高校の存続、ひいては地元の産業などの人材確保を通して地域の活性化を図るため、地域が学校を盛りたてるという意図があったわけである。しかし、総合学習などで生徒たちが地元について学ぶことに興味を示しているにも関わらず、将来のことを考えるときには脱地元志向が強いというギャップが目をはく。これには、地元での就職の受け皿が不足しているなどの進路事情があることが考えられる。アウトドア資格についても、役には立ちそうだが、どう役に立つのか今ひとつ見えないと感じている生徒たちの様子が浮かんでくる。上川町に若い世代の雇用の受け皿を用意することが生徒たちの地元についての学びと関心を活かす条件になるのだが、それができなければ上のギャップを生徒たちはつねに抱えていかねばならないだろう。総合的な学習などで地元に対する興味・関心・知識を養っていくこととあわせて、たとえばアウトドア資格が本当に生徒たちにとって希望をもてたり有用なものと認識できるものなのかどうかをきちんと示すことが必要である。

4 上川高校1年生保護者の設問別分析

上川高校1年生保護者のアンケートの集計結果を設問ごとに分析する。

* 基本属性 (【Q1】～【Q3】)

- ・ 回答数 23 (男 5、女 18) (回収率 69.7%)
- ・ 回答者の子どもの性別は、男 14、女 9
- ・ 回答者自身が上川町の出身であるかについては、出身者 10、非出身者 13

【Q4】上川高校と上川中学校が連携し、本年度(2002年度)から正式に中高一貫教育校となったことを知っているか?

1人を除いて知っているとの回答を得た。

【Q5】上川高校が中高一貫教育校になった(なる)ことを最初にどうやって知ったか?

「新聞やニュース」が7人と最も多い。「町の広報」「エスポワール（上川町中高一貫教育推進事業広報紙）」によって知ったというのがいずれも0人という現状は、質問の「最初に」という部分に着目すれば、学校や自分の子どもから流れてくる情報の方が早く、その後「町の広報」「エスポワール」が発行される時には、保護者としては既知の事実になっていたものと推定される。

【Q6】上川高校が上川中学校と中高一貫教育校になった（なる）ことを最初に知ったのはいつか？

実践校指定が1998年度（今の高1が小6の時）から始まり、正式に導入決定の運びとなったのが、2001年度（今の高1が中3の時）であるので、「子どもが中学3年生の時」が12人と最も多いのは当然の結果であろう。「子どもが中学2年生の時」が8人いるが、これは当時実践研究の最中で、中高一貫に移行する雰囲気があったからであると考えられる。

【Q7】中高一貫教育についてきちんと説明を受けたことがあるか？

「ある」が14人に対して、「ない」が8人で、きちんとした情報もっていない保護者が一定数存在する。

【Q8】上川町における中高一貫教育のパンフレットや広報紙などを読んだことはあるか？

【Q5】とも関連するが、「ある」が18人、「ない」が5人と、比較的目的を通しての現状がうかがえる。

【Q9】中高一貫教育のタイプには中等教育学校（完全6年一体型）、併設型、連携型の3つがあるが、上川の中高一貫教育が連携型であることを知っているか？

「知っている」が16人と過半数は超えているものの、「知らない」も7人おり、全体的に見ると、中高一貫教育制度について十分な理解は得られていないようである。

【Q10】上川町の中高一貫教育の実践に関して知っているものは？

比較どの選択肢においても選択数が多い。FS（19人）やTT（17人）に対する保護者の認知度も高い。しかし、「高校でアウトドア資格が取得できる」（11人）、「中学校と高校における進路学習」（10人）については、保護者の認知度があまり芳しくないようである。

【Q11】上川中学校のファンダメンタル・スタディ（FS）の時間についてどう思うか？（上川中学校出身生徒の保護者のみ回答）

「子どもの学力を高めるのに役立っている」（7人）、「子どもの学習する意欲を高めるのに役立っている」（6人）、「子どもが勉強したい科目を選べるので良い」（9人）、「高校の先生も教えてくれるので子どもが理解しやすい」（8人）と、保護者はFSに関して全体的に好印象を抱いているようである。ただ、「どのような授業がよくわからない」が6人おり、保護者には授業展開の形態等に関してはあまり知られていないのかもしれない。

【Q12】上川中学校の英語・数学でのTT（ティーム・ティーチング）についてどう思うか？（上川中学校出身生徒の保護者のみ回答）

「授業がよくわかるので大変良い」（7人）、「高校の先生に会えるのが新鮮、楽しい」（8人）と、これについても、FSと同様に、好意的な印象を抱いていると判断できる。

【Q13】中学生と高校生が合同で参加する「合同総合学習」（「大雪地理巡検」「進路啓発

学習」「地域産業体験」)についてどう思うか？

「自然や環境を学ぶのは子どもにとって面白い」(14人)、「子どもは地元の人々の生活や仕事のことを学ぶことができる」(13人)と、保護者から見れば、この「合同総合学習」は非常に好意的なものとして映っているようである。ただ、「その他」で「保護者も参加できるようにしてほしい」という意見もあり、進路等について積極的に考えたいという意識が感じられる。

【Q14】上川高校の学校設定科目「大雪基礎」についてどう思うか？

「子どもが地元の自然や暮らしについて学ぶのに役立つ」(14人)、「地元が抱える問題・課題について考えるのは大切なことだ」(11人)と、保護者は「地元」との関連性において、この「大雪基礎」という科目の重要性を捉えている部分があるように考えられる。その反面で、「どのような授業かよくわからない」も5人いる。

【Q15】上川高校で取得できるアウトドア資格(基礎分野)についてどう思うか？

「将来役立つ」が9人いるが、「どのような資格なのかかわからない」も8人いる。これは、保護者にとってアウトドア資格が将来役に立つと感じていても、それがどのように生かせるのか、また、資格自体どういうものなのかかわからないというのがあるものと思われる。

【Q16】中高合同授業・行事(中学生と高校生が合同で参加する授業・行事)で中学生と高校生が触れ合うことをどう思うか？

「異年齢の子どもが触れ合うことは良いことだ」(16人)、「交友範囲が広がるので良い」(10人)などと、保護者の間では全体的に中高合同授業・行事に対して肯定的に捉えているようである。

【Q17】現在の上川の中高一貫教育について、あなたは どう思うか？

「中学校の先生と高校の先生に継続して子どもを見てもらえるので安心だ」と回答したのが12人と最も多い。他にも、「中高にわたって継続的・計画的な授業が行われている」「中学校と高校で特色のある教育活動が行われている」が8人と、全体的には現在の上川の中高一貫教育には賛成であることが読み取れる。しかし、保護者が中高一貫教育特有の問題点である「友達の範囲が広がらない」(6人)や「子どもはのんびりしてしまって学習や進路、将来の目標が考えられない」(3人)などの面で不安を抱いている点も見逃せない。

【Q18】上川高校にどんな授業や教育を望むか？

「仕事や進路、人生のことを考える授業」が13人で最も多く、その他にも「基礎基本が身につく授業」が12人と、選択数が10人以上のものを見ると、基礎・基本を広範に学習し、かつ社会に出てからそれを生かせる授業・教育を望んでいることが伺える。興味深いのは、「社会人、大人、地域の人と関われる授業」(9人)、「地域のことを学ぶ授業」(6人)、「地域の担い手を育てる教育」(6人)と、地域密着型の教育を望む保護者も少なからず存在する点である。ただ、「地元から外に出て行ってもやっていける力をつける教育」(8人)も望まれており、地域を重視する教育だけでなく、そのような力をいかに身につけさせるかの検討と具体的実践も同時になされなければならないだろう。また、「進学に役立つ授業」と「就職に役立つ授業」を望む保護者も共に6人と、少なからず存在している。

【Q19】上川町の中高一貫教育について情報は十分か？

十分と回答しているのが13人に対し、不足と回答しているのが8人と、数の上では情

報が十分と感じている保護者の方が多いが、中高一貫教育が始まって間もないせいか、情報量の不足を感じる保護者も一定数存在する。

【Q20】上川町の中高一貫教育についてどのような情報を望むか？

「校長・教頭や先生方」や「担任」と話す機会が必要と回答した保護者はいずれも5人とどまり、保護者の関心は「学校における子どもたちの様子」や「中高一貫教育制度」（いずれも11人）に向いているようである。

【Q21】子どもを上川高校へ進学させた理由は？

選択数を見ると、子どもの高校入学前に、上川高校の具体的な特色ある授業内容に魅力を抱いていた保護者は全体的に少ない。ただ、「少人数指導が行われ、1人1人に行き届いた指導がなされている」（14人）や「熱心に指導してくれる先生がいる」（9人）というように、上川高校における教育実践は比較的良好に信頼されていると考えられる。また、「自宅から近い」（13人）、「学力的にちょうど合っている」（11人）、「家庭の経済的事情」（8人）と、中高一貫教育を実践しているからといって進学させたわけではない、という理由が多い。

【Q22】上川高校以外に行かせたかった子どもの進路はあったか？

「なかった」と回答したのが5人に対して、「旭川市内への普通高校へ進学」と回答したのが8人と、このアンケートで見える限りでは、子どもを旭川の高校に進学させたい保護者が若干ではあるが上回った。【Q21】で、「子どもが行きたいと言っているから」が8人と、子どもの意思に任せた保護者も多かったようにも見受けられるが、保護者としては旭川への進学を考えていた人もいたということである。

【Q23】高校卒業後の子どもの進路についてどのように希望しているか？

今回のアンケート調査の結果に限って言えば、大学・短大への進学希望が4人、専門学校への進学が4人、民間企業や公務員への就職希望が8人と、進学・就職がほぼ同じ割合である。また、「まだ考えていない」という保護者も6人いる。

【Q24】子どもには将来どこで就職してもらいたいのか？

「地元（上川町とその周辺）で就職（家事手伝い含む）」が2名に対して、旭川市やその他の道内地域での就職が8人と、保護者は子どもに対して上川町での就職をあまり望んでいないようである。また、【Q23】と同様に、「まだ考えていない」という保護者も9人おり、高1夏の段階では当然と考えられる。

【Q25】子どもは将来の進路を考えるための情報や学校の指導を十分に受けていると思うか？

(1)～(3)を総合してみると、どの質問も「十分」「不足」と感じている保護者がほぼ半数ずついる。(3)の「大学や専門学校、職業について学ぶ機会があるか」という設問に「少し不足している」（9人）と感じている保護者が多いようである。

【Q26】上川第2学区は上川高校と愛別高校の2校で1つの学区となっているが、高校入試における学区制度に関して、どのように考えているか？

「現行の学区制度のままで良い」と回答した保護者は6人だけで、学区拡大を望むのが9人、学区制度の廃止により高校の自由選択を望むのが6人と、現行の学区制度に対して拡大・廃止を求める保護者が多いことが浮き彫りにされた結果となった。これは、上川高校の入っている上川第2学区に高校が2校しかなく、選択の余地があまりないことに起因

していることが考えられる。

【Q27】近年子どもの数が減ってきているが、上川高校をどうすべきだと思うか？

「小規模でも充実した教育や丁寧な教育、特色ある教育を実施し、入学者を増やして存続させる」(8人)、「小規模でも地元で通える上川高校を絶対に存続させてほしい」(6人)と、上川高校の存続を願う保護者が圧倒的に多い。「その他」が5人いるが、これは複数回答をした人のもので、これらは全て存続を望む選択肢を選択しており、選択肢自体が非常に似通ったものが多かったために複数回答したものと思われる。

【Q28】あなたの周りで上川の中高一貫についてどのような評判を聞くか？

「大変良い」「良い」と答えたのが合わせて12人いるが、2002年4月から正式導入ということで、開始して日が浅いせいか、「あまり聞かない」(8人)という回答も多い。

【Q29】子どもを上川高校へ進学させて良かったと思うか？

このアンケート調査を実施した夏の時点では、「大変満足している」「まあまあ満足している」が合わせて17人と、大方の保護者は上川高校における教育に及第点を与えているようである。

5 上川中学校3年生保護者の設問別分析

上川中学校3年生保護者のアンケートの集計結果を設問ごとに分析する。

*基本属性(【Q1】～【Q3】)

- ・ 回答数31(男4、女27)(回収率86.1%)
- ・ 回答者の子どもの性別は、男15、女16
- ・ 回答者自身が上川町の出身であるかは、出身者16、非出身者14、無回答1

【Q4】上川中学校と上川高校が連携し、本年度(2002年度)から正式に中高一貫教育校となったことを知っているか？

全員が「はい」と回答。自分の子どもの進学もあるせいか、認知度は非常に高いと言っ
て良いだろう。

【Q5】上川中学校と上川高校が中高一貫教育校になった(なる)ことを最初にどうやって知ったか？

「中学校の先生」(8人)や「新聞・ニュース」(6人)が多い。しかし、高校1年生保護者と同様に、「エスポワール(上川町中高一貫教育推進事業広報紙)」で知ったのは0人である。

【Q6】上川中学校と上川高校が中高一貫教育校になった(なる)ことを最初に知ったのはいつか？

実践校指定が平成10年度(今の中3が小5の時)から始まり、正式に導入決定の運びとなったのが、平成13年度(今の中3が中2の時)である。「中1以前」が「中2」と同数(12人)であるのは、平成12年度までの実践研究の最中で、中高一貫に移行する雰囲気があったからであると考えられる。

【Q7】中高一貫教育についてきちんと説明を受けたことがあるか？

「ある」(16人)が「ない」(14人)を若干上回っているが(「その他」1人)、きちんとした情報もっていない保護者が一定数存在する。

【Q8】上川町における中高一貫教育のパンフレットや広報紙などを読んだことはあるか？

「ある」が 28 人と、何らかの形で中高一貫教育に関するパンフレットや広報紙を読んでいる保護者は多い。

【Q9】中高一貫教育のタイプには中等教育学校（完全 6 年一体型）、併設型、連携型の 3 つがあるが、上川の中高一貫教育が連携型であることを知っているか？

「知っている」が 21 人と、過半数は超えているものの、「知らない」も 8 人おり、全体的に見ると、中高一貫教育制度について十分な理解は得られていないようである。

【Q10】上川町の中高一貫教育の実践に関して知っているものは？

比較的どの選択肢においても選択数が多い。F S（23 人）や T T（21 人）、「合同総合学習」（23 人）、「学力検査がない」（21 人）など、全体的に保護者の認知度も高い。さらに、「中高合同実施（各種検定）」（18 人）、「アウトドア資格」（14 人）、「進路学習」（14 人）と、これらについての認知度も一定程度以上の水準に達しているものと読み取れる。

【Q11】上川中学校のファンダメンタル・スタディ（F S）の時間についてどう思うか？

「選択できて良い」（14 人）、「意欲を高める」（10 人）と、保護者は F S に関して全体的に好印象を抱いているようである。ただ、「よくわからない」が 10 人おり、保護者には授業展開の形態等に関してはあまり知られていないのかもしれない。

【Q12】上川中学校における英語・数学での中高の先生による T T（ティーム・ティーチング）についてどう思うか？

「大変良い」（8 人）、「新鮮、楽しい」（8 人）、「他の科目でも」（7 人）、「増やしてほしい」（5 人）と、F S と同様に、保護者は T T を好意的に見ているようである。

【Q13】中学生と高校生が合同で参加する「合同総合学習」（「大雪地理巡検」「進路啓発学習」「地域産業体験」）についてどう思うか？

「刺激になる」（15 人）や「いろいろな進路があるとわかる」（14 人）をはじめとして、好意的な回答が多く、合同総合学習も一定以上の保護者の支持が得られているものと読み取れる。

【Q14】中高合同授業・行事（中学生と高校生が合同で参加する授業・行事）で中学生と高校生が触れ合うことをどう思うか？

「異年齢の触れ合いは良い」が 20 人と過半数を超えており、保護者の理解は得られているようである。

【Q15】上川高校の学校設定科目「大雪基礎」についてどう思うか？

「地元の自然・生活学べる」（19 人）、「地元の問題・課題を考えられる」（10 人）と、保護者は「地元」との関連性において、この「大雪基礎」という科目の重要性を捉えている部分があるように考えられる。その反面で、「どのような授業かよくわからない」も 6 人いる。

【Q16】上川高校で取得できるアウトドア資格（基礎分野）についてどう思うか？

「将来役立つ」が 8 人いるが、「よくわからない」も 10 人いる。これは、保護者にとってアウトドア資格が将来役に立つと感じていても、それがどのように生かせるのか、また、資格自体どういうものなのかかわからないというのがあるものと思われる。

【Q17】 現在の上川の中高一貫教育について、あなたは思うか？

今回のアンケートでは、子どもが中 3 で高校受験を控えているせいか、「先生が継続して安心」(10人)、「継続的・計画的な授業」(8人)、「ゆっくり進路選択できる」(8人)と肯定的な意見に対して、否定的な意見としては、「のんびりしてしまう」(12人)、「他の高校に進学しにくい」(12人)、「友達の範囲が広がらない」(9人)と、二分化したものの、全体的に否定的な意見が肯定的な意見を若干上回っている結果が得られた。この結果から、保護者は現在の上川の中高一貫教育について「安心」と「不安」の二面性を感じていることが読み取れる。

【Q18】 上川町の中高一貫教育について情報は十分か？

「十分」が13人に対し、「あまり十分でない」(14人)、「全く十分でない」(4人)と、情報が十分でないと感じている保護者の方が多いようである。

【Q19】 上川町の中高一貫教育についてどのような情報を望むか？

特に多かったのが、「学校での子どもたちの様子」(17人)、「授業のこと」(13人)、「中高一貫制度のこと」(10人)の3項目であった。高1保護者と同様に、学校の先生(校長や教頭を含む)との話す機会を多くもちたいという希望はそれほど多くない。

【Q20】 中高一貫教育では高校入学時に学力検査がないがどう思うか？

「勉強する気がなくなって困る」(14人)、「入試時の面接や『中高連携した学習のまとめ』での評価に不安がある」(13人)、「子どもの学力がわからなくなり不安」(8人)や、さらに、「その他」での記述で、「上高入学後も学力低下はさらに続くと思う。上高ではどれだけ授業に力を入れているのか。」や「自分の子は受験勉強をすることなく安心している。中学生の学力をつけなくてよいのか不安」という意見もあり、学力検査がないことに不安を感じている保護者が多い。

【Q21】 中学卒業後の子どもの進路は？

「上川高校へ進学」が18人と多いが、旭川市内への高校へ進学予定の者も15人おり、上川高校か旭川市内の高校かで二分化している。

【Q22】 上川高校へ進学させたい理由は？

「自宅に近いから」(11人)という回答が最も多かったが、次に多かったのは「上中と継続した教育を行っているから」(8人)で、保護者としても、中高一貫の意義をある程度は理解している結果になっているといえよう。また、「家庭の経済的事情により」も7人いる。

【Q23】 子どもをその学校(上川高校以外の高校)に進学させたい理由は？

「子どもが行きたいと言っているから」(10人)が最も多く、進学はあくまで子どもの自主性に任せている、という保護者も多いようである。また、「学校の規模が大きく生徒や先生の数も多いから」も5人おり、上川高校の規模の小ささを理由に挙げる保護者もいた。

【Q24】 (保護者にとっての) 高校卒業後の子どもの進路希望は？

大学3人、短大5人、専門学校10人で進学は18人に対して、就職は4人であり、現時点では進学を望んでいる保護者が圧倒的に多い。また、「まだ考えていない」も13人いる。まだ高校に入学していない段階では「まだ考えていない」がある程度多いのは当然である。

【Q25】 将来どこで就職してほしいか？

【Q24】と同様に、「まだ考えていない」は9人いるが、「その他の道内地域で就職」が10人、「旭川市で就職」が7人に対して、「地元で就職」は8人であった。

【Q26】子どもは将来の進路を考えるための情報や学校の指導を十分に受けていると思うか？

・情報・進路指導・大学や職業などを学ぶ機会いずれをとっても不足しているという結果である。中3段階なので、大学や職業などを学ぶ機会が少ないのは致し方ないが、情報や進路指導での情報をもっと得たいという要求のあらわれであると考えられる。

【Q27】高校入試における学区制度をどう思うか？

「現行のままでよい」という回答が7名にとどまったのに対して、「学区制度を廃止すべき」(8人)、「他地域から上高に入学しやすいように学区を拡大すべき」(7人)、「受験できる高校の選択肢を増やすために学区を拡大すべき」(5人)と、自分の子どもが受験期を迎えていることもあってか、現在の学区制度に対して拡大・廃止を求める保護者が多い。

【Q28】近年子どもの数が減ってきているが、上川高校をどうすべきだと思うか？

「存続させてほしい」(14人)、「残す必要がある」(8人)、「入学者を増やして存続させる」(8人)と、上川高校存続を訴える回答が圧倒的多数を占めた。この背景には、町の活性化や経済的な側面などがあるだろう。

【Q29】上川の中高一貫教育の評判は？

「良い」(11人)という回答も多いが、2002年度(今年度)から正式実施に移されたせいか、「あまり聞かない」という回答も15人に上った。

【Q30】上中の教育に満足しているか？

「満足」(10人)、「普通」(8人)、「不満」(10人)の3タイプに大きく分かれた。自由記述欄に見られた文章を2つ紹介したい。

・(「普通」と回答した保護者の意見)

学校との関わりが少ない分、見えない部分は沢山あります。正直、担任の先生の事も全くどんな方なのか、未だに私自身つかめませんし、このままきっと卒業を迎えるのでは…と思います。

・(「大変不満である」と回答した保護者の意見)

今一度中高一貫教育内容について見直し、授業に力を入れて下さい！全く学力向上へはつながっておりません！中高合同教育開始から学力がさらに低下した事について中学校ではどのように捉えておられるのですか。どの保護者の方でも入試がなくなったことにより、子ども達が勉強をしない：学力低下を心配しております！！学力向上へ力を注いで下さい。

6 高校1年生保護者・中学校3年生保護者の意識傾向と評価

上川中学校・高校で実施したアンケート調査のうち、中学3年生保護者および高校1年生保護者を対象に行ったアンケート結果について総括する。

(1) 中高一貫教育の認知度

まず中高一貫教育の認知度であるが、上川中・高が中高一貫教育教育校であることは、中3・高1いずれの保護者も、先生や新聞・ニュースなどを媒介にしてほぼ全員が知って

いるという結果が得られた。上川町における中高一貫教育のパンフレットや広報誌については、大多数の保護者が目を通して現状がうかがえるので、情報の普及に一応の成果を挙げているといえるだろう。しかし、中高一貫教育に関する学校側からの説明は一応行われてはいるものの、情報量の不足を感じている保護者も少なからずいることから、このような保護者に対して学校側は教育実践の内容や制度について知る機会を継続的に設けていくことが重要である。

(2) 中高一貫にかかわる教育実践の評価

次に、上川中・高の中高一貫教育にかかわる実践、特色ある活動内容であるが、いずれの保護者もFSやTT、合同総合学習、学力検査がない、などについては、具体的な内容まではともかく、非常によく知っているようである。FSやTT、また合同総合学習や中高合同授業・行事において中高生が触れ合うことについては、いずれの保護者も好意的に受け取っている。それらと比較して、アウトドア資格取得に関する認知度はあまり芳しくない。これはこの資格が最近になって注目されてきた資格であるために、他の資格と比較すると保護者にとっては馴染みの薄いものであり、十分に内容を理解できていない、ということが考えられる。上川高校の学校設定科目「大雪基礎」は、いずれの保護者も地元の自然環境や問題点との結びつきの上で好意的に評価している。ヒアリング調査のときでも、地域との連携の中において様々な試みが行われており、上川町の地域性と教育が有機的にうまく連結できているのではないかと印象を受けた。学力検査がないという中高一貫教育における1つの特色については、中3の保護者の多くは子どもの学力が低下することなどに不安を抱いている。これから高校へ進学しようとする中3の保護者が特にこの問題に敏感になっているのではなかろうか。

(3) 中高一貫教育をどう見ているか

上川の中高一貫教育を全体としてみると、いずれの保護者も、「中・高で先生が継続しており、継続的・計画的な授業が行われるので安心」などといった中高一貫教育の長所だけではなく、「子どもがのんびりしてしまう」や「友達の範囲が広がらない」、「他の高校に進学しにくい」など、短所も十分に認識している様子がうかがえる。ただ高1の保護者が、「中学校と高校の先生に継続して子どもを見てもらえる」、「継続的・計画的な授業が行われている」、「子どもがゆっくり進路を考えられる」といった高い肯定的評価をしているのに対して、中3の保護者が「子どもがのんびりしてしまう」、「他の高校に進学しにくい」、「友達の範囲が広がらない」といった項目を多く選んでおり、ここでも子どもが高校進学を控えている中3保護者の方が中高一貫教育については不安感が強い。こうした不安感には、中高連携して実績を積んで応えていくしかないであろう。

中高一貫教育の長所・短所とは関係なく、「自宅から近い」や「家庭の経済的な事情」などの理由で子どもを上川高校に進学させた（進学させたい）保護者の数は、中3生徒・高1生徒ともに最も多い部類に属しており、必ずしも中高一貫教育の長所を評価して上川高校に進学させた（させよう）というわけではないことが読み取れる。こうした保護者がどのような教育要求をもっているかをつかむことが重要である。

(4) 子どもの進路に関する意識

最後に、子どもの進路についてであるが、子どもに将来どこで就職してもらいたいかにについては、いずれの保護者も上川町での就職をあまり望んではいないようである。学区制

度に関しては、学区の拡大や廃止により、自由な学校選択を希望する親が多く、これは上川高校が上川第2学区という上川高校・愛別高校の2校しかない狭い学区に属している現状への不満を表したものであろう。しかし、このような希望は抱えているものの、経済的な事情により子どもに上川高校に進学してもらいたいと願う中3の保護者や、事実子どもは経済的な事情で上川高校に通学しているという高1の保護者も少なからず存在する。また、上川高校の存続の是非を問う設問では、保護者の多くが上川高校存続を訴えており、この部分に、保護者の意識の中における矛盾—学区拡大と上川高校存続との間の相克—を読み取ることができる。学区の拡大は自由な学校選択を保障する代わりに、上川高校の存続を危うくさせるといっても過言ではないからである。つまり、現在でも町外—多くは旭川市内—の高校に進学する生徒もおり、自由な学校選択の下ではさらにそれを助長させることにもなりかねない。そのような状況になった時、果たして上川高校は生き残れるであろうか。上川高校の存続を望む背景には、上川町内の活性化や経済的な側面など、様々な要因が考えられるが、それらを含めて、上川中・高が中高一貫教育の中で魅力ある学校づくりをしていくことは急務なのである。

7 アンケート分析のまとめ

最後に、上に見た生徒と保護者のアンケート総括から、共通点や差異等を指摘してこの章を終えることにしたい。

(1) 中高一貫教育の認知度

中高一貫教育の認知度については、生徒・保護者ともにほぼ全員が上川中・高が中高一貫教育校であることを知っているようである。しかし、これは当然の結果としても、上川中・高で行われているそれぞれの行事や活動が、中高一貫教育に関するものであるかどうかについての理解度は、生徒・保護者共にあまり高いとはいえない。

(2) 中高一貫に関わる教育実践の評価

上川中・高の教育実践、行事・活動の内容に対するとらえ方は、生徒・保護者で異なっているようである。例えば、FSやTTについては、保護者の多くが肯定的印象を抱いているのに対して、それらを学校で実際に受けている生徒としては、肯定的評価が多い反面、FSについては「負担が増える」や「意欲がわかない」、TTについては「回数を減らしてほしい」などという否定的評価も一部には見受けられた。また、FSやTTに対する保護者の肯定的印象も、具体的な内容まで理解している保護者は少ないことが考えられ、総合的に見ると、生徒と保護者の間には多少の受けとめの差があることは否めない。学校側としては、生徒、特に中学校3年生が負担感を感じていることの中味をどう評価し、それにたいしていかなる対処をしていくかを検討する必要があるのではないだろうか。

(3) 中高一貫教育についてどう見ているか

上川中・高の行事・活動を通して形成される異年齢間の人間関係についても子どもと保護者の差異が見られる。保護者は全面的に評価しているが、当事者の生徒、特に中学3年生からみると、自らが思春期という精神的に非常に不安定な時期にあることも影響しているせいか、接し方には多くの生徒が戸惑いを感じているようである。

中高一貫教育の実施によって学力検査がなくなることについて、中3生徒は上川高校へ

の入学決定の「評価方法に不安を感じてはいる」が、「ゆとりがあるのでやりたい勉強ができる」という生徒が多い。しかし、中3保護者は「入試の時の面接や評価方法に不安」を感じ、また「子どもが勉強する気がなくなって困る」と考えている者が多い。中高一貫教育についての設問では、高1生徒とその保護者は「継続的・計画的教育」、「ゆっくりと進路を考えられる」、「先生に継続して見てもらえるので安心」というのが非常に多く、かなり肯定的に見ているが、中3生徒の場合やはり「ゆっくりと進路を考えられる」、「継続的・計画的教育」が多いものの、「上川高校以外に進学しにくくなる」や友人関係や教育面での狭さを示す項目を選んでいる者も多くなり、中3保護者になると肯定的評価項目も多いが「子どもがのんびりしてしまう」、「上川高校以外に進学しにくくなる」の2項目が最多となり、強い不安をのぞかせている。ここには高校入試を過ぎてしまった高校生およびその保護者とこれから高校進学しようとしている中学生とその保護者の意識の違いと、中学生とその保護者の意識のずれがはっきりと出ている。

中学校3年生とその保護者の不安に対しては、保護者総括のところで述べたように、上川中学校と上川高校がきちんと学力向上や進学の要求に応じて実績を積んでいくしかなく、こうした要求と不安に意識的に配慮した学校づくり、教育実践の構築が求められているのではなかろうか。また、生徒・保護者ともに上川高校への進学理由として中高一貫教育にまつわる理由を挙げたのはあまり見られず、むしろ、経済的事情や自宅から近いなどと回答したのが多かったことにも注意すべきであろう。旭川に行きたくない、行きにくい層の進学や学力の要求に応じて行くことも必要であり、その面からも上川高校の実績づくりが問われている。

(4) 進路について

進路については、将来上川に就職したい（させたい）か否かについて問うた設問に対しても、生徒・保護者共にしたくない（させたくない）と回答した方が多かった。また旭川に出たい（出したい）という生徒と保護者も半数ほどいる。その一方で地域の学習に対して興味を抱いている生徒も一定数おり、また保護者の大多数は上川高校の今後についてその存続を望んでいた。生徒と保護者の矛盾した意識のありようは上川町の現実をあらわしているといえる。上川町の地域活性化ということを考慮すれば、学校側が地域と連携して、地域社会に関心のある生徒をいかにして育てていくかが重要となろう。

上川町の中高一貫教育は事前の助走期間を終え、今年度（2002年度）正式に導入の運びとなった。まだ開始して1年も経過していない段階でのアンケート調査ではあるが、評価できる部分と共に、課題も浮き彫りになったことは事実である。生徒や保護者の意見に積極的に耳を傾けていく過程で、学校側が地域社会の力も借りながら、いかにして生徒や保護者のニーズに適切に対応できるかが問われている。

終章 連携型中高一貫教育のもたらしたもの

以上、北海道上川町における中高一貫教育について、その制度の導入の経過、上川中学校・上川高校における教育実践の内容、教員と住民へのヒアリング結果、上川中学校3年生と上川高校1年生およびその保護者へのアンケート結果を分析することによって、連携型中高一貫教育の実態を明らかにし、その実像を描くことに努めてきた。私たちの調査結果のポイントをあらためて整理しておこう。

1 導入のプロセスについて

まず、上川町における中高一貫教育制度導入のプロセスについて。

中高一貫教育制度は、国の政策を受けて順次地方で導入が図られている。国はこの制度の導入を奨励しているが、その導入方法は「選択的導入」であり、地方の実情にあわせて導入されている。北海道教育委員会とその有識者会議の方針は、比較的導入しやすい連携型を特に過疎・少子化問題を抱える郡部の小規模校に地域の実情にあわせて導入するというものであった。併設型と中等教育学校は十分な議論・研究の後に導入するとしており、慎重な姿勢を取っている。

道教委は、最初の連携型の研究校として1998年に3地域6中学・高校を指定した。道内最初の中高一貫教育校はこの中から4年間の実践研究期間を経て誕生した。そのプロセスを見ると、実践協力校指定を受けてからも、当初は上川中学校、上川高校、上川町教育委員会、三者三様に中高一貫教育の本格的な実施に消極的な姿勢があった。しかし、ある時点(2000年)で町教委の姿勢が積極的なものになったことが大きな転機となった。町教委のこの姿勢の背後には上川高校存続(=地域の活性化)があった。しかし、町教委は単に地域活性化のために中高一貫教育制度導入に乗り出したのではなく、この制度の持つ教育上のメリットが理解されたからであった。高校側は自らの存続を意識してはいたであろうが、そうではあっても中学校、高校ともに中高一貫教育の教育的意義についての共通理解を形成したことが、導入の前提となっていた。連携型中高一貫教育制度の導入には、市町村教委と市町村立中学校の姿勢が鍵となること、関係者間に教育的メリットについての共通理解の形成があつてはじめてなしうるものであること、の2点をここでは指摘できる。地域活性化という理由は否定し得ないが、それを教育的メリットに重ね合わせて実現していくという志向をもつことが重要であろう。

2 上川中学校・上川高校の教育実践

序章で述べたように、中高一貫教育の教育上のメリットとデメリットは表裏一体である。よってそのメリットをいかにデメリットに転化させないような教育実践を行うかが重要となる。

学力検査がないのでゆとりをもって学校生活を送ることができる、6年間の計画的・継続的な教育によって効果的な一貫した教育を行うことができる、といった教育のゆとりや計画性・継続性について、藤田英典氏はそれが中高一貫教育校に通う一部の子どもたちに

のみ与えられるメリットでしかないと批判しており、中高一貫教育はそこに通う子どもたちについてはそうしたメリットを保障しているかのような印象を与える批判となっている。しかし、地方の連携型中高一貫教育に関しては、現実には、学力検査のないことが子どもの学力を低下させるのではないかと、6年間の継続性やゆとりというものの子どもの学習意欲を低下させることになるのではないかと、といった学力・学習意欲面でのデメリットにどう対応するかが課題となっている。

上川町の中高一貫教育校における教育実践はこの課題に意識的に対応しようとしていたと見てよかろう。そこでの教育実践の軸は、大きく2つあった。1つが「6年間の一貫した地域・環境学習及び進路学習」であり、いま1つが基礎学力の充実である。

前者では、中学校と高校それぞれ独自の進路指導や進路学習、「大雪地理巡検」・「進路啓発学習」・「地域産業体験」の3つからなる中高合同総合学習、GLOBE事業を利用するなどした中高合同あるいは各校単独の水質調査・自然学習、高校での「大雪『基礎』」・「大雪『研究』」・「アウトドア基礎」、拓殖大学北海道短期大学と連携したアウトドア実習授業などの科目群が置かれ、それによって継続的・計画的な地域・環境学習と進路学習の機会を生徒がもちうるようにされている。

後者では、まずFSが注目される。中学生が必要な学力をきちんと身につけて高校に移行できるようなカリキュラム構造の構築が始まっていた。高校教員が中学校に出向いて実施されるTTや上川高校入試で中高教員の指導を受けながら中学3年生がテーマ学習を行って結果をまとめたものである「中高一貫教育の学習のまとめ」を用いるのも同じ文脈でとらえることができる。

これらの効果や評価についてアンケート調査を行ったところ、保護者は、これらを否定的に見る意見は非常に少なく、おおむね高い評価を与えていたといえる。高校1年生も多少不満を述べている部分もあるが、肯定的な評価がどちらかというが多かった。しかし、中学3年生の場合、必ずしもプラス評価ばかりでなく、多くの新しく開始された取り組みがたいして面白くなく感じられたり、それを負担に感じたりしている内面がうかがえた。

中高一貫教育のメリットであるゆとりや継続性・計画性という点については、高校1年生とその保護者がかなり肯定的に見ている。中学3年生は入試の評価方法に不安を感じているが、ゆつくりと将来を考えられると肯定感が強い。それに対して、中3の保護者は子どもが勉強をしなくなる、上川高校以外の高校に進学しにくくなるという強い不安感を示していた。

今回のアンケート調査からいえることは、上川高校に進学した生徒とその保護者は中高一貫教育をかなり肯定的に評価しているが、中3とその保護者は二面的であったり批判的であったりしている。すでに本論で述べたことだが、中学校3年生の不安感や負担感、中3保護者の不安感の中味をどう評価し、それにいかに対処していくかが今後の重要な課題となろう。

しかし、それにしても上川町の中高一貫教育の教育実践はある大きさの広がりを生み出してきていると評価することは可能であろう。資料「上高の価値創造」を参照されたい。中学校から大学院までがこれまでは線で結ばれることなく配されていたとすれば（入試という接点では結ばれてはいた）、上川中学校と上川高校が中高一貫教育という線で結ばれることによって上川高校の上の大学、大学院までも接続・連携の線が引かれるようになった。

ず評価したいというのが、この段落の最初の一文の意味である。

アンケートでは、旭川に出たい生徒、出したい保護者の層の存在が明らかになった。十分な分析ができていないが、子どもの学力・勉強や進路に敏感な中3の保護者はそれと重なる存在ではないか。この層をとらえるには上川高校はその不安＝期待に応える姿勢をもつことが重要である。また上川高校に進学する（した）場合も、自宅から近い、経済的事情を理由にあげた者が多く、そうした制約をもったこちらの層も、上川高校（＝上川中学校）に対して子どもの学力・進学面での充実した教育実施を要求せざるをえない。どちらにたいしても、少子化・過疎化の下、上川高校が存続していくにはこうした進路実現における実績をあげることが大きな課題となっていると思われる。もっともそれを従来のいわゆる予備校的な進学準備教育に終わらせては意味がない。連携型中高一貫教育校が、進学にも対応しつついかに内容をもった学力を作りあげていくことができるのかが問われている。少子化・過疎化のもと、上川中学校・上川高校が子ども、保護者、住民から信頼を得ること、これが現時点では特に重要である。

3 連携型中高一貫教育の制度的課題

すでに本論で述べているので簡単な確認にとどめるが、連携型中高一貫教育には制度的な課題が多い。教員の負担の問題＝加配の充実の必要性、教員・管理職人事の継続性の困難、カリキュラムの制約＝特例の欠如、予算問題である。これらの制度改正による改善・充実が望まれる。この点で、たとえば教員・管理職の引継ぎがうまくいかなかったり、教員の負担が過剰になったりして、学校運営や授業実践に影響をきたすようであれば、中高一貫教育は破綻しかねない。逆に、もし制度・条件上のメリットがいま少し明らかになれば、連携型中高一貫教育はおそらく増加するであろう。

4 中高一貫教育批判論について

序章で記した3つの検証すべき中高一貫教育への批判点についてはいかに答えるべきであろうか。

まず中高一貫校がエリート校化するという批判点については、これは序章でも触れたように社会的背景が大きく作用する。上川第2学区ではそもそも定員割れの状態が続いており、エリート教育という理念をもって学区を越えて生徒を募集するような取り組みをすれば別だが、上川中学校と上川高校がエリート校化する可能性はほぼない。また連携型であり、6年間の一貫した受験準備カリキュラムを組むことも難しい。上川町という地域を対象とした場合、この批判点は検証の課題からはずしておいた方がよいものである。

次に教育上の利点は問題点と表裏一体であるという批判点については、慎重な検討を要する。上述したように学力・学習意欲の低下の可能性やそれへの対策としてのFSやTTが生徒に必ずしも全面的には支持されていないこと、総合学習などの新たな取り組みへの負担感、入試方法や進路選択上の不安感など、教育上検討すべき課題が見られた。しかし、全般的な少子化の下でこれらの課題が中高一貫教育の導入によってのみ生じたものということもできない。上川中学校、上川高校では、むしろ学力問題に対応する実践や学習意欲

を高め、また生徒の学びの幅と進路面での将来の可能性を広げる取り組みを積極的に実施してきており、従来になかった豊かさの教育実践が実施されつつあると見ることができるとはなかろうか。明らかになった生徒・保護者の負担感、不安感は、教育上の利点と問題点の表裏一体論を支持しているともいえるが、問題は利点を問題点に転化させない実践的取り組みが行われているかであろう。そうした視点に立てば、上川町の中高一貫教育は相応の努力を行っているというのが調査者の実感である。

これまで中高関係をめぐっては、高校入試が中学生に与える重圧には相当のものがあり、それを何とかしたいという思いが広範に存在してきた。しかし、高校入試の存廃論議は、より大きくは中高の関係をどう構築していくかをより本格的に問うことによってなされなければならない。連携型中高一貫教育の取り組みを見てみると、高校入試がなくなったわけではないが、入試（学力検査）の一点でつながる従来の中高関係から一步踏み出そうとしていることが分かる。一部にとどまっていた中高関係を大きく変えることにはならないが、上川町の中高一貫教育の努力の中には新たな発展的な中高関係創出の萌芽がたくさん詰まっていると評価できないであろうか。

中高の関係者の間からは、より本格的に中高一貫教育を進めていこうとすると、町立の併設型あるいは中等教育学校にまで行き着くことになるかもしれないという声が聞かれた。発展的な中高関係の創出という方向で連携型から併設型・中等教育学校に進めば、それは6年制中等教育学校の「民主的な『先導的試行』」（井深）、「意義のある中高一貫教育校」（藤田）となるかもしれない。しかし、ここではそのような方向の議論が出てきているということを指摘するにとどめよう。

最後に、中高一貫教育導入の理由と「選択的導入」について述べておきたい。藤田氏は中高一貫教育導入の本音が地域社会活性化にあることを問題にしていた。確かに教育上の意義をおざなりにするのは問題であろう。しかし、地域社会の維持というものと子どもの教育環境・条件の維持はかなり重なる部分を大きい。地域社会活性化を単に放棄するだけでは都会に人を集めるだけで、わが国社会の発展につながらないのではないか。子どもの教育環境・条件の充実と地域社会活性化を重ね合わせていくという発想、地域の内発的発展の中に学校教育の充実を位置づけるという視点をもつならば、地域社会の発展という理由はけっして否定すべきものとはいえないであろう。

また、「選択的導入」の是非も難しい論点であるが、上川町を見ていえることは、中高一貫教育制度を地域が自覚的に選び取ってこれが実現したこと、それによって地域・町教委の意識、学校の取り組み・教師の意識、学校と地域の関係が変わったことである。上川町の取り組みはこの新しい制度を導入しなくても可能な実践ではあると思うが、制度の導入によって初めてそれらが実現されたのも事実なのである。だからといって「選択的導入」を全面的に肯定することはできないが、ここではとりあえず「自覚的選択」が地域における教育の発展を生み出しつつあるとうことを指摘しておきたい。

5 おわりに

職業に就くことの難しさ、社会の物質的な豊かさ、家族関係の変化などによって、子どもが大人に移行する時期が遅くなってきていると言われている。また生涯学習時代の本格

的な到来とも言われる。このような時代的变化のもと、高校教育の位置も変化している。これまでの高校教育は完成教育機関であり、進学準備教育機関であった。しかし、大学でさえも一般教育の重視がいわれる現在、高校教育は生涯学習社会を生きるための基礎教育を行う機関としての性格がより鮮明になってきたのではなかろうか。この時代に中高一貫教育が実施されたことは、そこに多様な社会的要請がはさまれているようにも、生涯学習社会の中で高校を中学校と結んだ基礎教育の一貫に明確に位置づけることを意味する。これを中高一貫教育の歴史的意義をとらえる仮説としたい。そういう意味では中高一貫教育は、必然である。

このような位置づけを得た中高一貫教育の基礎教育とは、しかし狭い意味の基礎基本、レベルの低いものを意味しない。それは生涯学習社会に自立していく基礎であり、子どもそれぞれの多様な自立に結びつく幅の広さや豊かさをもつものでなければならない。子どもの自立を用意する豊かな教育を構築すること、これが中高一貫教育の本質的役割である。この役割をどう具現化していくべきか、その実践が問われている。

〔付記〕本稿は、北海道大学教育学部の授業科目「教育行政学調査実習」（2002年度前期）において北海道上川町における中高一貫教育（2002年度導入）を対象に行った調査をまとめたものである。調査を実施するに当たって、上川高校、上川中学校、上川町教育委員会、北海道教育委員会にご協力いただいた。上川高校校長太田眞氏、教頭工藤慶明氏、上川中学校校長河野高好氏、教頭清治信一氏、上川町教育委員会教育長伊林伸也氏、学校管理課長河本義幸氏、北海道教育庁企画総務部教育政策室高校改革推進係長櫻井良之氏、高校改革推進係主事今村隆之氏は、ご多忙の中、こころよく調査に応じていただいた。また上川高校と上川中学校の先生方、地域住民の方々もヒアリングに丁寧に答えてくださった。アンケートに答えてくださった方々（上川中学校3年生・上川高校1年生とその保護者）を含めて、各位に厚くお礼を申し上げます。とりわけ多大のご協力、ご支援をいただいた上川高校の太田眞校長に感謝申し上げます。（横井）

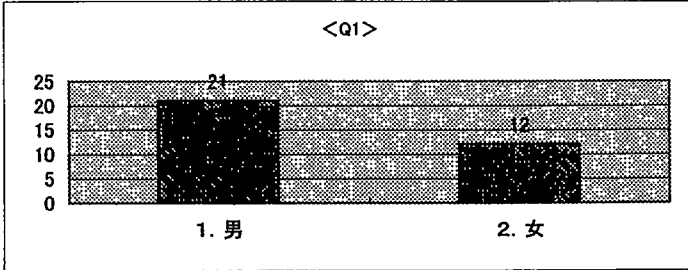
付録 アンケート集計表・グラフ

①上川町の中高一貫教育に関するアンケート 上川高校 1年生

上川町の中高一貫教育に関するアンケート① 高校1年生(回答数33・回収率100%)

【Q1】性別を教えてください。(〇を1つ)

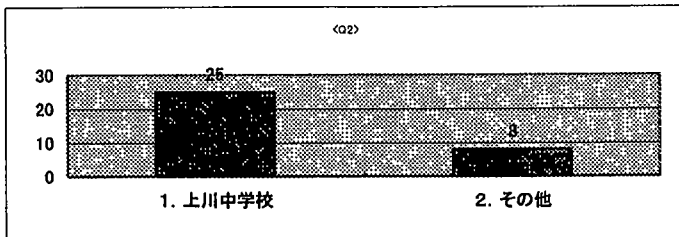
選択肢	選択数
1. 男	21
2. 女	12



【Q2】出身中学校はどこですか？(〇を1つ)

選択肢	選択数
1. 上川中学校	25
2. その他	8

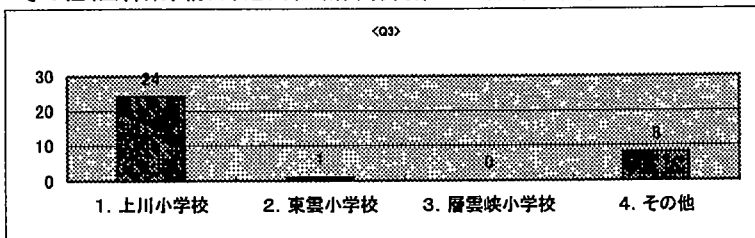
* その他(当麻、旭川北部、旭川、東京都青梅第二、不明が各1、愛宕が3)



【Q3】出身小学校はどこですか？(〇を1つ)

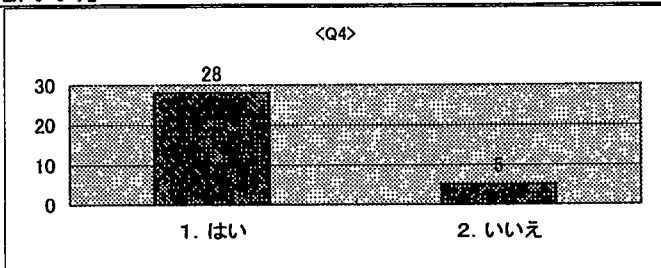
選択肢	選択数
1. 上川小学校	24
2. 東雲小学校	1
3. 層雲峡小学校	0
4. その他	8

* その他(西神楽、朝日、旭川、当麻、青梅第二が各1、愛宕東が2)



【Q4】上川高校が上川中学校と連携し、本年度から正式に中高一貫教育校となったことを知っていますか？(〇を1つ)

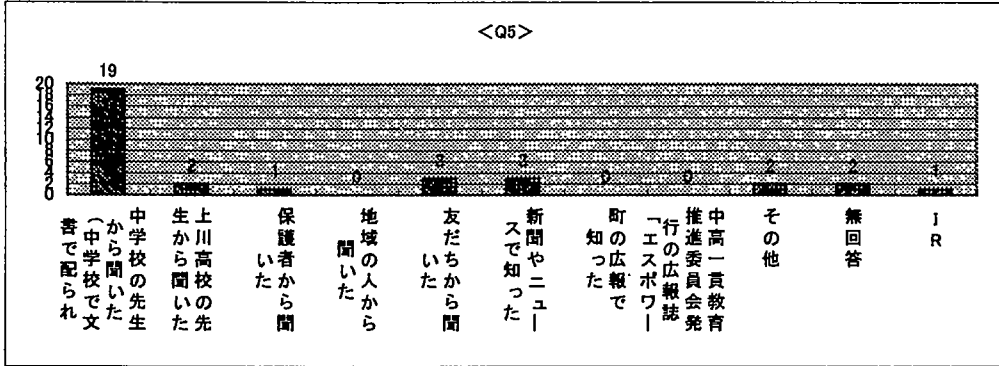
選択肢	選択数
1. はい	28
2. いいえ	5



【Q5】上川高校と上川中学校が中高一貫校になった(なる)ことを最初にどうやって知りましたか？(〇を1つ)

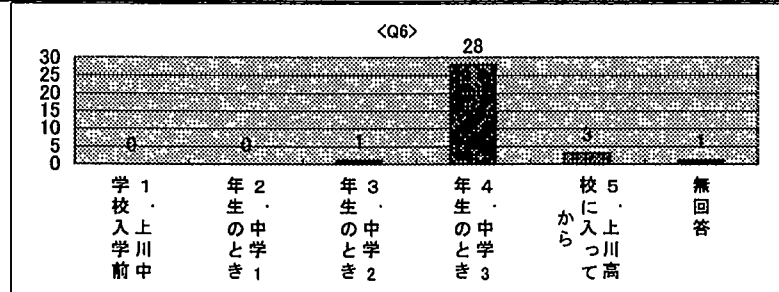
選択肢	選択数
1. 中学校の先生から聞いた(中学校で文書で配られた)	19
2. 上川高校の先生から聞いた	2
3. 保護者から聞いた	1
4. 地域の人から聞いた	0
5. 友だちから聞いた	3
6. 新聞やニュースで知った	3
7. 町の広報で知った	0
8. 中高一貫教育推進委員会発行の広報誌「エスポワール」で知った	0
9. その他	2
無回答	2
IR(1, 2, 3, 5の4つを選択)	1

*その他は無記入2



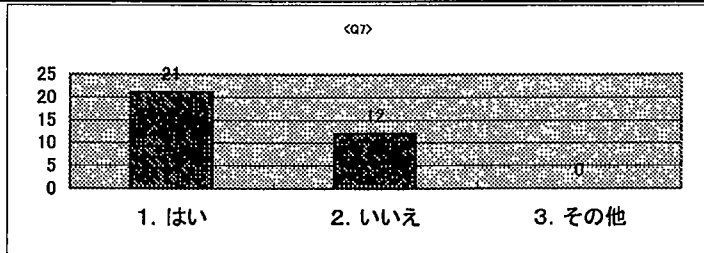
【Q6】上川高校と上川中学校が中高一貫校になった(なる)ことを最初に知ったのはいつですか？(〇を1つ)

選択肢	選択数
1. 上川中学校入学前	0
2. 中学1年生のとき	0
3. 中学2年生のとき	1
4. 中学3年生のとき	28
5. 上川高校に入ってから	3
無回答	1



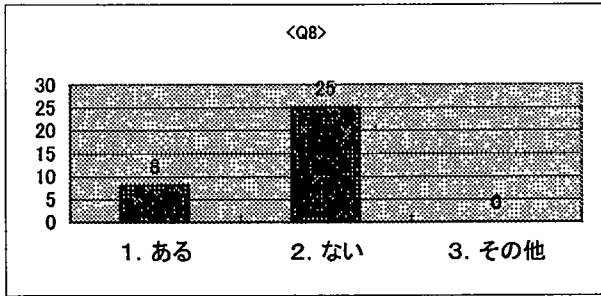
【Q7】中高一貫教育についてきちんと説明を受けたことがありますか？(〇を1つ)

選択肢	選択数
1. はい	21
2. いいえ	12
3. その他	0



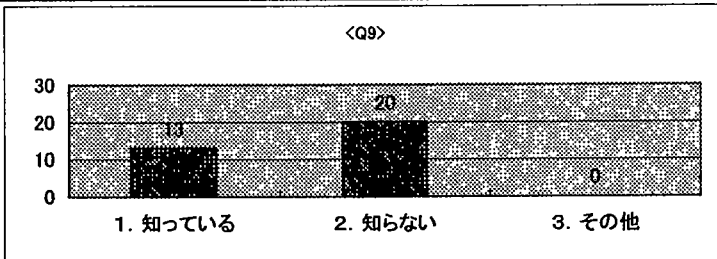
【Q8】上川町における中高一貫教育のパンフレットや広報紙などを読んだことはありますか？(○を1つ)

選択肢	選択数
1. ある	8
2. ない	25
3. その他	0



【Q9】中高一貫教育のタイプには中等教育学校(完全6年一体型)、併設型、連携型の3つがあります。上川の中高一貫教育が連携型であることを知っていますか？(○を1つ)

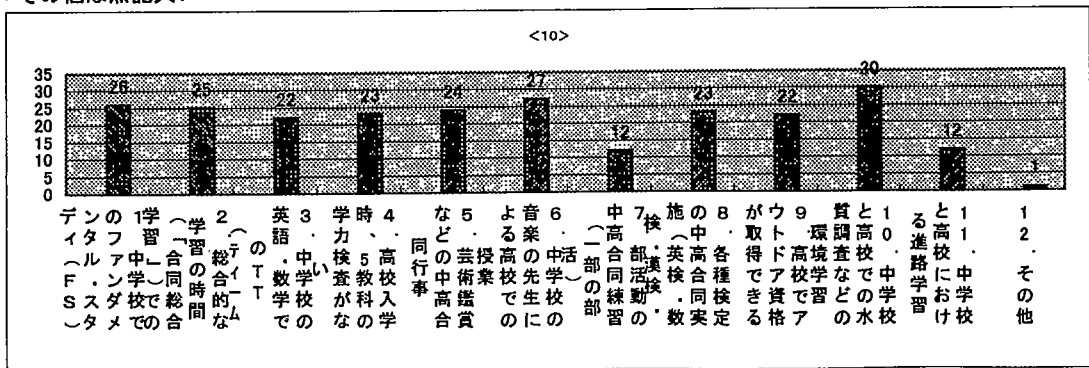
選択肢	選択数
1. 知っている	13
2. 知らない	20
3. その他	0



【Q10】上川町の中高一貫教育の取り組みに関して知っているものを全て選んでください。(○をいくつでも)

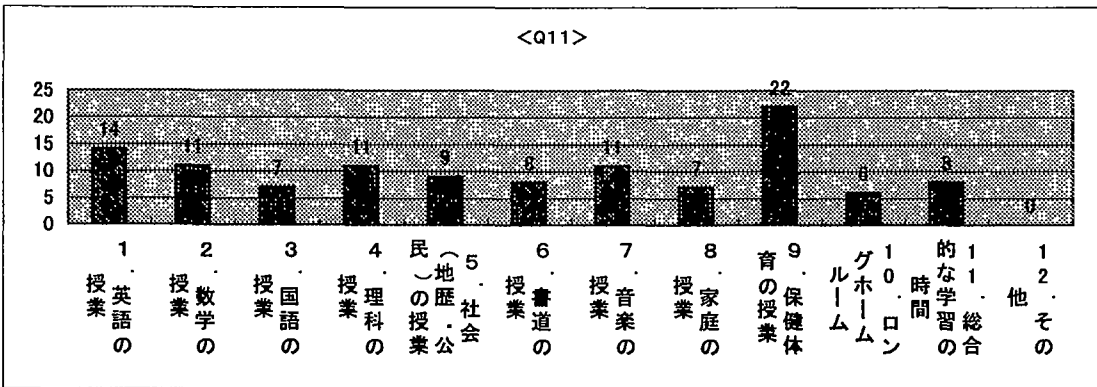
選択肢	選択数
1. 中学校でのファンダメンタル・スタディ(FS)の実施(高校の先生が中学校に出向く)	26
2. 総合的な学習の時間(「合同総合学習」)での中学校と高校との連携	25
3. 中学校の英語・数学でのTT(チームティーチング)の実施(高校の先生が中学校に出向く)	22
4. 高校入学時、5教科の学力検査がない	23
5. 芸術鑑賞などの中高合同行事	24
6. 中学校の音楽の先生による高校での授業	27
7. 部活動の中高合同練習(一部の部活)	12
8. 各種検定の中高合同実施(英検・数検・漢検・ワープロ検定)	23
9. 高校でアウトドア資格が取得できる	22
10. 中学校と高校での水質調査などの環境学習	30
11. 中学校と高校における進路学習	12
12. その他	1

*その他は無記入1



【Q11】上川高校で行われている次の授業のうち、自分にとってやりがいのあるものはどれですか？
(○をいくつでも)

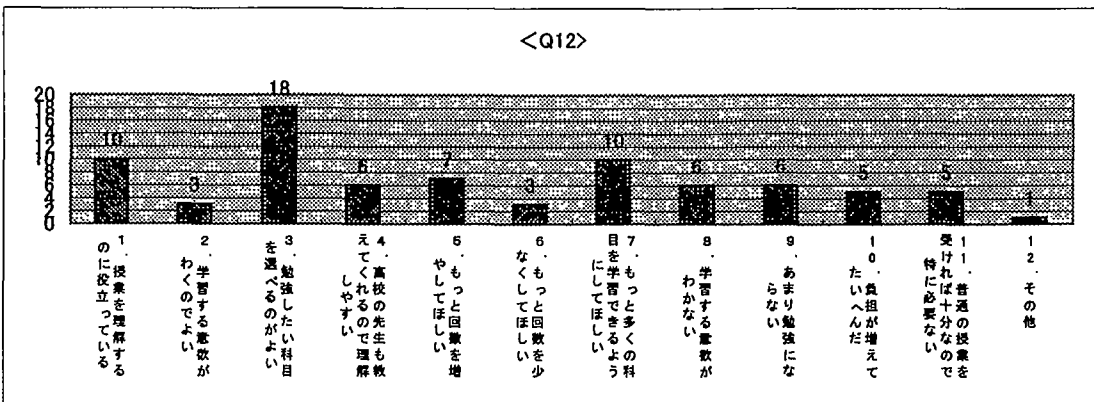
選択肢	選択数
1. 英語の授業	14
2. 数学の授業	11
3. 国語の授業	7
4. 理科の授業	11
5. 社会(地歴・公民)の授業	9
6. 書道の授業	8
7. 音楽の授業	11
8. 家庭の授業	7
9. 保健体育の授業	22
10. ロングホームルーム	6
11. 総合的な学習の時間	8
12. その他	0



【Q12】上川中学校のファンダメンタル・スタディ(FS)の時間についてどう思いますか？
(○をいくつでも)(上川中学校出身者のみ回答してください)

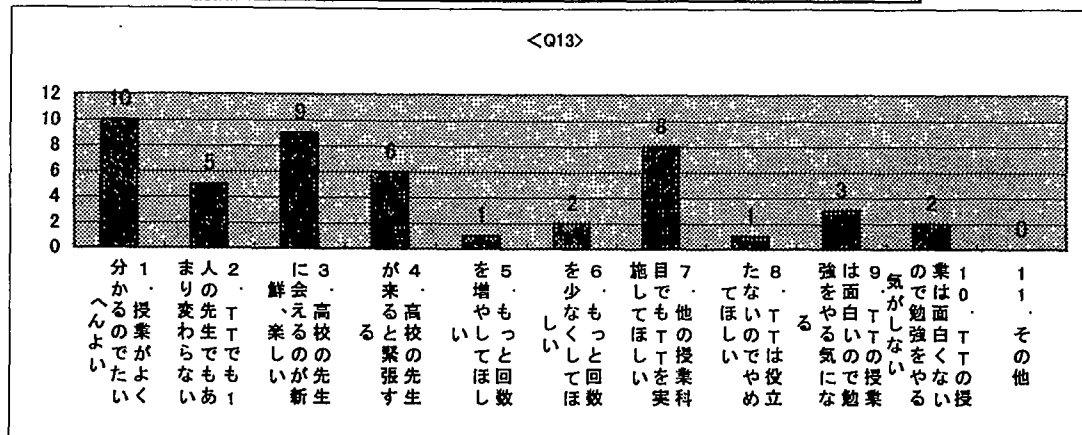
選択肢	選択数
1. 授業を理解するのに役立つ	10
2. 学習する意欲がわくのでよい	3
3. 勉強したい科目を選べるのがよい	18
4. 高校の先生も教えてくれるので理解しやすい	6
5. もっと回数を増やしてほしい	7
6. もっと回数を少なくしてほしい	3
7. もっと多くの科目を学習できるようにしてほしい	10
8. 学習する意欲がわかない	6
9. あまり勉強にならない	6
10. 負担が増えてたいへんだ	5
11. 普通の授業を受ければ十分なので特に必要ない	5
12. その他	1

* その他は無記入1



【Q13】上川中学校における英語・数学での中高の先生によるTT(チームティーチング)についてどう思いますか？(Oをいくつでも)(上川中学校出身者のみ回答してください)

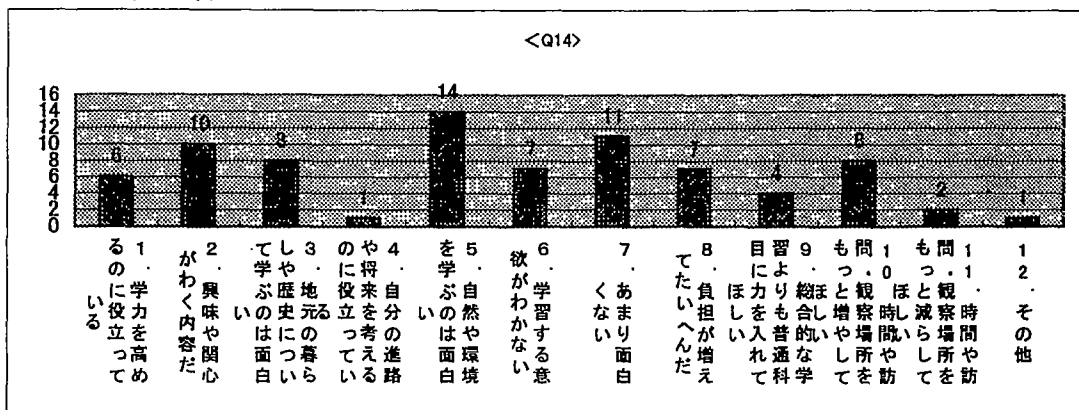
選択肢	選択数
1. 授業がよく分かるのでたいへんよい	10
2. TTでも1人の先生でもあまり変わらない	5
3. 高校の先生に会えるのが新鮮、楽しい	9
4. 高校の先生が来ると緊張する	6
5. もっと回数を増やしてほしい	1
6. もっと回数を少なくしてほしい	2
7. 他の授業科目でもTTを実施してほしい	8
8. TTは役立たないのでやめてほしい	1
9. TTの授業は面白いので勉強をやる気になる	3
10. TTの授業は面白くないので勉強をやる気がしない	2
11. その他	0



【Q14】中高生で「合同総合学習」として実施している「大雪地理巡検」についてどう思いますか？(Oをいくつでも)

選択肢	選択数
1. 学力を高めるのに役立っている	6
2. 興味や関心がわく内容だ	10
3. 地元の暮らしや歴史について学ぶのは面白い	8
4. 自分の進路や将来を考えるのに役立っている	1
5. 自然や環境を学ぶのは面白い	14
6. 学習する意欲がわかない	7
7. あまり面白くない	11
8. 負担が増えてたいへんだ	7
9. 総合的な学習よりも普通科目に力を入れてほしい	4
10. 時間や訪問・観察場所をもっと増やしてほしい	8
11. 時間や訪問・観察場所をもっと減らしてほしい	2
12. その他	1

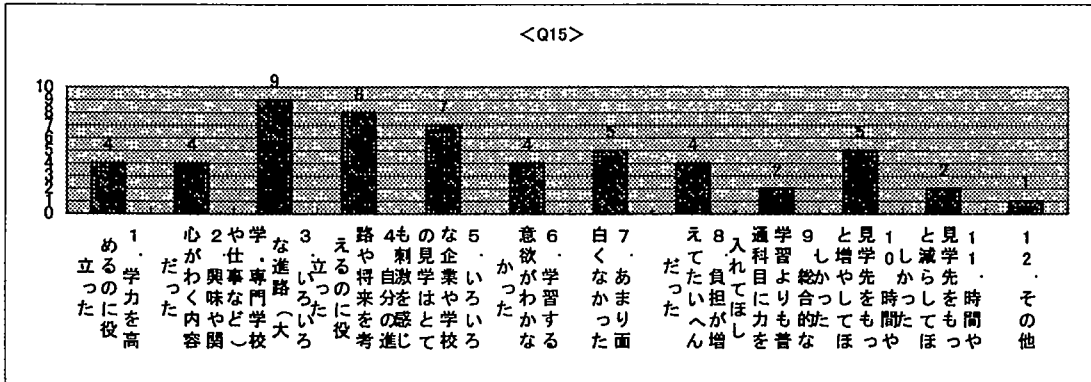
* その他(面倒くさそう)



【Q15】上川中学校で経験した中高生「合同総合学習」として実施している「進路啓発学習」についてどう思いましたか？(○をいくつでも)(上川中学校出身者のみ回答してください)

選択肢	選択数
1. 学力を高めるのに役立った	4
2. 興味や関心がわく内容だった	4
3. いろいろな進路(大学・専門学校や仕事など)があることがよく分	9
4. 自分の進路や将来を考えるのに役立った	8
5. いろいろな企業や学校の見学はとても刺激を感じた	7
6. 学習する意欲がわかなかった	4
7. あまり面白くなかった	5
8. 負担が増えてたいへんだった	4
9. 総合的な学習よりも普通科目に力を入れてほしかった	2
10. 時間や見学先をもっと増やしてほしかった	5
11. 時間や見学先をもっと減らしてほしかった	2
12. その他	1

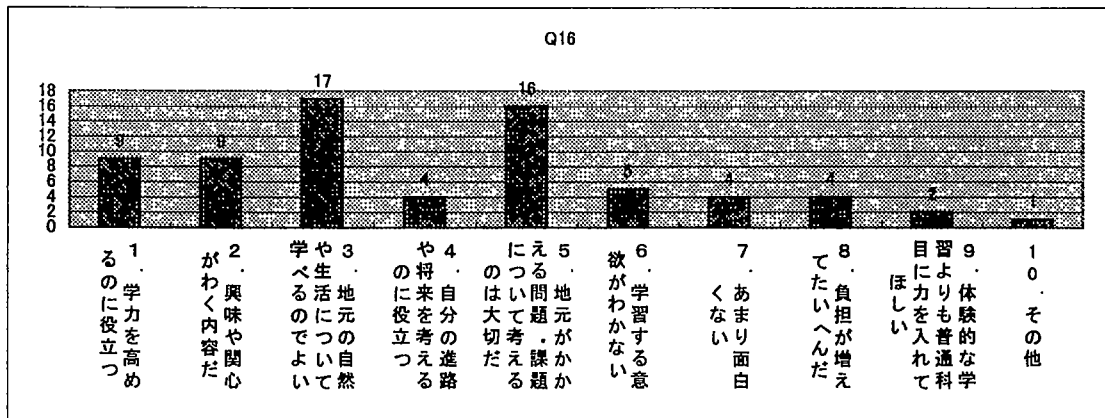
* その他(何とも思わない)



【Q16】上川高校の2年生で選択する学校設定科目「大雪基礎」(大雪山や上川町を再認識するとともに課題やその解決方法を考える)についてどう思いますか。(○をいくつでも)

選択肢	選択数
1. 学力を高めるのに役立つ	9
2. 興味や関心がわく内容だ	9
3. 地元の自然や生活について学べるのでよい	17
4. 自分の進路や将来を考えるのに役立つ	4
5. 地元がかかえる問題・課題について考えるのは大切だ	16
6. 学習する意欲がわかない	5
7. あまり面白くない	4
8. 負担が増えてたいへんだ	4
9. 体験的な学習よりも普通科目に力を入れてほしい	2
10. その他	1

* その他は無記入1

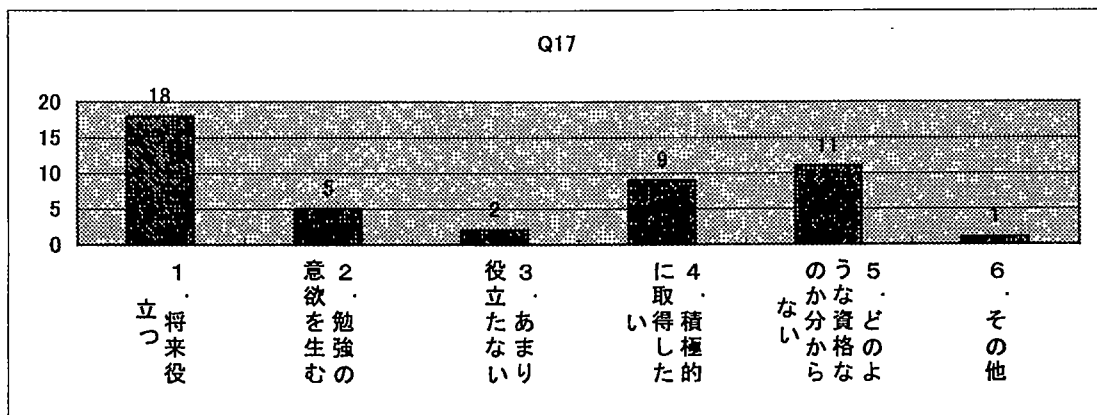


【Q17】上川高校で取得できるアウトドア資格(基礎分野)についてどう思いますか？

(○をいくつでも)

選択肢	選択数
1. 将来役立つ	18
2. 勉強の意欲を生む	5
3. あまり役立たない	2
4. 積極的に取得したい	9
5. どのような資格なのか分からない	11
6. その他	1

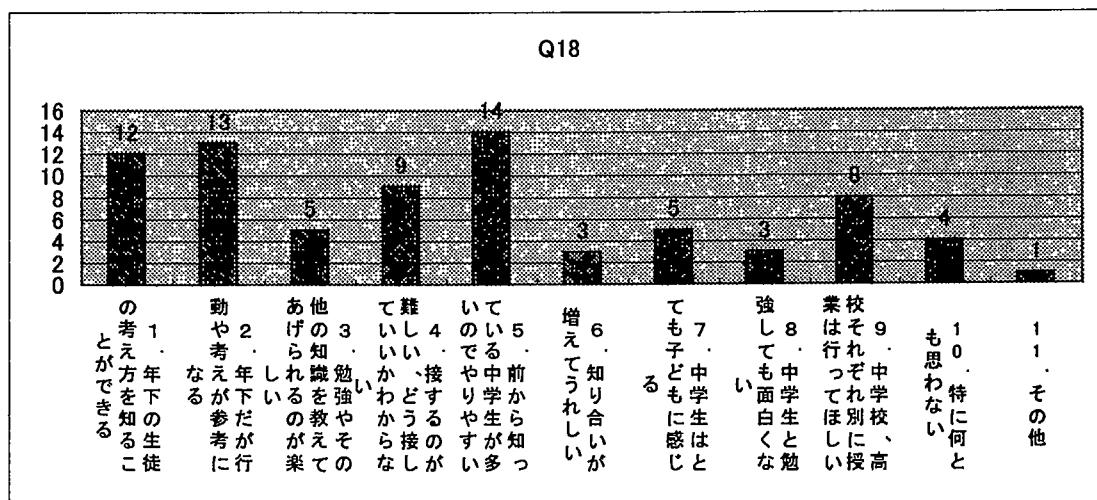
*その他(興味がある人には良い)



【Q18】中高合同授業・行事(中学生と高校生が合同で参加する授業・行事)などで中学生と関わる機会が増えたことをどう思いますか。(○をいくつでも)

選択肢	選択数
1. 年下の生徒の考え方を知ることができる	12
2. 年下だが行動や考えが参考になる	13
3. 勉強やその他の知識を教えてあげられるのが楽しい	5
4. 接するのが難しい、どう接していいかわからない	9
5. 前から知っている中学生が多いのでやりやすい	14
6. 知り合いが増えてうれしい	3
7. 中学生はとてども子どもに感じる	5
8. 中学生と勉強しても面白くない	3
9. 中学校、高校それぞれ別に授業は行ってほしい	8
10. 特に何とも思わない	4
11. その他	1

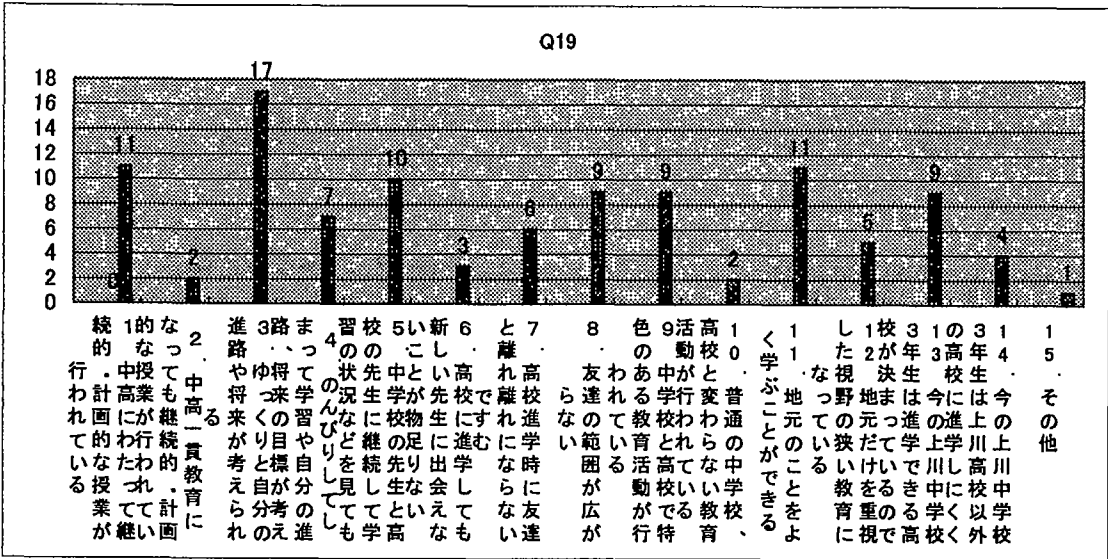
*その他(やるんだったら別々にやって欲しい)



【Q19】現在の上川町の中高一貫教育について、あなたはどのように思いますか？(○をいくつでも)

選択肢	選択数
1. 中高にわたって継続的・計画的な授業が行われている	11
2. 中高一貫教育になっても継続的・計画的な授業が行われていない	2
3. ゆっくりと自分の進路や将来が考えられる	17
4. のんびりしてしまって学習や自分の進路、将来の目標が考えられない	7
5. 中学校の先生と高校の先生に継続して学習の状況などを見てもらえるので安心だ	10
6. 高校に進学しても新しい先生に出会えないことが物足りない	3
7. 高校進学時に友達と離れ離れにならないですむ	6
8. 友達の範囲が広がらない	9
9. 中学校と高校で特色のある教育活動が行われている	9
10. 普通の中学校、高校と変わらない教育活動が行われている	2
11. 地元のことをよく学ぶことができる	11
12. 地元だけを重視した視野の狭い教育になっている	5
13. 今の上川中学校3年生は進学できる高校が決まっているので安心だろう	9
14. 今の上川中学校3年生は上川高校以外の高校に進学しにくくなるのではないかと不安が	4
15. その他	1

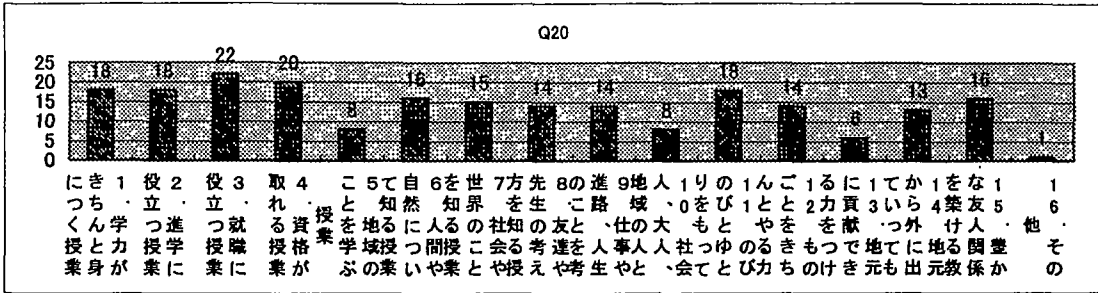
*その他は無記入1



【Q20】あなたは上川高校でどんな授業・教育を望みますか？(○をいくつでも)

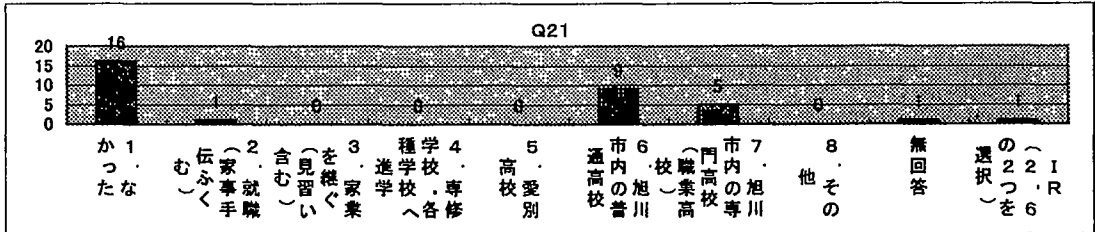
選択肢	選択数
1. 学力がきちんと身につく授業	18
2. 進学に役立つ授業	18
3. 就職に役立つ授業	22
4. 資格が取れる授業	20
5. 地域のことを学ぶ授業	8
6. 人間や自然について知る授業	16
7. 社会や世界のことを知る授業	15
8. 友達や先生のお考えを知る授業	14
9. 仕事や進路、人生のことを考える授業	14
10. 社会人、大人、地域の人と関わる授業	8
11. のびのびとゆとりをもって過ごせる教育	18
12. ものごとをきちんとやる力や生活態度を身につける教育	14
13. 地元へ貢献できる力をつける教育	6
14. 地元から外に出ていってもやっていける力をつける教育	13
15. 豊かな友人関係を築ける教育	16
16. その他	1

*その他(今のままでよい)



【Q21】上川高校以外に希望した進路はありましたか？(Oを1つ)

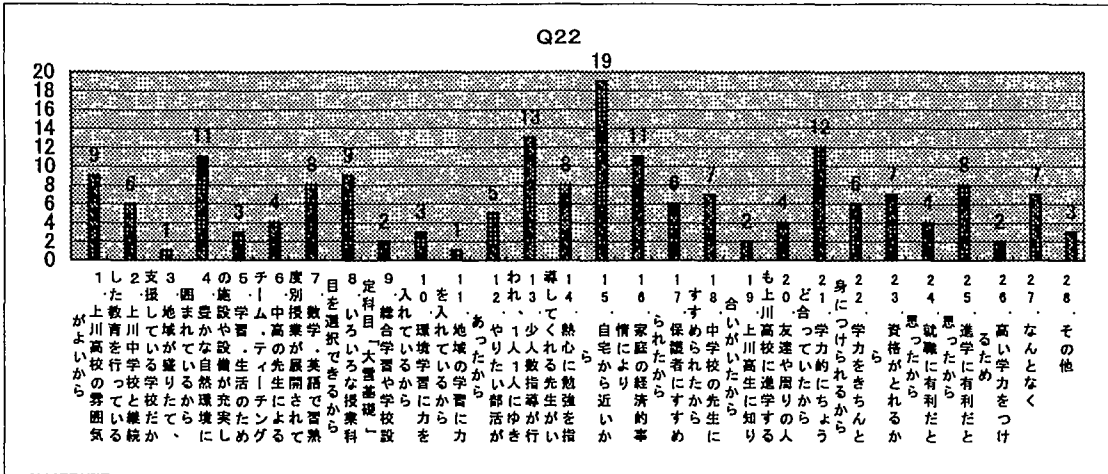
選択肢	選択数
1. なかった	16
2. 就職(家事手伝ふくむ)	1
3. 家業を継ぐ(見習い含む)	0
4. 専修学校・各種学校へ進学	0
5. 愛別高校	0
6. 旭川市内の普通高校	9
7. 旭川市内の専門高校(職業高校)	5
8. その他	0
無回答	1
IR(2, 6の2つを選択)	1



【Q22】上川高校へ進学した理由は何ですか。(Oをいくつでも)

選択肢	選択数
1. 上川高校の雰囲気がいから	9
2. 上川中学校と継続した教育を行っているから	6
3. 地域が盛りたて、支援している学校だから	1
4. 豊かな自然環境に囲まれているから	11
5. 学習・生活のための施設や設備が充実しているから	3
6. 中高の先生によるチーム・ティーチング(TT)が導入されているから	4
7. 数学・英語で習熟度別授業が展開されているから	8
8. いろいろな授業科目を選択できるから	9
9. 総合学習や学校設定科目「大雪基礎」「大雪研究」が魅力的だから	2
10. 環境学習に力を入れているから	3
11. 地域の学習に力を入れているから	1
12. やりたい部活があったから	5
13. 少人数指導が行われ、1人1人にゆきとどいた指導が行われている	13
14. 熱心に勉強を指導してくれる先生がいるから	8
15. 自宅から近いから	19
16. 家庭の経済的事情により	11
17. 保護者にすすめられたから	6
18. 中学校の先生にすすめられたから	7
19. 上川高生に知り合いがいたから	2
20. 友達や周りの人も上川高校に進学する予定だったから	4
21. 学力的にちょうど合っていたから	12
22. 学力をきちんと身につけられるから	6
23. 資格がとれるから	7
24. 就職に有利だと思ったから	4
25. 進学に有利だと思ったから	8
26. 高い学力をつけるため	2
27. なんとなく	7
28. その他	3

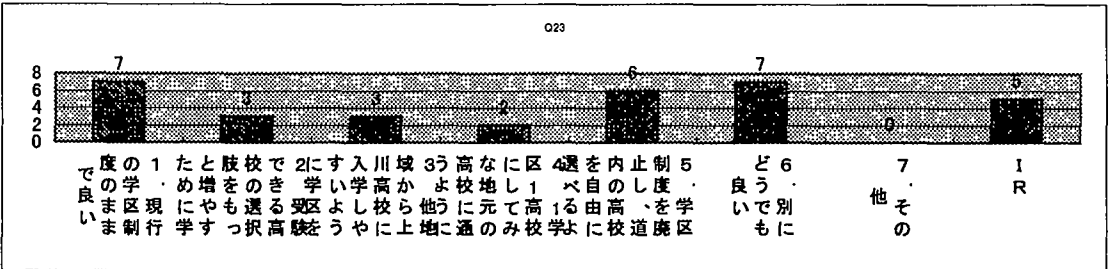
* その他(別にどこでも良かった1・地元で近いから1)



【Q23】上川第2学区は上川高校と愛別高校の2校で1つの学区となっています。高校入試における学区制度について、どのように考えていますか？ あてはまる選択肢に○をつけてください。(○を1つ)

選択肢	選択数
1. 現行の学区制度のままで良い	7
2. 受験できる高校の選択肢をもっと増やすために学区を拡大すべきだ	3
3. 他地域から上川高校に入学しやすいように学区を拡大すべきだ	3
4. 1学区1高校にしてみんな地元の高校に通うようにすべきだ	2
5. 学区制度を廃止し、道内の高校を自由に選べるようにすべきだ	6
6. 別にどうでも良い	7
7. その他	0
IR	5

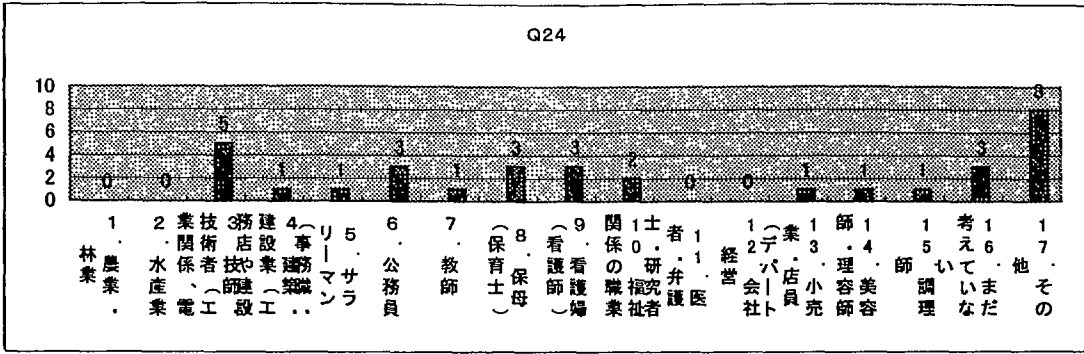
*IR(2・3・5を選択2、1・2・3が1、2・5が1、1・6が1)



【Q24】将来はどんな職業につきたいですか。(○を1つ)

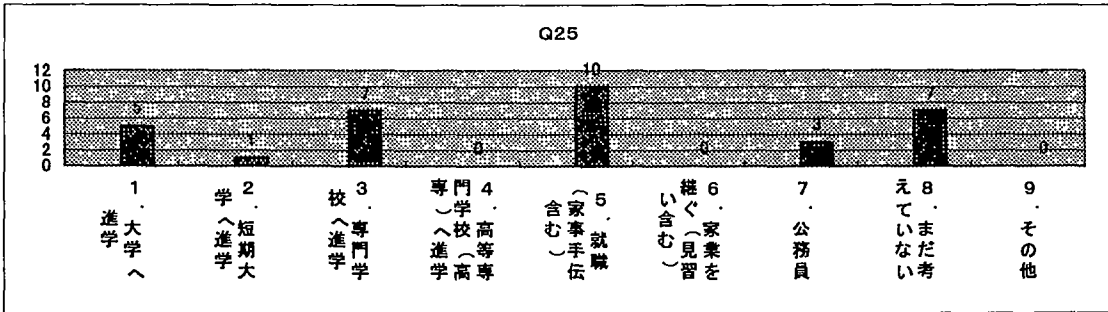
選択肢	選択数
1. 農業・林業	0
2. 水産業	0
3. 技師・技術者(工業関係、電機メーカー・自動車会社・情報産業など)	5
4. 建築・建設業(工務店や建設会社など)	1
5. サラリーマン(事務職・営業職)	1
6. 公務員	3
7. 教師	1
8. 保育(保育士)	3
9. 看護婦(看護師)	3
10. 福祉関係の職業	2
11. 医者・弁護士・研究者(大学や企業の)などの専門職	0
12. 会社経営	0
13. 小売業・店員(デパートなど)	1
14. 美容師・理容師	1
15. 調理師	1
16. まだ考えていない	3
17. その他	8

*その他(暮らしていければ何でも・デザイナー・動物関係・ベッドメーカー・プログラマー・K-1選手・音楽関係・マッサージ師各1)



【Q25】高校卒業後の進路についてどんな希望をもっていますか？(○を1つ)

選択肢	選択数
1. 大学へ進学	5
2. 短期大学へ進学	1
3. 専門学校へ進学	7
4. 高等専門学校(高専)へ進学	0
5. 就職(家事手伝い含む)	10
6. 家業を継ぐ(見習い含む)	0
7. 公務員	3
8. まだ考えていない	7
9. その他	0

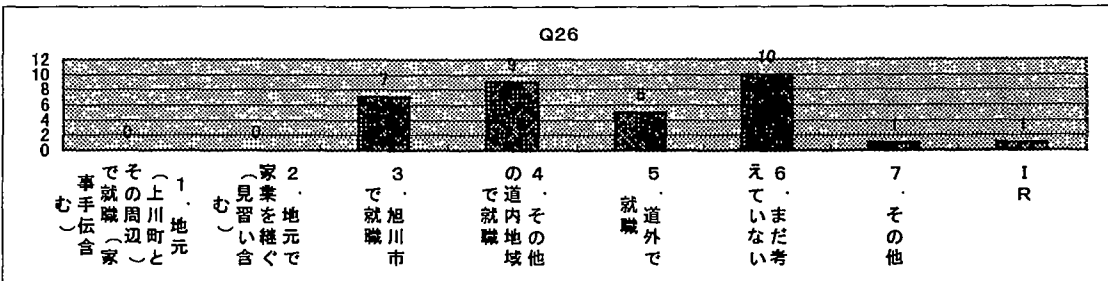


【Q26】将来どこで就職したいですか？(○を1つ)

選択肢	選択数
1. 地元(上川町とその周辺)で就職(家事手伝い含む)	0
2. 地元で家業を継ぐ(見習い含む)	0
3. 旭川市で就職	7
4. その他の道内地域で就職	9
5. 道外で就職	5
6. まだ考えていない	10
7. その他	1
IR	1

*IR(4・5の2つを選択1)

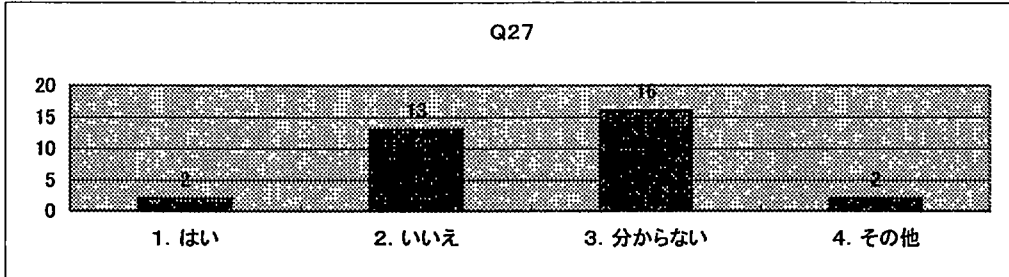
*その他(道内ならどこでも良い)



【Q27】将来地元に住みたいと思いますか？(○を1つ)

選択肢	選択数
1. はい	2
2. いいえ	13
3. 分からない	16
4. その他	2

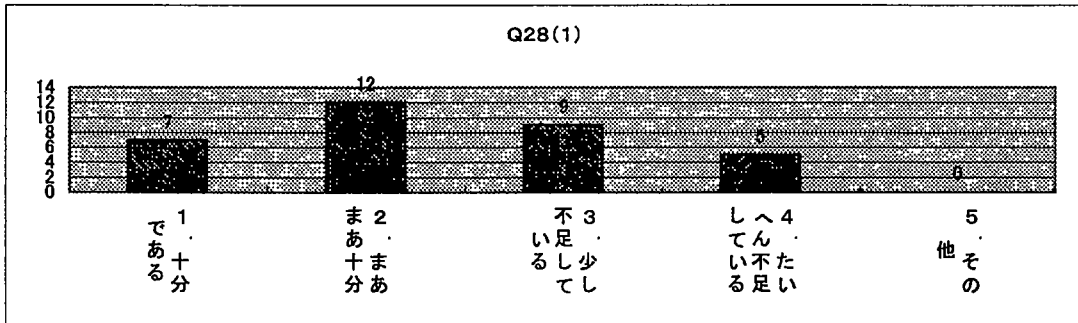
* その他(おばあちゃんになったら戻ってきたい)



【Q28】将来の進路を考えるための情報や進路指導、学習は十分ですか？(それぞれ○を1つ)

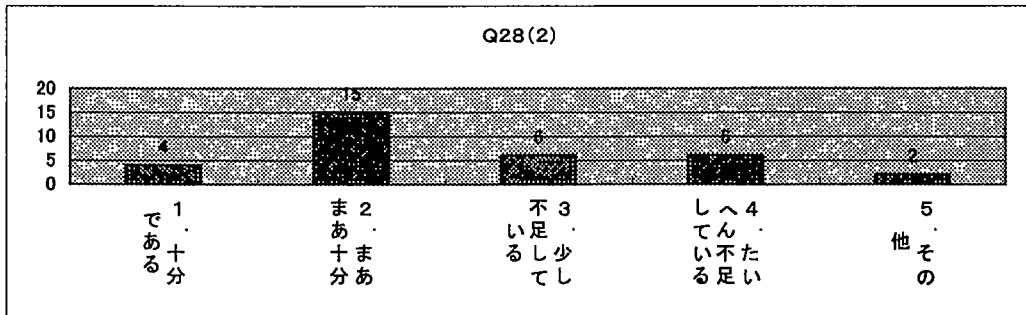
(1) 情報は十分ありますか？

選択肢	選択数
1. 十分である	7
2. まあまあ十分	12
3. 少し不足している	9
4. たいへん不足している	5
5. その他	0



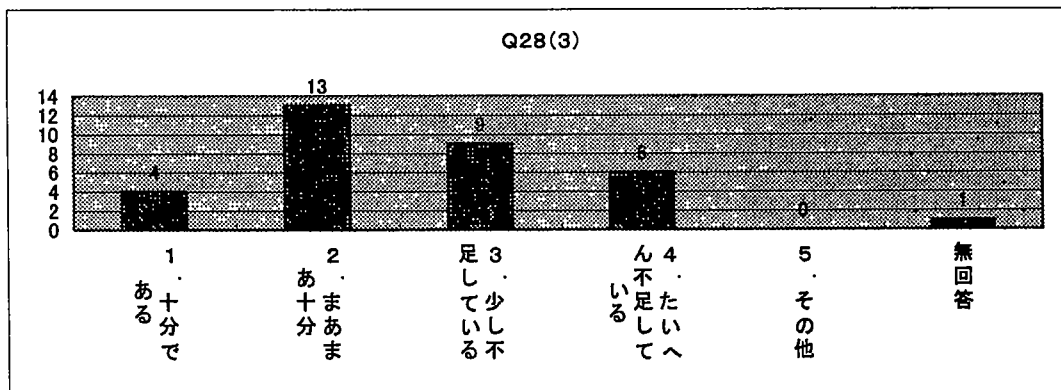
(2) 十分な進路指導を受けていますか？

選択肢	選択数
1. 十分である	4
2. まあまあ十分	15
3. 少し不足している	6
4. たいへん不足している	6
5. その他	2



(3)大学や専門学校、職業について学ぶ機会が十分ありますか？

選択肢	選択数
1. 十分である	4
2. まあまあ十分	13
3. 少し不足している	9
4. たいへん不足している	6
5. その他	0
無回答	1

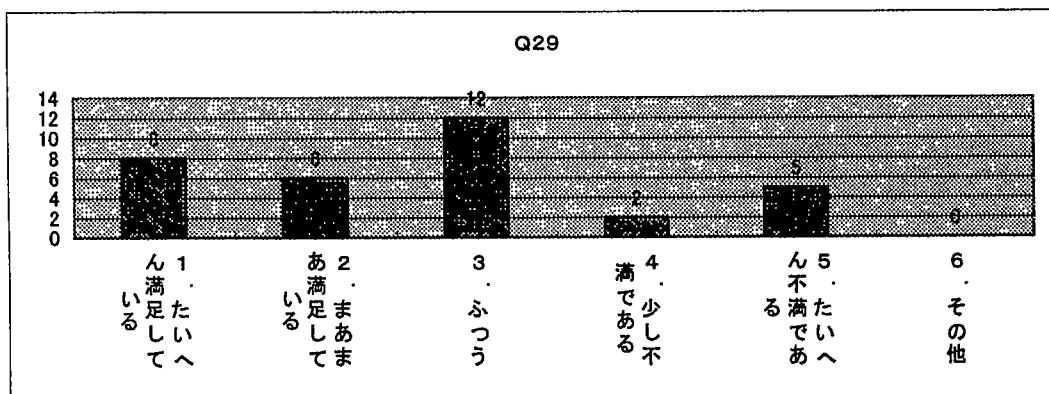


【Q29】高校生活に満足していますか？(〇を1つ)

選択肢	選択数
1. たいへん満足している	8
2. まあまあ満足している	6
3. ふつう	12
4. 少し不満である	2
5. たいへん不満である	5
6. その他	0

理由 各1ずつ

- 1(友達も面白い人ばかりだし、学習に身が入りやすい環境だから・勉強しやすい・友達、先輩、先生方がとても優しく接してくれるから)
- 3(一人一人がまとまりなく自己中心的な人が結構いる・あまり楽しくない)
- 4(毎日決まりきったことの繰り返し。自分が学びたい教科に定員があり将来が心配になる)
- 5(自己中心的な人が多いから・大変つまらない・毎日つまらない・人間関係があまりうまくいかない・勉強が面白くない。体育が少ない)



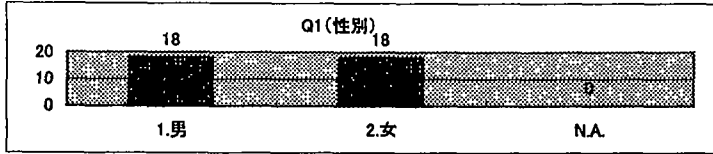
②上川町の中高一貫教育に関するアンケート 中学校3年生

上川町の中高一貫教育に関するアンケート② 中学校3年生(回答数36・回収率100%)

【Q1】 性別を教えてください。

- 1.男
- 2.女

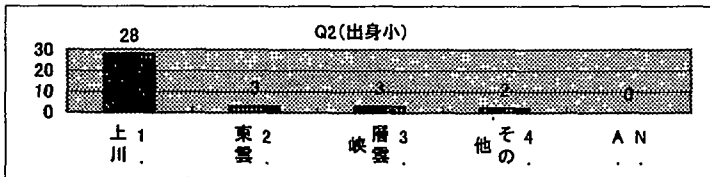
Q1(性別)	回答数
1.男	18
2.女	18
N.A.	0
計	36



【Q2】 出身小学校はどこですか？

- 1.上川小学校
- 2.東雲小学校
- 3.層雲峡小学校
- 4.その他
- *その他は解読不能

Q2(出身小)	回答数
1.上川	28
2.東雲	3
3.層雲峡	3
4.その他	2
N.A.	0
計	36

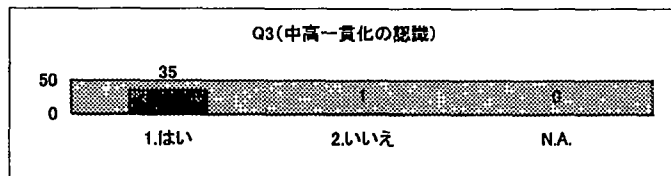


【Q3】 本年度から正式に中高一貫校となったことを知っていますか？

- 1.はい
- 2.いいえ

(2.の場合はQ6へ)

Q3(中高一貫化の認識)	回答数
1.はい	35
2.いいえ	1
N.A.	0
計	36

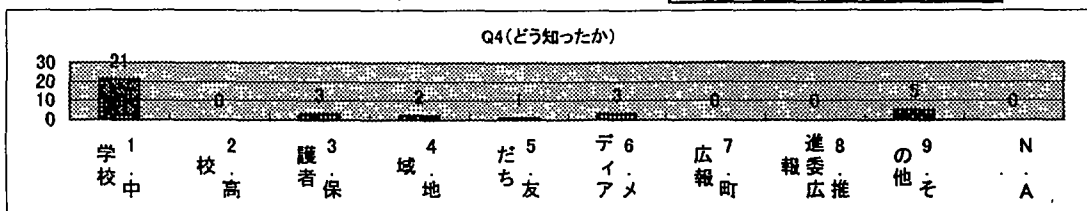


【Q4】 中高一貫校になったことを、どうやって知りましたか。

- 1.中学校の先生から(または文書で)
- 2.上川高校の先生から
- 3.保護者から
- 4.地域の人から
- 5.友だちから
- 6.新聞やニュースで
- 7.町の広報
- 8.中高一貫推進委発行の広報誌「エスポワール」
- 9.その他
- *その他(覚えていない4、自分で調べた1)

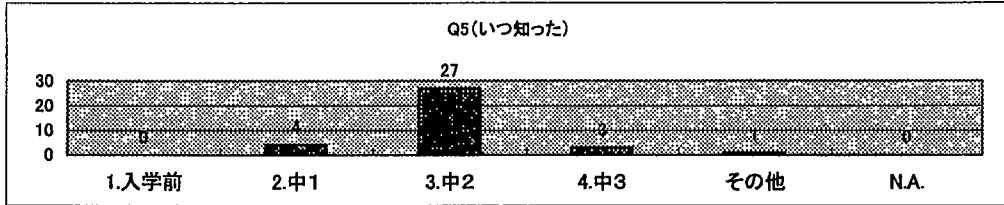
[対象:Q3で1.と答えた人35人]

Q4(どう知ったか)	回答数
1.中学校	21
2.高校	0
3.保護者	3
4.地域	2
5.友だち	1
6.メディア	3
7.町広報	0
8.推進委広報	0
9.その他	5
N.A.	0
計	35



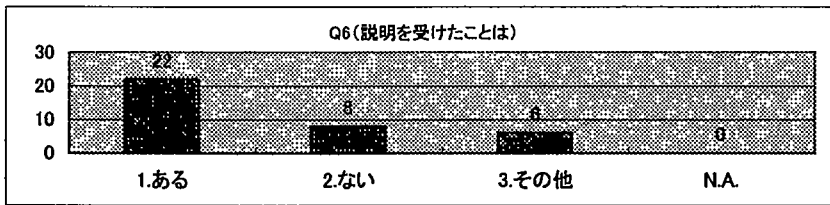
- 【Q5】 中高一貫校になったことを最初に知ったのはいつですか。
 1.上川中学校入学前
 2.中学1年生のとき
 3.中学2年生のとき
 4.中学3年生になってから
 *「その他」の項目は設けていないが、書き込みで(覚えていない)
 [対象:Q3で1.と答えた人35人]

Q5(いつ知った)	回答数
1.入学前	0
2.中1	4
3.中2	27
4.中3	3
その他	1
N.A.	0
計	35



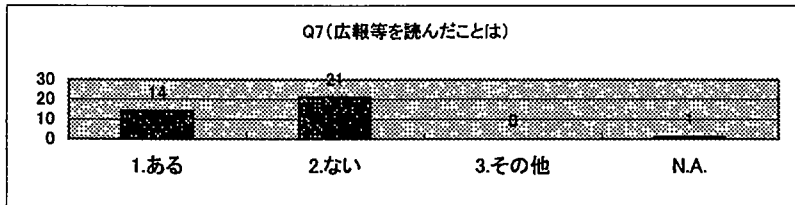
- 【Q6】 中高一貫教育についてきちんと説明を受けたことは？
 1.ある(具体的に)
 2.ない
 3.その他
 * 1の具体的記述(集合HR、学活、校長と先生方に、など)
 * その他(忘れたら、説明は受けたがよくわからない)

Q6(説明を受けたこと)	回答数
1.ある	22
2.ない	8
3.その他	6
N.A.	0
計	36
1.のうち無記入	12



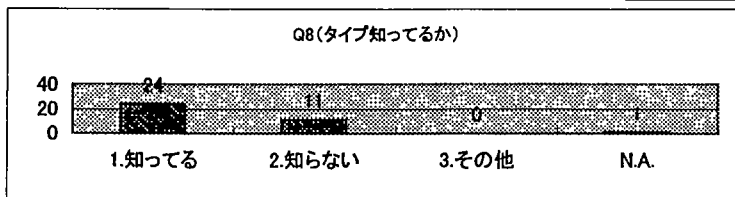
- 【Q7】 上川町の中高一貫教育のパンフや広報を読んだことは？
 1.ある
 2.ない
 3.その他

Q7(広報等を読んだこと)	回答数
1.ある	14
2.ない	21
3.その他	0
N.A.	1
計	36



- 【Q8】 上川の中高一貫教育が連携型であることを知っていますか。
 1.知っている
 2.知らない
 3.その他
 * 既述欄は設けていないが、1の具体的記述として
 参観日の時に説明された、が1あった

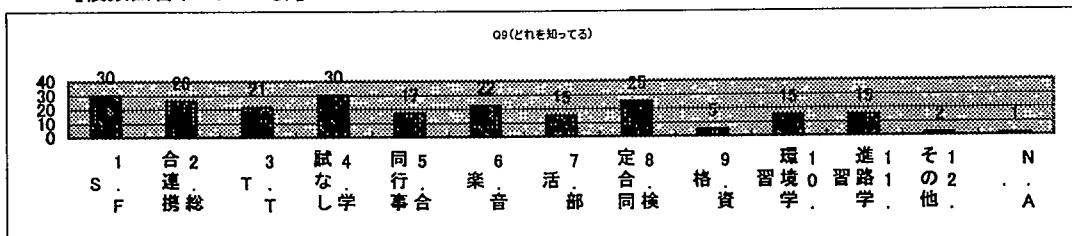
Q8(タイプ知ってるか)	回答数
1.知ってる	24
2.知らない	11
3.その他	0
N.A.	1
計	36



【Q9】 上川の中高一貫教育の取り組みに関して知っているものは？

1. 中学校のファンダメンタル・スタディ(FS)
 2. 総合的な学習の時間での連携
 3. 英語・数学でのTT(ティーム・ティーチング)
 4. 高校入学時の学力テストがない
 5. 芸術鑑賞などの中高合同行事
 6. 中学校の音楽の先生による高校での授業
 7. 部活動の中高合同練習
 8. 各種検定の中高合同実施
 9. 高校でアウトドア資格が取得できる
 10. 中学校と高校での水質調査などの環境学習
 11. 中学校と高校における進路学習
 12. その他
- * その他(わからない3)
[複数回答(いくつでも)]

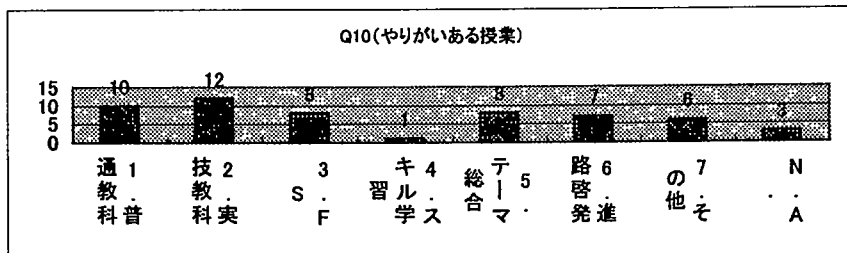
Q9(どれを知ってる)	回答数
1.FS	30
2.総合連携	26
3.TT	21
4.学試なし	30
5.合同行事	17
6.音楽	22
7.部活	15
8.検定合同	25
9.資格	5
10.環境学習	15
11.進路学習	15
12.その他	2
N.A.	1
延べ計	224



【Q10】 次の授業のうち、やりがいのあるものはどれですか。

1. 普通教科の授業(英・数・国・理・社)
 2. その他の教科の授業(美・音・保体・技家)
 3. ファンダメンタル・スタディ(FS)
 4. 「総合的な学習の時間」のうちスキル学習
 5. 「総合的な学習の時間」のうちテーマ総合学習
 6. 「総合的な学習の時間」のうち進路啓発学習
 7. その他
- * その他(ない4、理・数・体1、体育1)
[複数回答(いくつでも)]

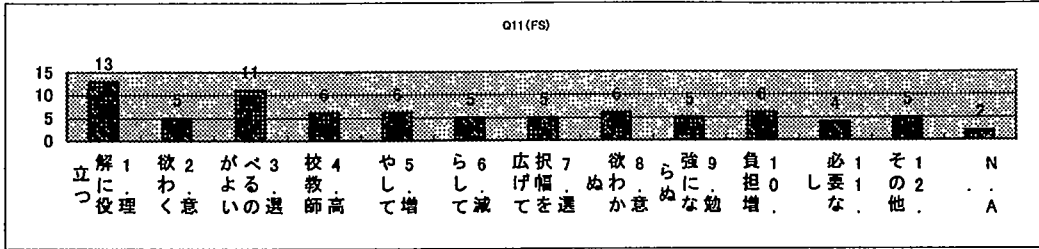
Q10(やりがいある授業)	回答数
1.普通教科	10
2.実技教科	12
3.FS	8
4.スキル学習	1
5.テーマ総合	8
6.進路啓発	7
7.その他	6
N.A.	3
延べ計	55



【Q11】 上川中学校のFSについてどう思いますか。

1. 授業を理解するのに役立つ
 2. 学習する意欲がわくのでよい
 3. 勉強したい科目を選べるのがよい
 4. 高校の先生も教えてくれるので理解しやすい
 5. もっと回数を増やしてほしい
 6. もっと回数を少なくしてほしい
 7. もっと多くの科目を学習できるようにしてほしい
 8. 学習する意欲がわかない
 9. あまり勉強にならない
 10. 負担が増えてたいへんだ
 11. 普通の授業を受ければ十分なので特に必要ない
 12. その他
- * その他(時間が少ない,日によって教科を選びたい, いらぬなど)
[複数回答:いくつでも]

Q11(FS)	回答数
1.理解に役立つ	13
2.意欲わく	5
3.選べるのがよい	11
4.高校教師	6
5.増やして	6
6.減らして	5
7.選択幅を広げて	5
8.意欲わかぬ	6
9.勉強にならぬ	5
10.負担増	6
11.必要なし	4
12.その他	5
N.A.	2
延べ計	79
12.のうち無記入	1

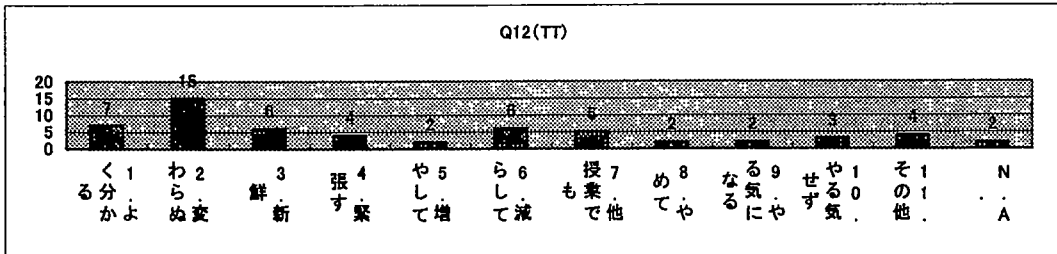


【Q12】上川中におけるTTについてどう思いますか。

1. 授業がよく分かるのでたいへんよい
 2. TTでも1人の先生でもあまり変わらない
 3. 高校の先生に会えるのが新鮮、楽しい
 4. 高校の先生が来ると緊張する
 5. もっと回数を増やしてほしい
 6. もっと回数を少なくしてほしい
 7. 他の授業科目でもTTを実施してほしい
 8. TTは役立たないのでやめてほしい
 9. TTの授業は面白いので勉強をやる気になる
 10. TTの授業は面白くないので勉強をやる気がしない
 11. その他
- * その他(どうとも思わない、数学はいいが英語は変わらない、など)

[複数回答:いくつでも]

Q12(TT)	回答数
1.よく分かる	7
2.変わらぬ	15
3.新鮮	6
4.緊張す	4
5.増やして	2
6.減らして	6
7.他授業でも	5
8.やめて	2
9.やる気になる	2
10.やる気せず	3
11.その他	4
N.A.	2
延べ計	58
11.のうち無記入	1

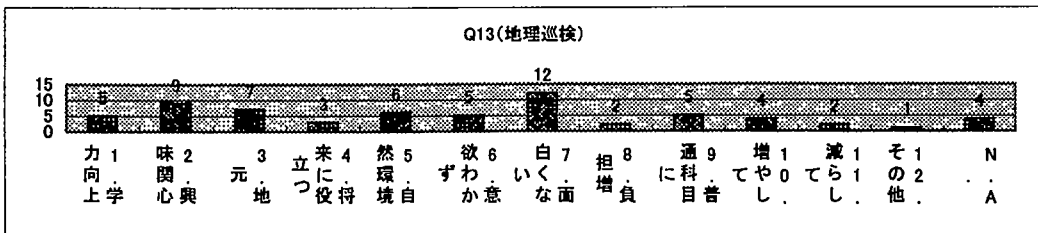


【Q13】合同総合学習「大雪地理巡検」についてどう思いますか。

1. 学力を高めるのに役立つ
 2. 興味や関心がわく内容だ
 3. 地元の暮らしや歴史について学ぶのは面白い
 4. 自分の進路や将来を考えるのに役立つ
 5. 自然や環境を学ぶのは面白い
 6. 学習する意欲がわかない
 7. あまり面白くない
 8. 負担が増えてたいへんだ
 9. 総合的な学習よりも普通科目に力を入れてほしい
 10. 時間や訪問・観察場所をもっと増やしてほしい
 11. 時間や訪問・観察場所をもっと減らしてほしい
 12. その他
- * その他(観光行事みたいであり「見て回る」より「触れて回り」たい)

[複数回答:いくつでも]

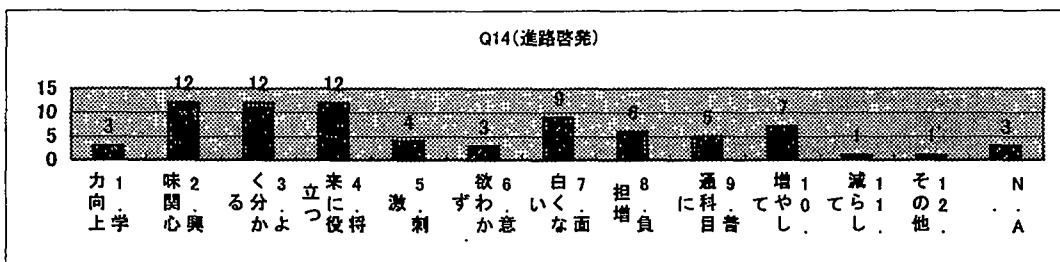
Q13(地理巡検)	回答数
1.学力向上	5
2.興味関心	9
3.地元	7
4.将来に役立つ	3
5.自然環境	6
6.意欲わかず	5
7.面白くない	12
8.負担増	2
9.普通科目に	5
10.増やして	4
11.減らして	2
12.その他	1
N.A.	4
延べ計	65



【Q14】合同総合学習「進路啓発学習」についてどう思いますか。

- 1.学力を高めるのに役立つ
 - 2.興味や関心がわく内容だ
 - 3.いろいろな進路があることがよく分かる
 - 4.自分の進路や将来を考えるのに役立つ
 - 5.いろいろな企業や学校の見学はとても刺激を感じる
 - 6.学習する意欲がわかない
 - 7.あまり面白くない
 - 8.負担が増えてたいへんだ
 - 9.総合的な学習よりも普通科目に力を入れてほしい
 - 10.時間や見学先をもっと増やしてほしい
 - 11.時間や見学先をもっと減らしてほしい
 - 12.その他
- * その他(経験していない1)
[複数回答:いくつでも]

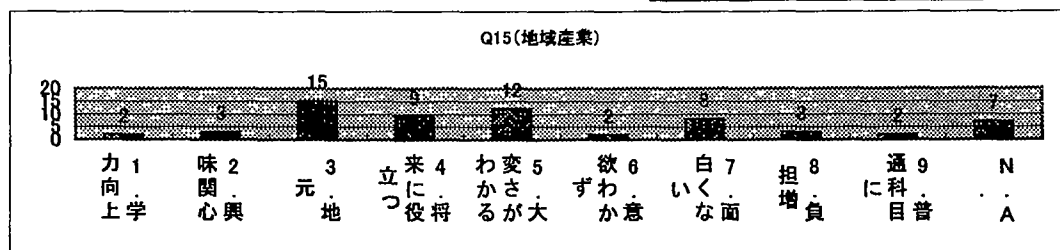
Q14(進路啓発)	回答数
1.学力向上	3
2.興味関心	12
3.よく分かる	12
4.将来に役立つ	12
5.刺激	4
6.意欲わかず	3
7.面白くない	9
8.負担増	6
9.普通科目に	5
10.増やして	7
11.減らして	1
12.その他	1
N.A.	3
延べ計	78



【Q15】合同総合学習「地域産業体験」についてどう思いますか。

- 1.学力を高めるのに役立つ
 - 2.興味や関心がわく内容だ
 - 3.地元の人々の生活や仕事のことを学ぶことができる
 - 4.自分の進路や将来を考えるのに役立つ
 - 5.働くことのたいへんさが分かる
 - 6.学習する意欲がわかない
 - 7.あまり面白くない
 - 8.負担が増えてたいへんだ
 - 9.総合的な学習よりも普通科目に力を入れてほしい
- [複数回答:いくつでも]

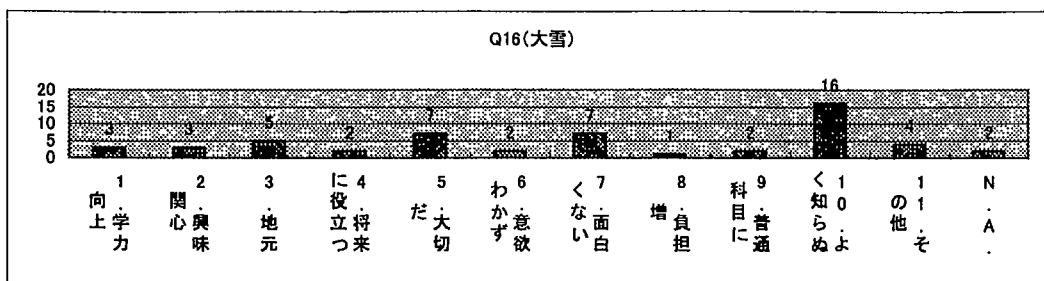
Q15(地域産業)	回答数
1.学力向上	2
2.興味関心	3
3.地元	15
4.将来に役立つ	9
5.大変さがわかる	12
6.意欲わかず	2
7.面白くない	8
8.負担増	3
9.普通科目に	2
N.A.	7
延べ計	63



【Q16】上川高校学校設定科目「大雪基礎」「大雪研究」について。

- 1.学力を高めるのに役立つ
 - 2.興味や関心がわきそうな内容なのでよい
 - 3.地元の自然や生活について学べうなのでよい
 - 4.自分の進路や将来を考えるのに役立つ
 - 5.地元のかかえる問題・課題について考えるのは大切だ
 - 6.学習する意欲がわかない
 - 7.あまり面白くない
 - 8.負担が増えてたいへんそう
 - 9.体験的な学習よりも普通科目に力を入れてほしい
 - 10.どういふものかよく知らない
 - 11.その他
- * その他(どんな内容かわからない4)
[複数回答:いくつでも]

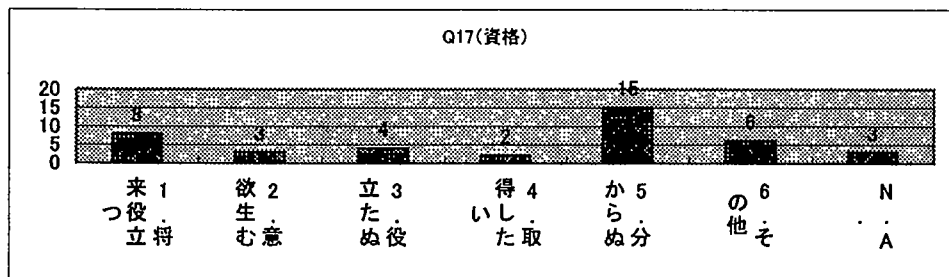
Q16(大雪)	回答数
1.学力向上	3
2.興味関心	3
3.地元	5
4.将来に役立つ	2
5.大切だ	7
6.意欲わかず	2
7.面白くない	7
8.負担増	1
9.普通科目に	2
10.よく知らぬ	16
11.その他	4
N.A.	2
延べ計	54



【Q17】上川高校で取得できるアウトドア資格について。

1. 将来役立つ
 2. 勉強の意欲を生む
 3. あまり役立たない
 4. 積極的に取得したい
 5. どのような資格なのか分からない
 6. その他
- * その他(どうでもいい1、知らない4、観光事業に役立ちそうだ1)
[複数回答:いくつでも]

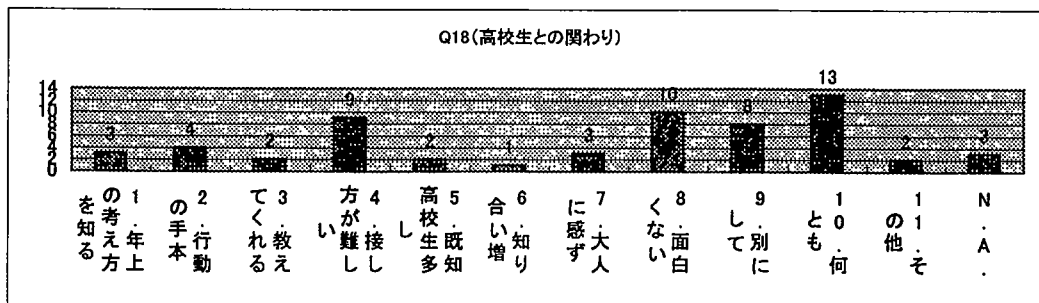
Q17(資格)	回答数
1. 将来役立つ	8
2. 意欲生む	3
3. 役立たぬ	4
4. 取得したい	2
5. 分からぬ	15
6. その他	6
N.A.	3
延べ計	41



【Q18】高校生と関わる機会が増えたことをどう思いますか。

1. 年上の生徒の考え方を知ることができる
 2. 行動や考えの手本・参考になる
 3. 勉強やその他の知識を教えてくれる
 4. 接するのが難しい、どう接していいかわからない
 5. 前から知っている高校生が多いのでやりやすい
 6. 知り合いが増えてうれしい
 7. 高校生はとても大人に感じる
 8. 高校生と勉強しても面白くない
 9. 中学校、高校それぞれ別に授業は行ってほしい
 10. 特に何とも思わない
 11. その他
- * その他(どうでもいい1、引っ込み思案になって意見を言えない1)
[複数回答:いくつでも]

Q18(高校生との関わり)	回答数
1. 年上の考え方を知る	3
2. 行動の手本	4
3. 教えてくれる	2
4. 接し方が難しい	9
5. 既知高校生多し	2
6. 知り合い増	1
7. 大人に感ず	3
8. 面白くない	10
9. 別にして	8
10. 何とも	13
11. その他	2
N.A.	3
延べ計	60



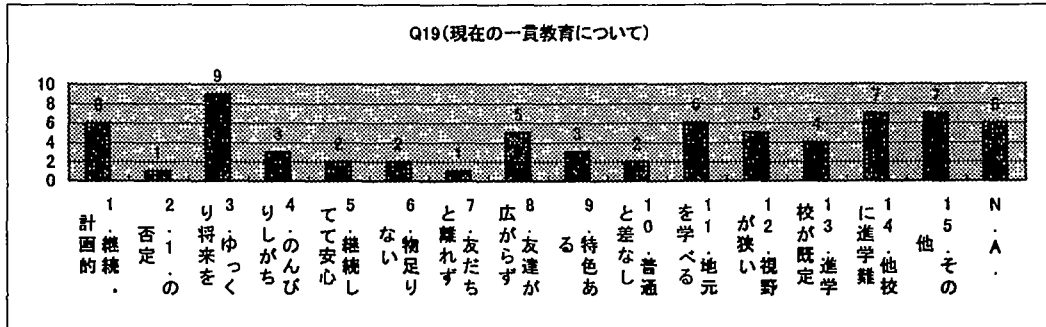
【Q19】現在の上川町の中高一貫教育についてどう思いますか。

1. 中高にわたって継続的・計画的な授業が行われている
2. 継続的・計画的な授業が行われていない
3. ゆっくりと自分の進路や将来が考えられる
4. のんびりしてしまって自分の進路などが考えられない
5. 中高の先生に継続して見てもらえるので安心だ
6. 高校に進学しても新しい先生に会えず物足りない
7. 高校進学時に友達と離れ離れにならないですむ
8. 友達の範囲が広がらない
9. 中学校と高校で特色のある教育活動が行われている
10. 普通の高校と変わらない教育活動が行われている
11. 地元のことをよく学ぶことができる
12. 地元だけを重視した視野の狭い教育になっている
13. 進学できる高校が決まっているので安心していられる
14. 上川高校以外に進学しにくくなる不安がある
15. その他

* その他(学力低下1、中高一貫の意味が見出せない3、など)

[複数回答:いくつでも]

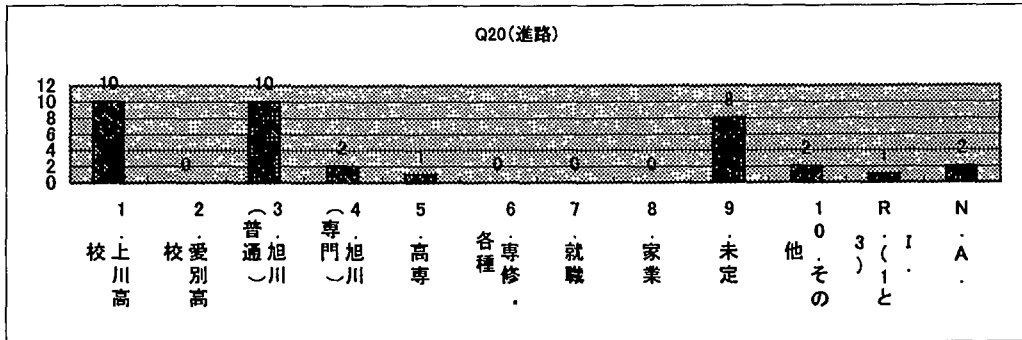
Q19(現在の一貫教育)	回答数
1.継続・計画的	6
2.1.の否定	1
3.ゆっくり将来を	9
4.のんびりしがち	3
5.継続してて安心	2
6.物足りない	2
7.友だちと離れず	1
8.友達が広がらず	5
9.特色ある	3
10.普通と差なし	2
11.地元を学べる	6
12.視野が狭い	5
13.進学校が既定	4
14.他校に進学難	7
15.その他	7
N.A.	6
延べ計	69
15.のうち無記入	1



【Q20】中学校を卒業した後どんな進路を希望していますか。

1. 上川高校へ進学
 2. 愛別高校へ進学
 3. 旭川市内の普通高校へ進学
 4. 旭川市内の専門高校(職業高校)
 5. 高等専門学校へ進学
 6. 専修学校・各種学校へ進学
 7. 就職(家事手伝い含む)
 8. 家業を継ぐ(見習い含む)
 9. まだ決めていない
 10. その他
- * その他(高校進学1、札幌の高校へ進学)

Q20(進路)	回答数
1.上川高校	10
2.愛別高校	0
3.旭川(普通)	10
4.旭川(専門)	2
5.高専	1
6.専修・各種	0
7.就職	0
8.家業	0
9.未定	8
10.その他	2
I.R.(1と3)	1
N.A.	2
計	36
高校計	25



【Q21】上川高校へ進学したい理由は何ですか。(前問1.のみ)

- 1.上川高校の雰囲気がいから
- 2.上川中学校と継続した教育を行っているから
- 3.地域が盛りたて、支援している学校だから
- 4.豊かな自然環境に囲まれているから
- 5.学習・生活のための施設や設備が充実しているから
- 6.中高の先生によるTTが導入されているから
- 7.数学・英語で習熟度別授業が展開されているから
- 8.いろいろな授業科目を選択できるから
- 9.総合学習や学校設定科目「大雪基礎」などが魅力だから
- 10.環境学習に力を入れているから
- 11.地域の学習に力を入れているから
- 12.やりたい部活があるから
- 13.小人数指導が行われているから
- 14.熱心に勉強を指導してくれる先生がいるから
- 15.自宅から近いから
- 16.家庭の経済的事情により
- 17.保護者にすすめられたから
- 18.中学校の先生にすすめられたから
- 19.上川高生に知り合いがいるから
- 20.友達や周りの人も上川高校に進学する予定だから
- 21.学力的にちょうど合っているから
- 22.学力をきちんと身につけることができるから
- 23.資格がとれるから
- 24.就職に有利だと思ったから
- 25.大学進学に有利だと思ったから
- 26.入学時に5教科の学力検査がないから
- 27.なんとなく
- 28.その他

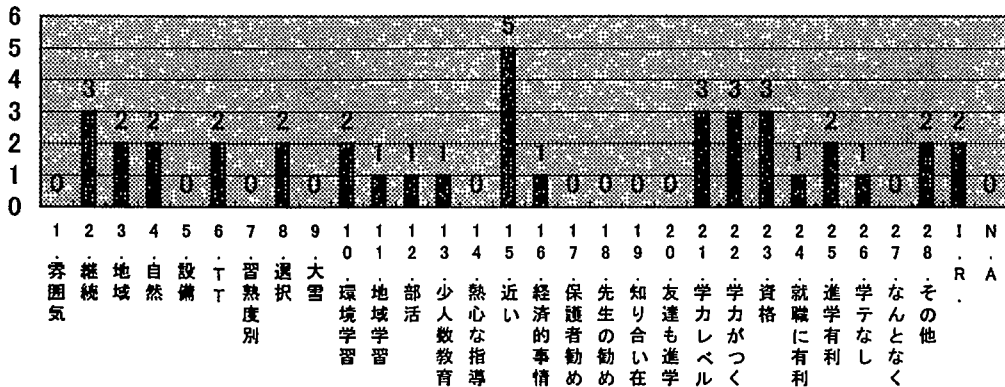
* その他(おもしろい大学に行けそう1、他の高校に行く意味がない1)

[複数回答:いくつでも]

[対象:Q20で1.と答えた人10人]

Q21(上高志望理由)	回答数
1.雰囲気	0
2.継続	3
3.地域	2
4.自然	2
5.設備	0
6.TT	2
7.習熟度別	0
8.選択	2
9.大雪	0
10.環境学習	2
11.地域学習	1
12.部活	1
13.小人数教育	1
14.熱心な指導	0
15.近い	5
16.経済的事情	1
17.保護者勧め	0
18.先生の勧め	0
19.知り合い在	0
20.友達も進学	0
21.学力レベル	3
22.学力がつく	3
23.資格	3
24.就職に有利	1
25.進学有利	2
26.学テなし	1
27.なんとなく	0
28.その他	2
I.R.	2
N.A.	0
延べ計	39
母数	10

Q21(上高志望理由)



【Q22】志望高校に進学したい理由は何ですか。

(Q20で上川高校以外の高校を選択した者に対して)

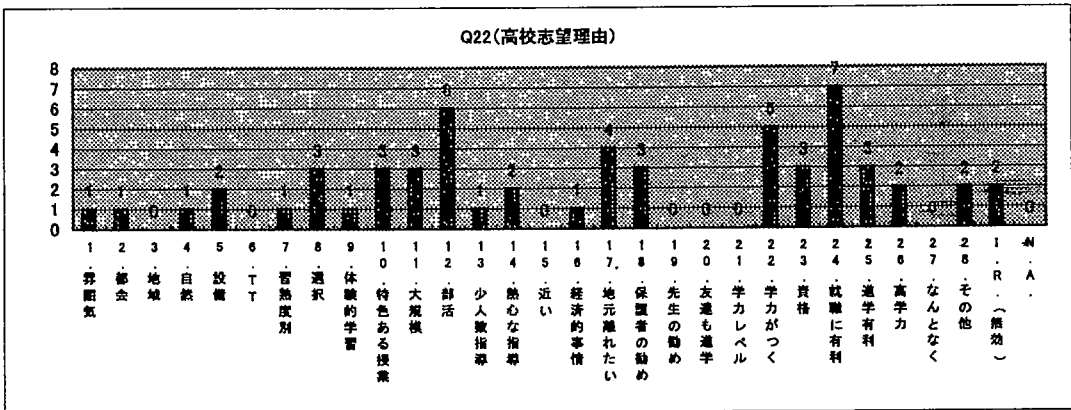
- 1.その高校の雰囲気がいから
- 2.都会にある学校だから
- 3.地域が盛りたて、支援している学校だから
- 4.豊かな自然環境に囲まれているから
- 5.学習・生活のための施設や設備が充実しているから
- 6.ITが導入されているから
- 7.習熟度別授業が展開されているから
- 8.いろいろな授業科目を選択できるから
- 9.自然や地域社会の中での体験的な学習ができるから
- 10.特色ある授業が行われているから
- 11.学校の規模が大きく生徒や先生の人数も多いから
- 12.やりたい部活があるから
- 13.小人数指導が行われているから
- 14.熱心に勉強を指導してくれる先生がいるから
- 15.自宅から近いから
- 16.家庭の経済的事情により
- 17.地元を離れたいから
- 18.保護者にすすめられたから
- 19.中学校の先生にすすめられたから
- 20.友達や周りの人も通っているから
- 21.学力的にちょうど合っているから
- 22.学力をきちんと身につけることができるから
- 23.資格がとれるから
- 24.就職に有利だと思ったから
- 25.大学進学に有利だと思ったから
- 26.高い学力を身につけたいから
- 27.なんとなく
- 28.その他

* その他(やりたいことを見つけるため一生懸命になれそうだから)

[複数回答:いくつでも]

[対象:Q20で上川以外の高校を選択した12人]

Q22(高校志望理由)	回答数
1.雰囲気	1
2.都会	1
3.地域	0
4.自然	1
5.設備	2
6.IT	0
7.習熟度別	1
8.選択	3
9.体験的学習	1
10.特色ある授業	3
11.大規模	3
12.部活	6
13.小人数指導	1
14.熱心な指導	2
15.近い	0
16.経済的事情	1
17.地元離れたい	4
18.保護者の勧め	3
19.先生の勧め	0
20.友達も進学	0
21.学力レベル	0
22.学力がつく	5
23.資格	3
24.就職に有利	7
25.進学有利	3
26.高学力	2
27.なんとなく	0
28.その他	2
I.R.(無効)	2
N.A.	0
延べ計	57
母数	12



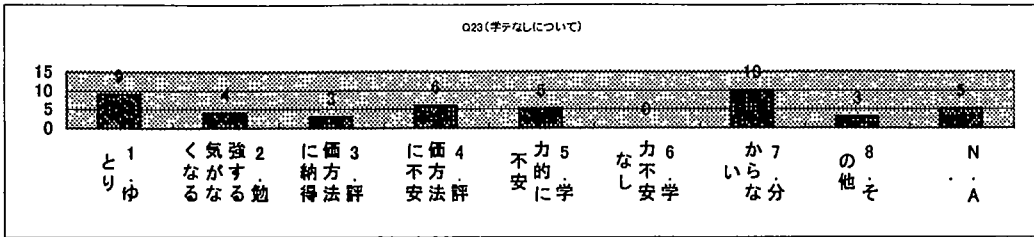
【Q23】高校入学時に学力検査がないことについてどう思いますか。

- 1.ゆとりがあるのでやりたい勉強ができる
- 2.勉強する気がなくなってしまう
- 3.レポートと面接で自分のことを理解してもらえるのでよい
- 4.レポートと面接でどのように評価・採点されるか不安だ
- 5.自分の学力で高校でやっていけるかどうか不安だ
- 6.ふだんから高校の先生にも教わっているので不安はない
- 7.分からない
- 8.その他

* その他(学力格差の心配1、学力低下の心配1、評価の不安1)

[複数回答:いくつでも]

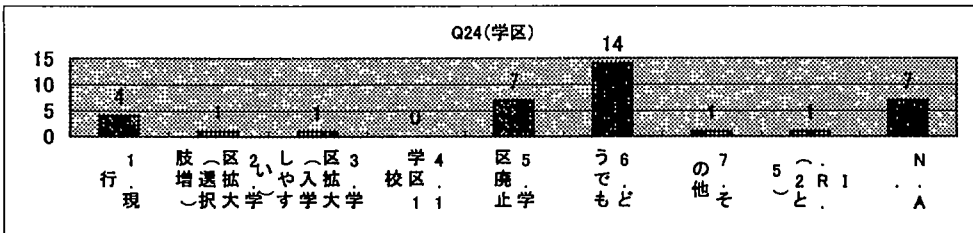
Q23(学力なしについて)	回答数
1.ゆとり	9
2.勉強する気がなくな	4
3.評価方法に納得	3
4.評価方法に不安	6
5.学力的に不安	5
6.学力不安なし	0
7.分からない	10
8.その他	3
N.A.	5
延べ計	45



【Q24】高校入試における学区制度についてどう考えますか。

1. 現行の学区制度のままで良い
 2. 受験できる選択肢を増やすために学区を拡大すべきだ
 3. 他地域から上川高校に入学しやすいように拡大すべきだ
 4. 1学区1高校にしてみな地元の高校に通うべきだ
 5. 学区制度を廃止し、道内の高校を自由に選ばずべきだ
 6. 別にどうでも良い
 7. その他
- * その他(意味がよく分からない)

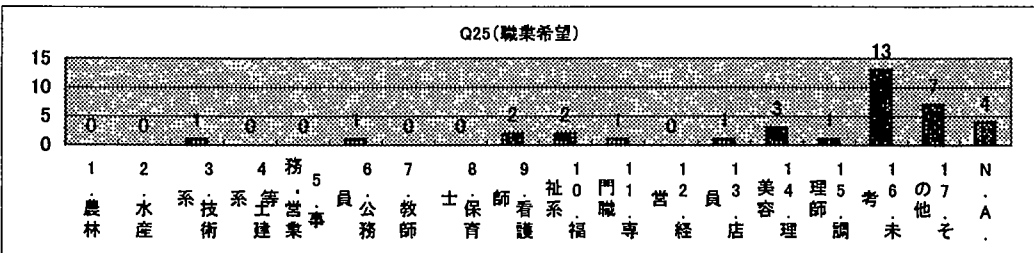
Q24(学区)	回答数
1. 現行	4
2. 学区拡大(選択肢増)	1
3. 学区拡大(入学しやすい)	1
4. 1学区1校	0
5. 学区廃止	7
6. どうでも	14
7. その他	1
I.R.(2と5)	1
N.A.	7
計	36



【Q25】将来はどんな職業につきたいですか。

1. 農業・林業
 2. 水産業
 3. 技師・技術者(工業・メーカー・自動車・情報など)
 4. 建築・建設業(工務店や建設会社など)
 5. サラリーマン(事務職・営業職)
 6. 公務員
 7. 教師
 8. 保育士
 9. 看護師
 10. 福祉関係の職業
 11. 医者・弁護士・研究者などの専門職
 12. 会社経営
 13. 小売業・店員
 14. 美容師・理容師
 15. 調理師
 16. まだ考えていない
 17. その他
- * その他(うぐいす1、サッカー関係1、国際系1、服飾関係1)

Q25(職業希望)	回答数
1. 農林	0
2. 水産	0
3. 技術系	1
4. 土建系	0
5. 事務・営業等	0
6. 公務員	1
7. 教師	0
8. 保育士	0
9. 看護師	2
10. 福祉系	2
11. 専門職	1
12. 経営	0
13. 店員	1
14. 理美容	3
15. 調理師	1
16. 未考	13
17. その他	7
N.A.	4
計	36
17.のうち無記入	3



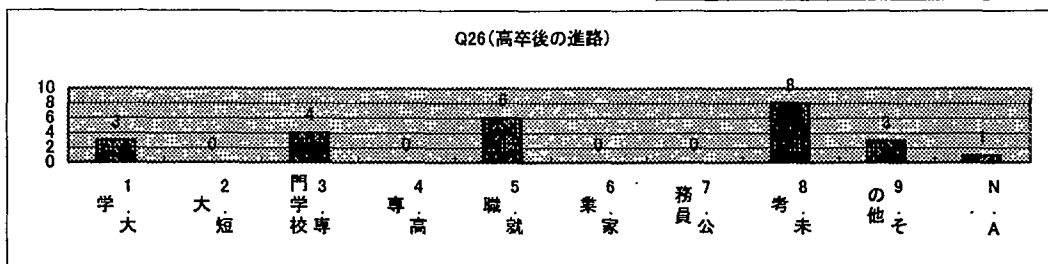
【Q26】高校卒業後についてどんな希望を持っていますか。(Q20高

- 1.大学へ進学
- 2.短期大学へ進学
- 3.専門学校へ進学
- 4.高等専門学校(高専)へ進学
- 5.就職(家事手伝い含む)
- 6.家業を継ぐ(見習い含む)
- 7.公務員
- 8.まだ考えていない
- 9.その他

*その他は無記入3

[対象: Q20で高校進学を選択した25人]

Q26(高卒後の進路)	回答数
1.大学	3
2.短大	0
3.専門学校	4
4.高専	0
5.就職	6
6.家業	0
7.公務員	0
8.未考	8
9.その他	3
N.A.	1
計	25
9のうち無記入母数	2
	25

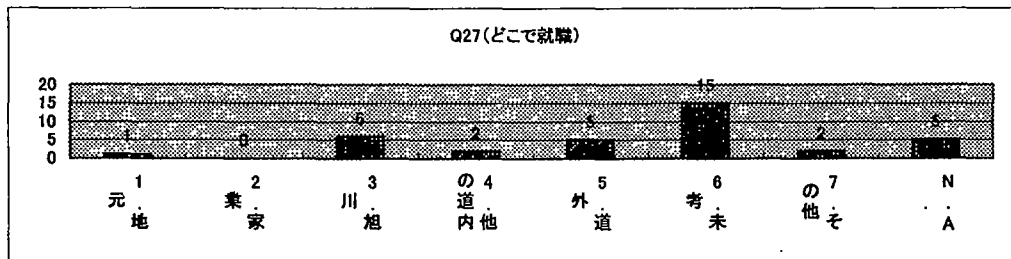


【Q27】将来どこで就職したいですか。

- 1.地元(上川町とその周辺)で就職
- 2.地元で家業を継ぐ(見習い含む)
- 3.旭川で就職
- 4.その他の道内地域で就職
- 5.道外で就職
- 6.まだ考えていない
- 7.その他

*その他(どこでもいい、無記入1)

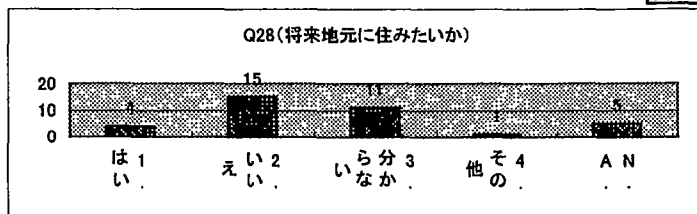
Q27(どこで就職)	回答数
1.地元	1
2.家業	0
3.旭川	6
4.他の道内	2
5.道外	5
6.未考	15
7.その他	2
N.A.	5
計	36
7のうち無記入	1



【Q28】将来地元に住みたいと思いますか。

- 1.はい
 - 2.いいえ
 - 3.分からない
 - 4.その他
- *その他(そのときによる)

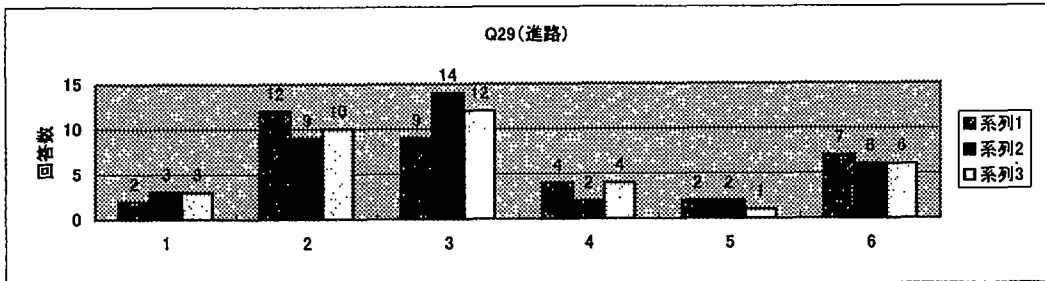
Q28(将来地元住みた)	回答数
1.はい	4
2.いいえ	15
3.分からない	11
4.その他	1
N.A.	5
計	36



【Q29】進路を考えるための情報や進路指導, 学習は十分ですか。

- (1)情報は十分ありますか。
 (2)十分な進路指導を受けていますか。
 (3)高校や専修学校, 高専, 職業について学ぶ機会は。
 1.十分である
 2.まあまあ十分
 3.少し不足している
 4.たいへん不足している
 5.その他

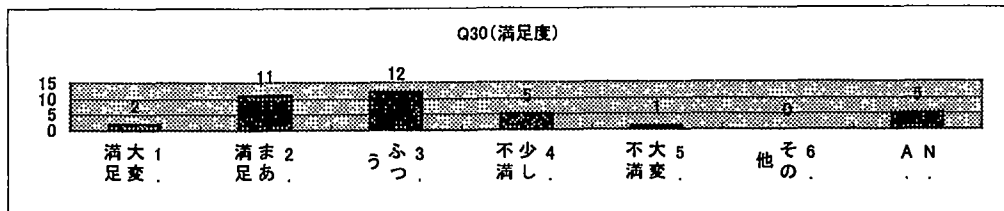
Q29(進路)	(1)回答数	(1)割合
1.十分	2	5.56%
2.まあ十分	12	33.33%
3.少し不足	9	25.00%
4.大変不足	4	11.11%
5.その他	2	5.56%
6.N.A.	7	19.44%
計	36	100.00%
5.のうち無記入	2	100.00%
	(2)回答数	(2)割合
	3	8.33%
	9	25.00%
	14	38.89%
	2	5.56%
	2	5.56%
	6	16.67%
	36	100.00%
	2	100.00%
	(3)回答数	(3)割合
	3	
	10	
	12	
	4	
	1	
	6	
	36	
	1	



【Q30】中学校生活に満足していますか。(1~5は理由も)

- 1.たいへん満足している
 2.まあまあ満足している
 3.ふつう
 4.少し不満である
 5.たいへん不満である
 6.その他
 [理由]
 1. 友達といられるから
 2. 服装のバリエーションを増やしてほしい
 3. つかれる
 4. いろんなことが始まって大変、つらい
 5. 無記入

Q30(満足度)	回答数
1.大変満足	2
2.まあ満足	11
3.ふつう	12
4.少し不満	5
5.大変不満	1
6.その他	0
N.A.	5
計	36
1.理由	1
2.理由	1
3.理由	1
4.理由	2
5.理由	0

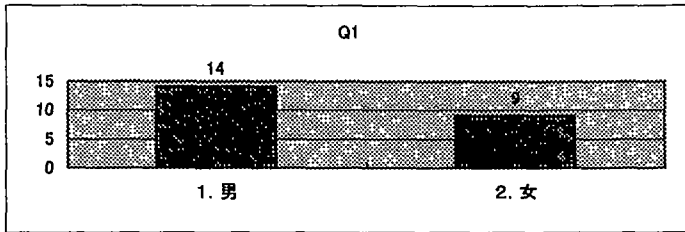


③上川町の中高一貫教育に関するアンケート 上川高校1年生保護者

上川町の中高一貫に関するアンケート③ 高校1年生保護者(回答数23・回収率69.7%)

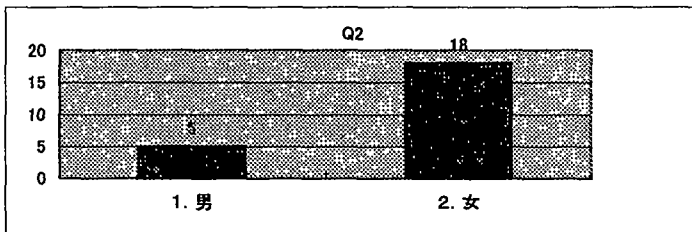
【Q1】あなた(保護者)の子どもの性別を教えてください。(Oを1つ)

選択肢	選択数
1. 男	14
2. 女	9



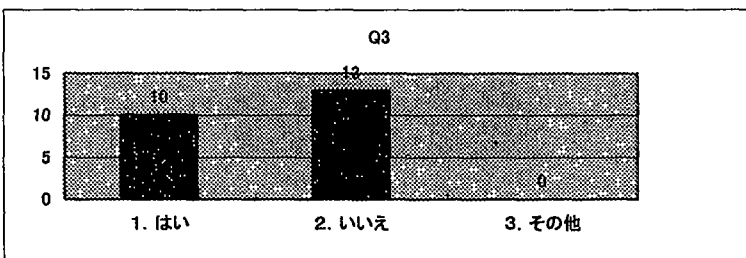
【Q2】あなたの性別を教えてください。(Oを1つ)

選択肢	選択数
1. 男	5
2. 女	18



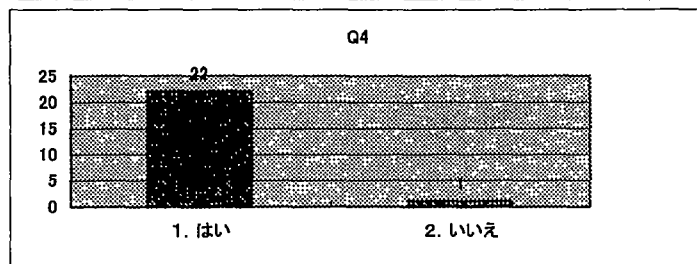
【Q3】あなたは上川町の出身ですか？(Oを1つ)

選択肢	選択数
1. はい	10
2. いいえ	13
3. その他	0



【Q4】上川高校と上川中学校が連携し、本年度から正式に中高一貫教育校となったことを知っていますか？(Oを1つ)

選択肢	選択数
1. はい	22
2. いいえ	1

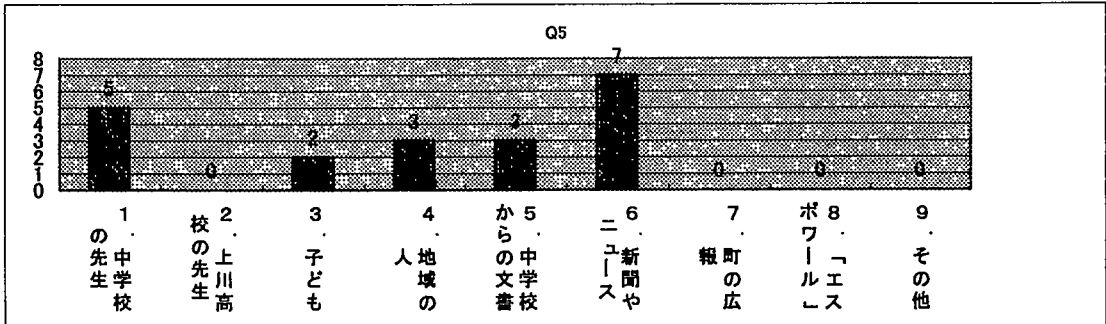


【Q5】上川高校が中高一貫教育校になった(なる)ことを最初にどうやって知りましたか？(〇を1つ)

選択肢	選択数
1. 中学校の先生	5
2. 上川高校の先生	0
3. 子ども	2
4. 地域の人	3
5. 中学校からの文書	3
6. 新聞やニュース	7
7. 町の広報	0
8. 「エスポワール」	0
9. その他	0

※無回答1名

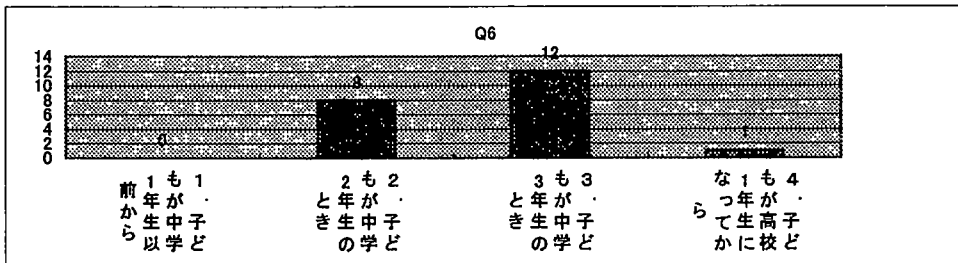
※1・3を選択した人1名、4・6・7・8を選択した人1名



【Q6】上川高校が上川中学校と中高一貫教育校になった(なる)ことを最初に知ったのはいつですか？(〇を1つ)

選択肢	選択数
1. 子どもが中学1年生以前から	0
2. 子どもが中学2年生のとき	8
3. 子どもが中学3年生のとき	12
4. 子どもが高校1年生になってから	1

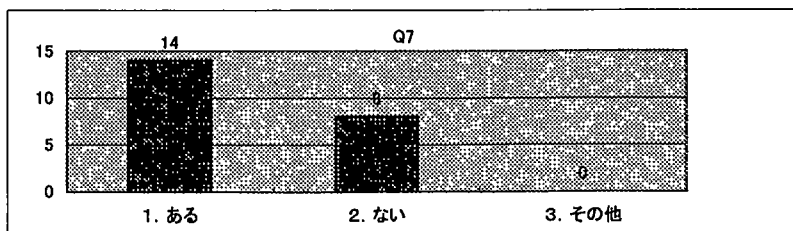
※無回答2名



【Q7】中高一貫教育についてきちんと説明を受けたことがありますか？(〇を1つ)

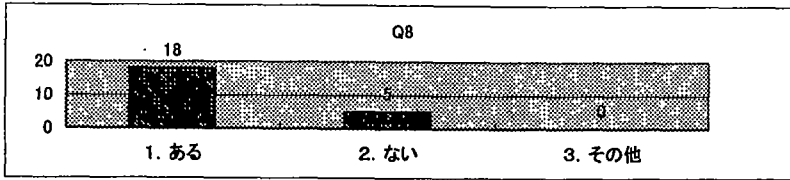
選択肢	選択数
1. ある	14
2. ない	8
3. その他	0

※無回答1名



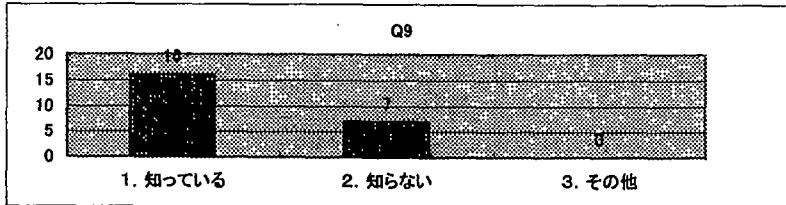
【Q8】上川町における中高一貫教育のパンフレットや広報紙などを読んだことはありますか？(○を1つ)

選択肢	選択数
1. ある	18
2. ない	5
3. その他	0



【Q9】中高一貫教育のタイプには中等教育学校(完全6年一体型)、併設型、連携型の3つがあります。上川の中高一貫教育が連携型であることを知っていますか？(○を1つ)

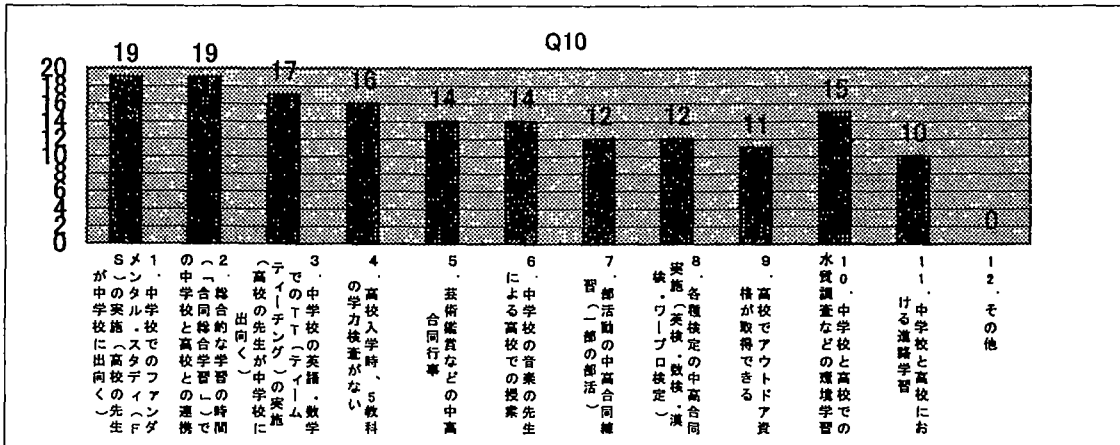
選択肢	選択数
1. 知っている	16
2. 知らない	7
3. その他	0



【Q10】上川町の中高一貫教育の実践に関して知っているものを全て選んでください。(○をいくつでも)

選択肢	選択数
1. 中学校でのファンダメンタル・スタディ(FS)の実施(高校の先生が中学校に出向く)	19
2. 総合的な学習の時間(「合同総合学習」)での中学校と高校との連携	19
3. 中学校の英語・数学でのTT(チームティーチング)の実施(高校の先生が中学校に出向く)	17
4. 高校入学時、5教科の学力検査がない	16
5. 芸術鑑賞などの中高合同行事	14
6. 中学校の音楽の先生による高校での授業	14
7. 部活動の中高合同練習(一部の部活)	12
8. 各種検定の中高合同実施(英検・数検・漢検・ワープロ検定)	12
9. 高校でアウトドア資格が取得できる	11
10. 中学校と高校での水質調査などの環境学習	15
11. 中学校と高校における進路学習	10
12. その他	0

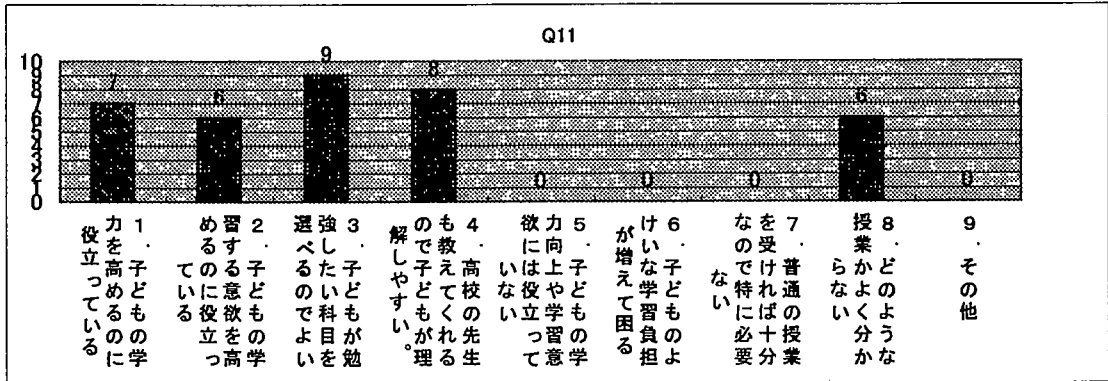
※無回答1名



【Q11】上川中学校のファンダメンタル・スタディ(FS)の時間についてどう思いますか？(〇をいくつでも)
(上川中学校出身生徒の保護者の方のみ回答してください)

選択肢	選択数
1. 子どもの学力を高めるのに役立っている	7
2. 子どもの学習する意欲を高めるのに役立っている	6
3. 子どもが勉強したい科目を選べるのでよい	9
4. 高校の先生も教えてくれるので子どもが理解しやすい。	8
5. 子どもの学力向上や学習意欲には役立っていない	0
6. 子どものよけいな学習負担が増えて困る	0
7. 普通の授業を受ければ十分なので特に必要ない	0
8. どのような授業がよく分からない	6
9. その他	0

※無回答5名

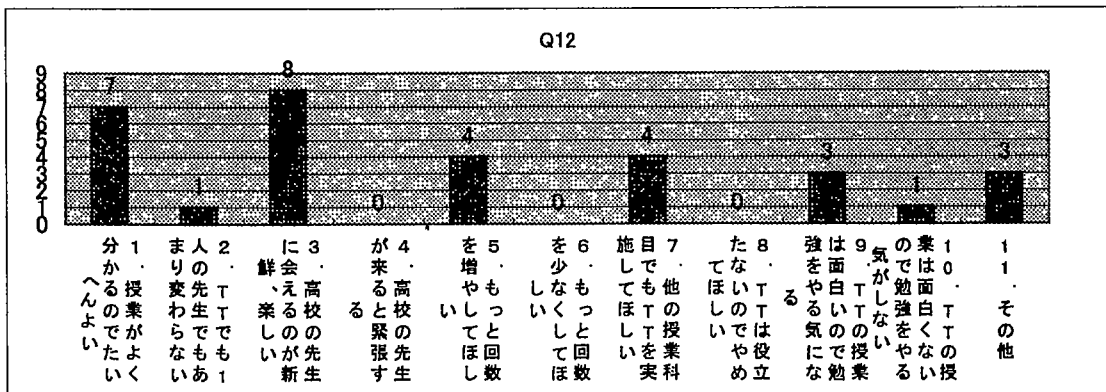


【Q12】上川中学校の英語・数学でのTT(チームティーチング)についてどう思いますか？(〇をいくつでも)(上川中学校出身生徒の保護者の方のみ回答してください)

選択肢	選択数
1. 授業がよく分かるのでたいへんよい	7
2. TTでも1人の先生でもあまり変わらない	1
3. 高校の先生に会えるのが新鮮、楽しい	8
4. 高校の先生が来ると緊張する	0
5. もっと回数を増やしてほしい	4
6. もっと回数を少なくしてほしい	0
7. 他の授業科目でもTTを実施してほしい	4
8. TTは役立たないのでやめてほしい	0
9. TTの授業は面白いので勉強をやる気になる	3
10. TTの授業は面白くないので勉強をやる気がしない	1
11. その他	3

※無回答8名

※「11. その他」については、「効果がわからない」「よくわからない」という意見があった。

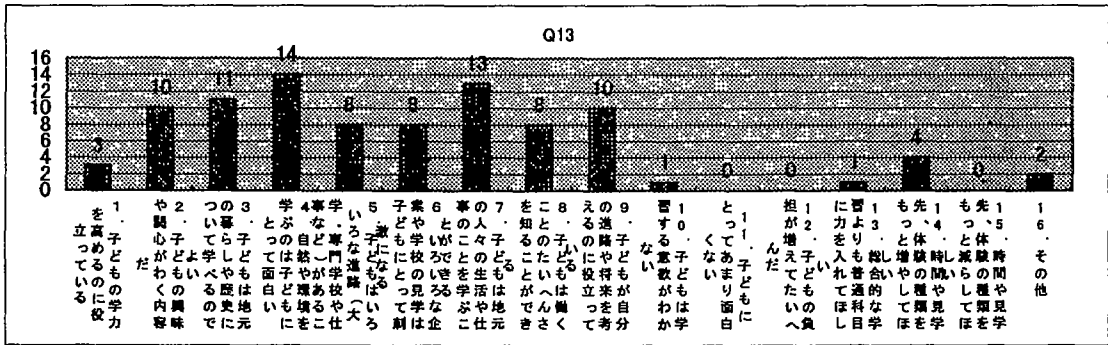


【Q13】中学生と高校生が合同で参加する「合同総合学習」「大雪地理巡検」「進路啓発学習」「地域産業体験」についてどう思いますか？(〇をいくつでも)

選択肢	選択数
1. 子どもの学力を高めるのに役立つ	3
2. 子どもの興味や関心がわく内容だ	10
3. 子どもは地元の暮らしや歴史について学べるのでよい	11
4. 自然や環境を学ぶのは子どもにとって面白い	14
5. 子どもはいろいろな進路(大学・専門学校や仕事など)があることがよく分かる	8
6. いろいろな企業や学校の見学は子どもにとって刺激になる	8
7. 子どもは地元の人々の生活や仕事のことを学ぶことができる	13
8. 子どもは働くことのたいへんさを知ることができる	8
9. 子どもが自分の進路や将来を考えるのに役立つ	10
10. 子どもは学習する意欲がわかない	1
11. 子どもにとってあまり面白くない	0
12. 子どもの負担が増えてたいへんだ	0
13. 総合的な学習よりも普通科目に力を入れてほしい	1
14. 時間や見学先、体験の種類をもっと増やしてほしい	4
15. 時間や見学先、体験の種類をもっと減らしてほしい	0
16. その他	2

※無回答1名

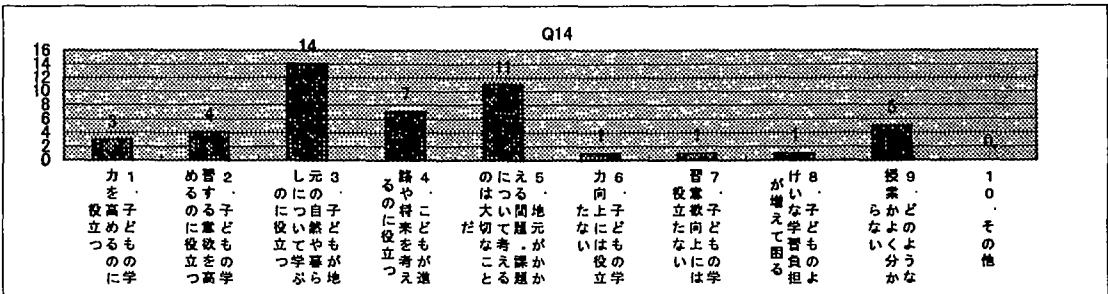
※「16. その他」については、「保護者も参加してくれるようにしてほしい」という意見があった。



【Q14】上川高校の学校設定科目「大雪基礎」についてどう思いますか。(〇をいくつでも)

選択肢	選択数
1. 子どもの学力を高めるのに役立つ	3
2. 子どもの学習する意欲を高めるのに役立つ	4
3. 子どもが地元の自然や暮らしについて学ぶのに役立つ	14
4. こどもが進路や将来を考えるのに役立つ	7
5. 地元がかかえる問題・課題について考えるのは大切なことだ	11
6. 子どもの学力向上には役立たない	1
7. 子どもの学習意欲向上には役立たない	1
8. 子どものよけいな学習負担が増える	1
9. どのような授業がよく分からない	5
10. その他	0

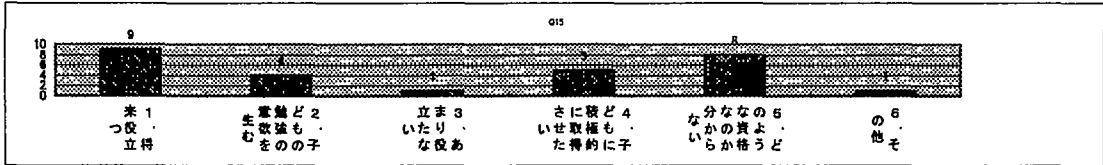
※無回答3名



【Q15】上川高校で取得できるアウトドア資格(基礎分野)についてどう思いますか？(○をいくつでも)

選択肢	選択数
1. 将来役立つ	9
2. 子どもの勉強の意欲を生む	4
3. あまり役立たない	1
4. 子どもに積極的に取得させたい	5
5. どのような資格なのか分からない	8
6. その他	1

※無回答2名

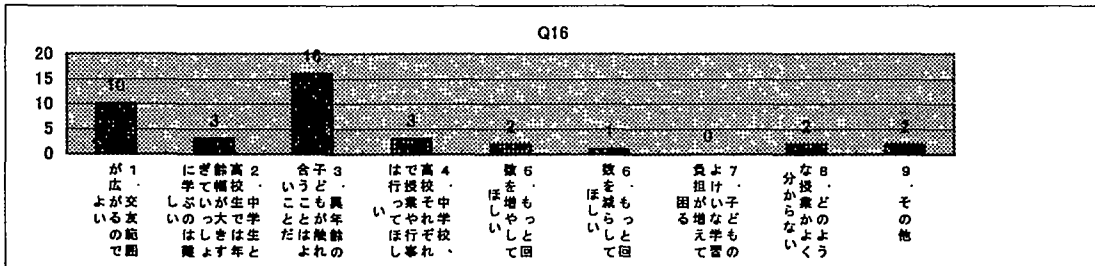


【Q16】中高合同授業・行事(中学生と高校生が合同で参加する授業・行事)で中学生と高校生が触れ合うことをどう思いますか。(○をいくつでも)

選択肢	選択数
1. 交友範囲が広がるのでよい	10
2. 中学生と高校生では年齢幅が大きすぎていっしょに学ぶのは難しい	3
3. 異年齢の子どもが触れ合うことはよいことだ	16
4. 中学校、高校それぞれで授業や行事は行ってほしい	3
5. もっと回数を増やしてほしい	2
6. もっと回数を減らしてほしい	1
7. 子どものよけいな学習負担が増えて困る	0
8. どのような授業がよく分からない	2
9. その他	2

※無回答1名

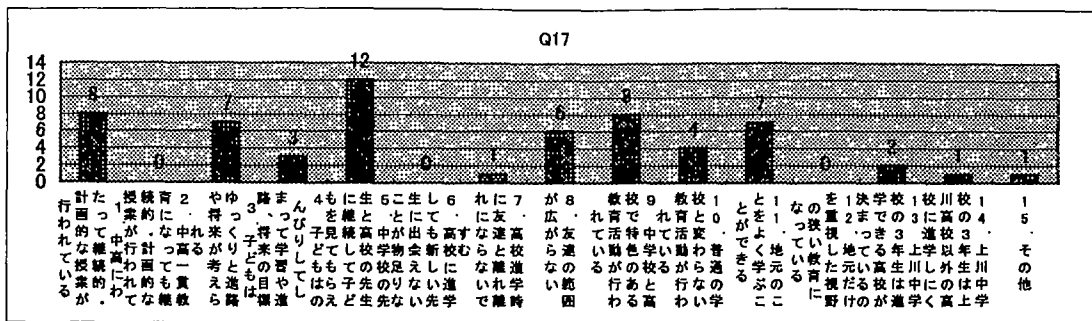
※「9. その他」については、「行事よりも部活動等でもっと協力し合える体制にしてほしい」「高校の学校祭にお互いに出店を出すなどとてもよかった」という意見があった。



【Q17】現在の上川の中高一貫教育について、あなたは どう 思いますか？(○をいくつでも)

選択肢	選択数
1. 中高にわたって継続的・計画的な授業が行われている	8
2. 中高一貫教育になっても継続的・計画的な授業が行われていない	0
3. 子どもはゆっくりと進路や将来が考えられる	7
4. 子どもはのんびりしてしまって学習や進路、将来の目標が考えられない	3
5. 中学校の先生と高校の先生に継続して子どもを見てもらえるので安心だ	12
6. 高校に進学しても新しい先生に出会えないことが物足りない	0
7. 高校進学時に友達と離れ離れにならないですむ	1
8. 友達の範囲が広がらない	6
9. 中学校と高校で特色のある教育活動が行われている	8
10. 普通の学校と変わらない教育活動が行われている	4
11. 地元のことをよく学ぶことができる	7
12. 地元だけを重視した視野の狭い教育になっている	0
13. 上川中学校の3年生は進学できる高校が決まっているので安心してられる	2
14. 上川中学校の3年生は上川高校以外の高校に進学しにくくなるのではないかと不安がある	1
15. その他	1

※無回答3名

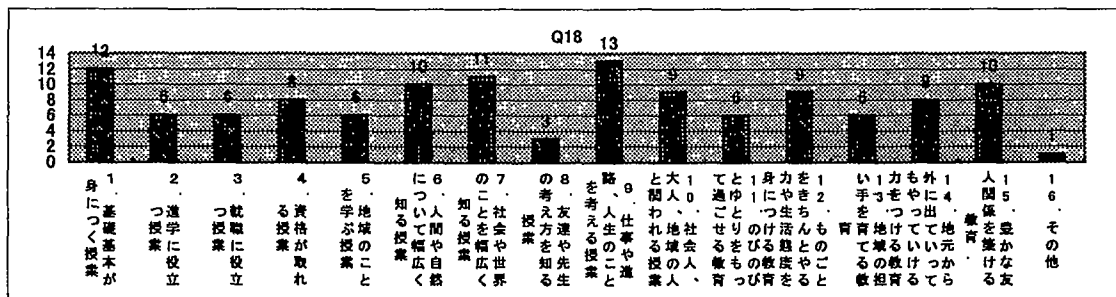


【Q18】あなたは上川高校にどんな授業や教育を望みますか？(○をいくつでも)

選択肢	選択数
1. 基礎基本が身につく授業	12
2. 進学に役立つ授業	6
3. 就職に役立つ授業	6
4. 資格が取れる授業	8
5. 地域のことを学ぶ授業	6
6. 人間や自然について幅広く知る授業	10
7. 社会や世界のことを幅広く知る授業	11
8. 友達や先生のお考えを知る授業	3
9. 仕事や進路、人生のことを考える授業	13
10. 社会人、大人、地域の人と関われる授業	9
11. のびのびとゆとりをもって過ごせる教育	6
12. ものごとをきちんとやる力や生活態度を身につける教育	9
13. 地域の担い手を育てる教育	6
14. 地元から外に出ていってもやっつけられる力をつける教育	8
15. 豊かな友人関係を築ける教育	10
16. その他	1

※無回答1名

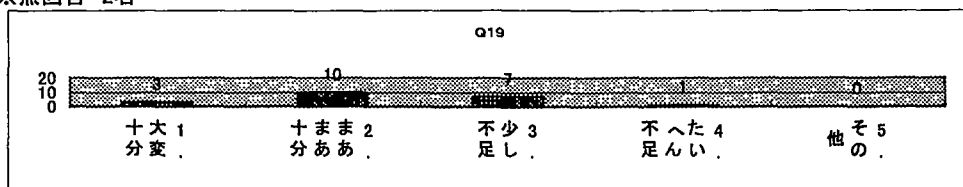
※「16. その他」については、「興味あることを実際に体験できる授業」という意見があった。



【Q19】上川町の中高一貫教育について情報は十分ですか？(○を1つ)

選択肢	選択数
1. 大変十分	3
2. まあまあ十分	10
3. 少し不足	7
4. たいへん不足	1
5. その他	0

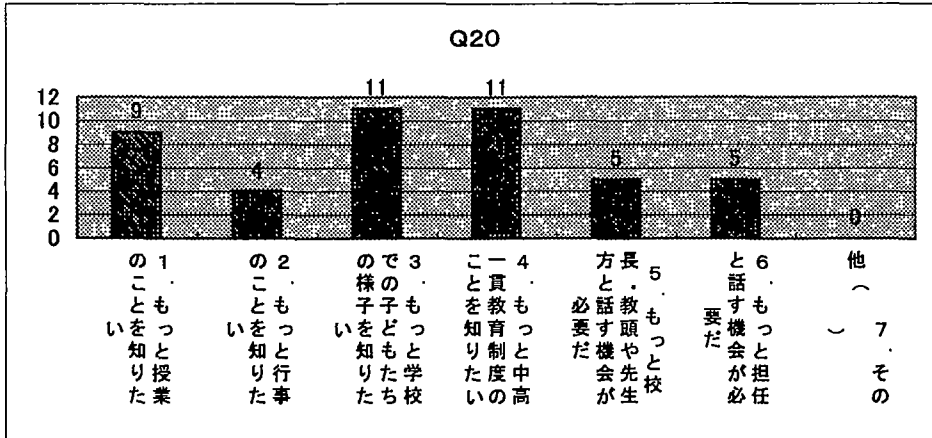
※無回答 2名



【Q20】上川町の中高一貫教育についてどのような情報を望みますか？(〇をいくつでも)

選択肢	選択数
1. もっと授業のことを知りたい	9
2. もっと行事のことを知りたい	4
3. もっと学校での子どもたちの様子を知りたい	11
4. もっと中高一貫教育制度のことを知りたい	11
5. もっと校長・教頭や先生方と話す機会が必要だ	5
6. もっと担任と話す機会が必要だ	5
7. その他	0

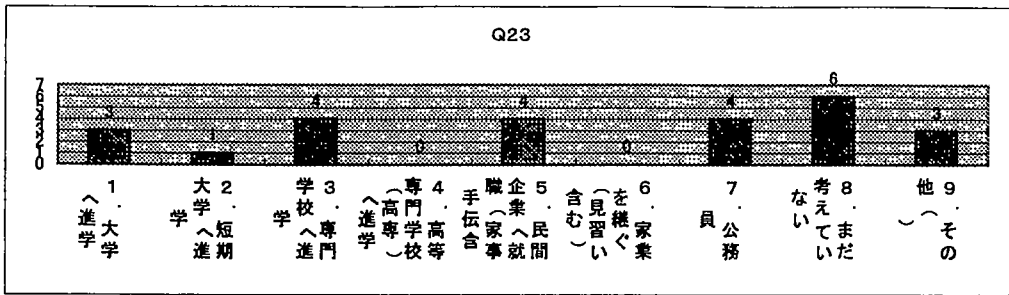
* 無回答2名



【Q21】子どもを上川高校へ進学させた理由は何ですか？(〇をいくつでも)

選択肢	選択数
1. 上川高校の雰囲気がいから	6
2. 上川中学校と継続した教育を行っているから	1
3. 地域が盛り立て、支援している学校だから	6
4. 豊かな自然環境に囲まれているから	6
5. 学習・生活のための施設や設備が充実しているから	1
6. 中高の先生によるチーム・ティーチング(TT)が導入されているから	2
7. 数学・英語で習熟度別授業が展開されているから	6
8. いろいろの授業科目が選択できるから	5
9. 総合学習や学校設定科目「大雪基礎」「大雪研究」が魅力的だから	2
10. 環境学習に力を入れているから	2
11. 地域の学習に力を入れているから	2
12. 子どものやりたい部活があったから	2
13. 少人数指導が行われ、1人1人にゆきとどいた指導がなされているから	14
14. 熱心に勉強を指導してくれる先生がいるから	9
15. 自宅から近いから	13
16. 家庭の経済的事情により	8
17. 子どもが行きたいと言っているから	8
18. 中学校の先生に勧められたから	2
19. 上川高生に子どもの知り合いがいるから	0
20. 子どもの友達や周りの人が上川高校に進学する(していた)から	1
21. 学力的にちょうど合っていたから	11
22. 子どもの学力をきちんとつけてくれるから	3
23. 資格がとれるから	3
24. 就職に有利だと思うから	1
25. 進学に有利だと思うから	4
26. 子どもが高い学力を身につけられるから	1
27. なんとなく	0
28. その他	0

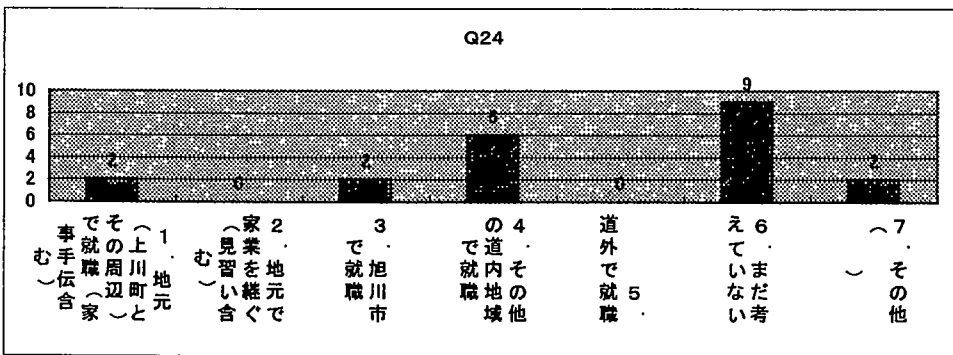
* 無回答1名



【Q24】子どもには将来どこで就職してもらいたいですか？(〇を1つ)

選択肢	選択数
1. 地元(上川町とその周辺)で就職(家事手伝含む)	2
2. 地元で家業を継ぐ(見習い含む)	0
3. 旭川市で就職	2
4. その他の道内地域で就職	6
5. 道外で就職	0
6. まだ考えていない	9
7. その他	2

* その他には「出来れば道内がよいが、子どもの望むところに行かせたい」という意見があった。
* 無回答2名

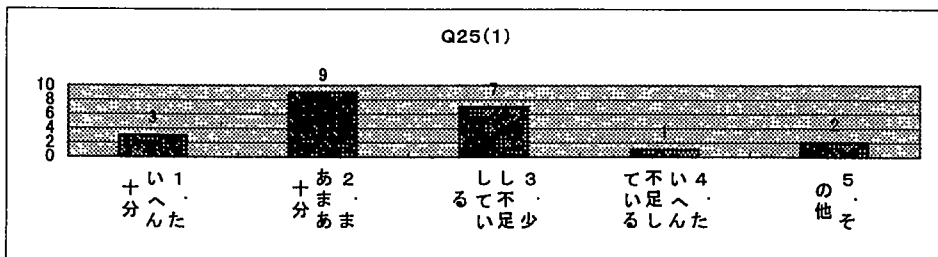


【Q25】子どもは将来の進路を考えるための情報や学校の指導を十分に受けていると思いますか？(それぞれ〇を1つ)

(1) 情報は十分ありますか？

選択肢	選択数
1. たいへん十分	3
2. まあまあ十分	9
3. 少し不足している	7
4. たいへん不足している	1
5. その他	2

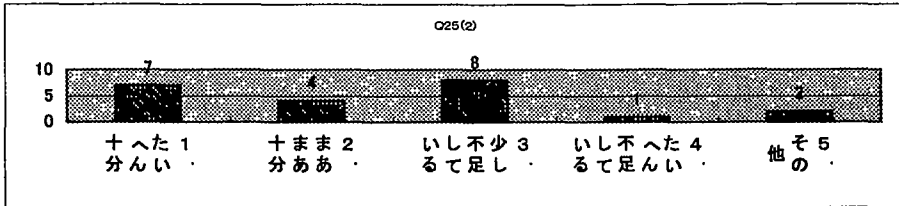
* その他には「まだ分からない」という意見があった。
* 無回答1名



(2) 十分な進路指導を受けていますか？

選択肢	選択数
1. たいへん十分	7
2. まあまあ十分	4
3. 少し不足している	8
4. たいへん不足している	1
5. その他	2

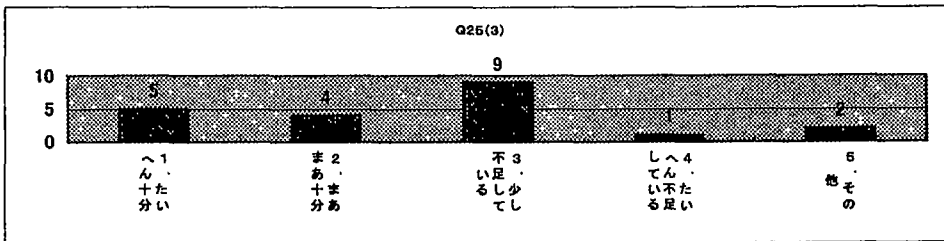
* 無回答1名



(3) 大学や専門学校、職業について学ぶ機会が十分ありますか？

選択肢	選択数
1. たいへん十分	5
2. まあまあ十分	4
3. 少し不足している	9
4. たいへん不足している	1
5. その他	2

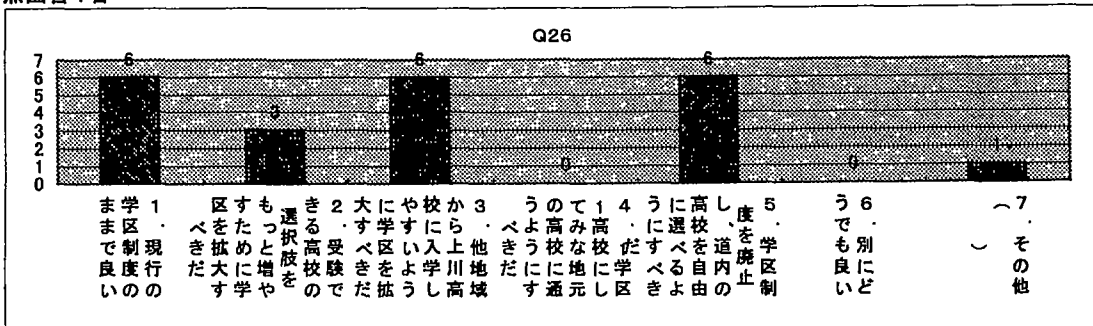
* 無回答2名



【Q26】上川第2学区は上川高校と愛別高校の2校で1つの学区となっています。高校入試における学区制度について、どのように考えていますか？ あてはまる選択肢に○をつけてください。(○を1つ)

選択肢	選択数
1. 現行の学区制度のままで良い	6
2. 受験できる高校の選択肢をもっと増やすために学区を拡大すべきだ	3
3. 他地域から上川高校に入学しやすいように学区を拡大すべきだ	6
4. 1学区1高校にしてみんな地元の高校に通うようにすべきだ	0
5. 学区制度を廃止し、道内の高校を自由に選べるようにすべきだ	6
6. 別にどうでも良い	0
7. その他	1

* 無回答4名



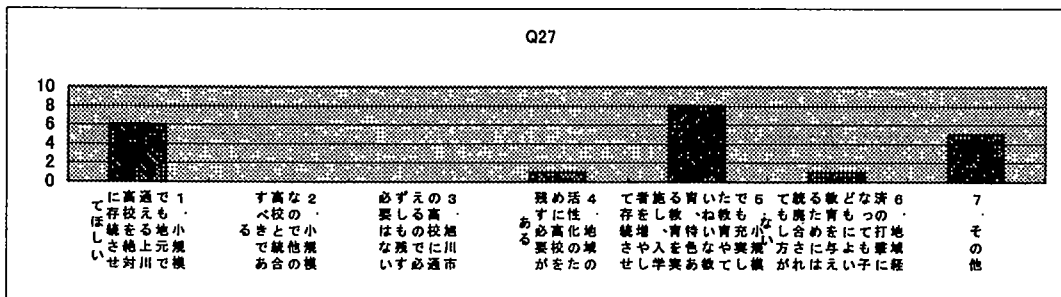
【Q27】近年子どもの数が減ってきていますが、上川高校をどうすべきだと思いますか？(〇を1つ)

選択肢	選択数
1. 小規模でも地元で通える上川高校を絶対に存続させてほしい	6
2. 小規模なので他の高校と統合すべきである	0
3. 旭川市の高校に通えるので必ずしも残す必要はない	0
4. 地域の活性化のために高校を残す必要がある	1
5. 小規模でも充実した教育やいい教育、特色ある教育を実施し、入学者を増やして存続させる	8
6. 地域経済の打撃になっても子どもにより教育を与えるためには統廃合されても仕方ない	1
7. その他	5

が1つ

(1・4・5×1名)あった。

* 無回答2名

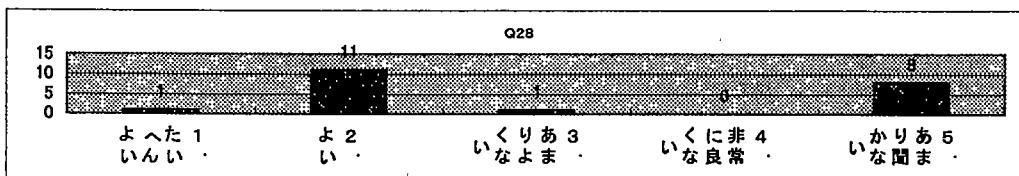


【Q28】あなたの周りで上川中高一貫教育についてどんな評判を聞きますか？(〇を1つ)

選択肢	選択数
1. たいへんよい	1
2. よい	11
3. あまりよくない	1
4. 非常に良くない	0
5. あまり聞かない	8

* その他には「中高の交流の場がある」という意見があった。

* 無回答2名



【Q29】子どもを上川高校へ進学させて良かったと思いますか？(〇を1つ)

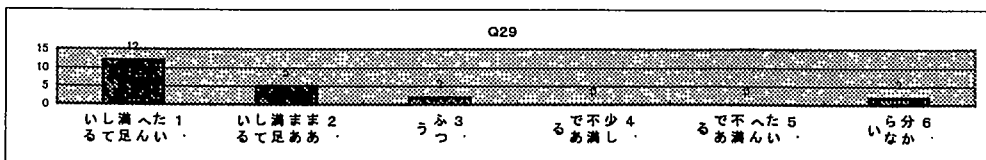
選択肢	選択数
1. たいへん満足している	12
2. まあまあ満足している	5
3. ふつう	2
4. 少し不満である	0
5. たいへん不満である	0
6. 分からない	2

* その他において、「子ども自身が良かったと言っている(2名)」

「先生が子どもをよく知りの確に指導してくれている、温かく見守ってくれている(1名)」

「好きなクラブ活動がないことが不満(1名)」、「部活が少ない(1名)」という意見があった。

* 無回答2名

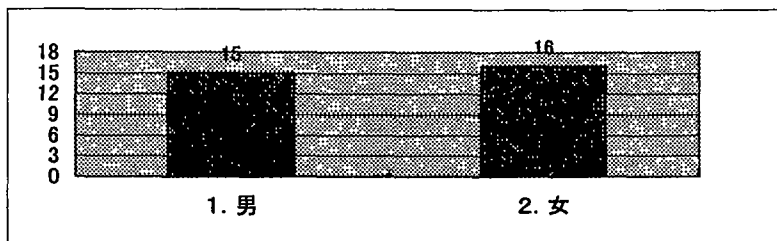


④上川町の中高一貫教育に関するアンケート
ト 中学校3年生保護者

上川町の中高一貫教育に関するアンケート④ 中学校3年生保護者(回答数31・回収率86.1%)

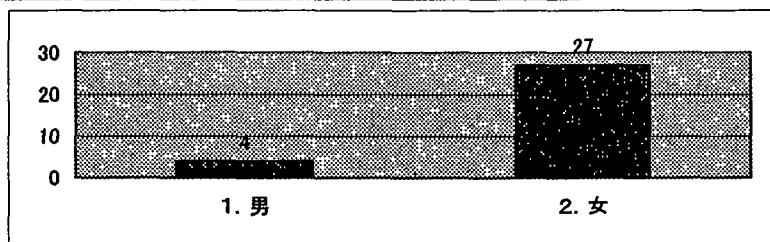
【Q1】あなた(保護者)の子どもの性別を教えてください。(〇を1つ)

1. 男	15
2. 女	16



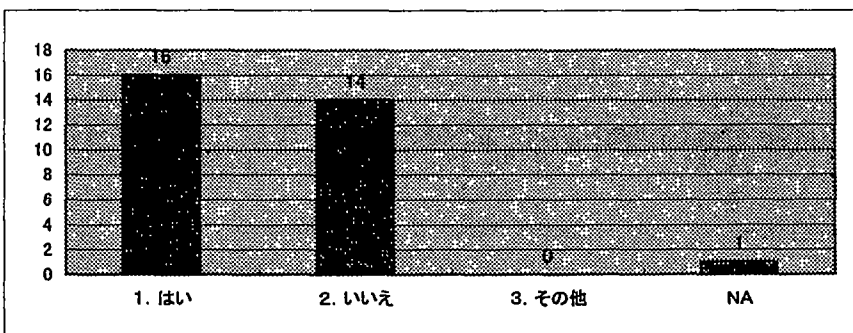
【Q2】あなたの性別を教えてください。

1. 男	4
2. 女	27



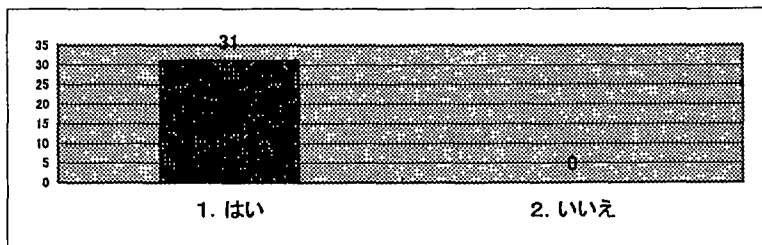
【Q3】あなたは上川町の出身ですか？

1. はい	16
2. いいえ	14
3. その他	0
NA	1



【Q4】上川中学校と上川高校が連携し、本年度から正式に中高一貫教育校となったことを知っていますか？

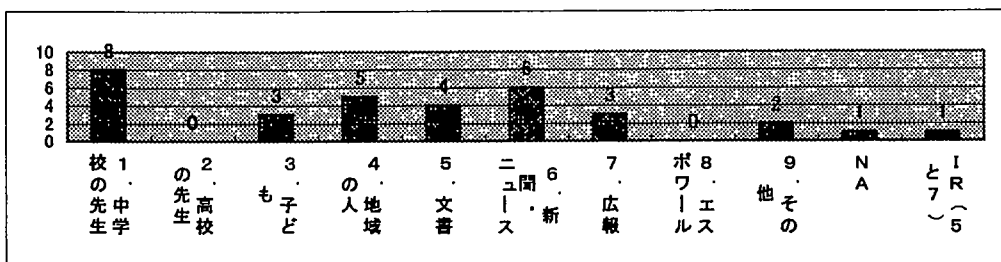
1. はい	31
2. いいえ	0



【Q5】上川中学校と上川高校が中高一貫教育校になった(なる)ことを最初にどうやって知りましたか？

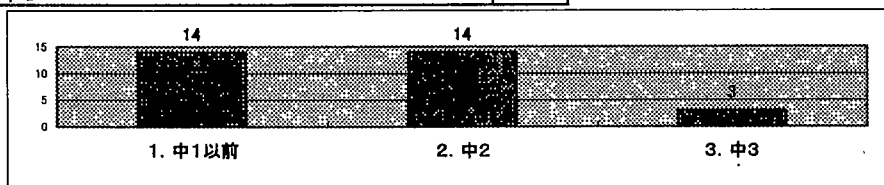
1. 中学校の先生	8
2. 高校の先生	0
3. 子ども	3
4. 地域の人	5
5. 文書	4
6. 新聞・ニュース	6
7. 広報	3
8. エスポワール	0
9. その他	2
NA	1
IR(5と7)	1

*その他には「忘れました」という回答があった。



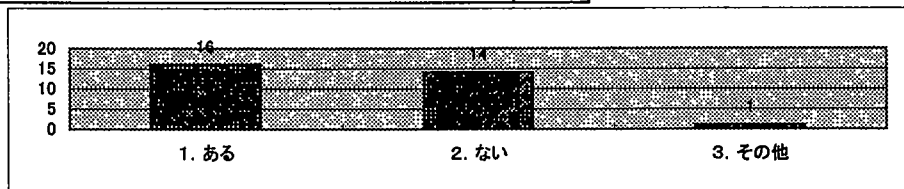
【Q6】上川中学校と上川高校が中高一貫教育校になった(なる)ことを最初に知ったのはいつですか？(〇を1つ)

1. 中1以前	14
2. 中2	14
3. 中3	3



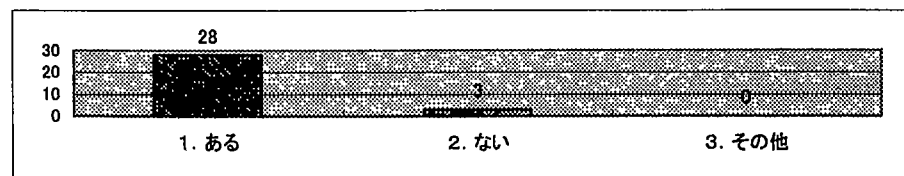
【Q7】中高一貫教育についてきちんと説明を受けたことがありますか？

1. ある	16
2. ない	14
3. その他	1



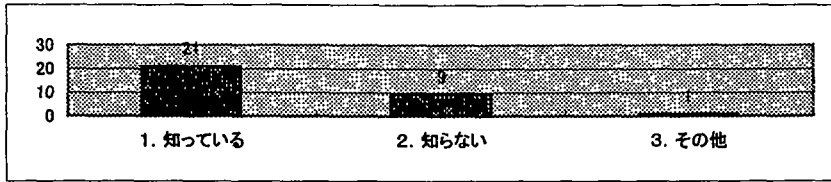
【Q8】上川町における中高一貫教育のパンフレットや広報紙などを読んだことはありますか？

1. ある	28
2. ない	3
3. その他	0



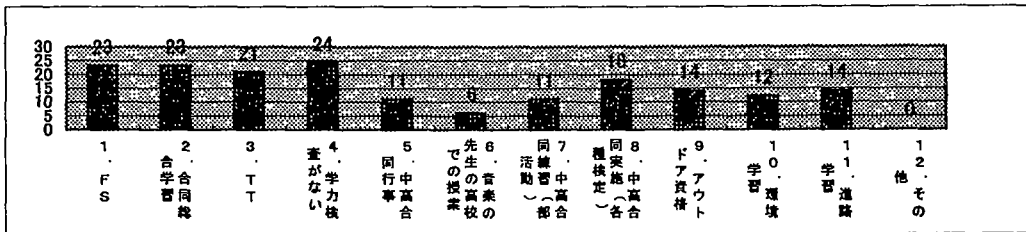
【Q9】中高一貫教育のタイプには中等教育学校(完全6年一体型)、併設型、連携型の3つがあります。上川の中高一貫教育が連携型であることを知っていますか？

1. 知っている	21
2. 知らない	9
3. その他	1



【Q10】上川町の中高一貫教育の実践に関して知っているものを全て選んでください。

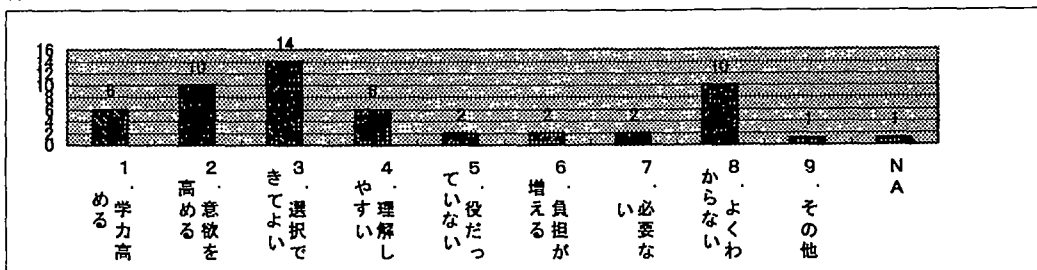
1. FS	23
2. 合同総合学習	23
3. TT	21
4. 学力検査がない	24
5. 中高合同行事	11
6. 音楽の先生の高校での授業	6
7. 中高合同練習(部活動)	11
8. 中高合同実施(各種検定)	18
9. アウトドア資格	14
10. 環境学習	12
11. 進路学習	14
12. その他	0



【Q11】上川中学校のファンダメンタル・スタディ(FS)の時間についてどう思いますか？(〇をいくつでも)

1. 学力高める	6
2. 意欲を高める	10
3. 選択できてよい	14
4. 理解しやすい	6
5. 役だっていない	2
6. 負担が増える	2
7. 必要ない	2
8. よくわからない	10
9. その他	1
NA	1

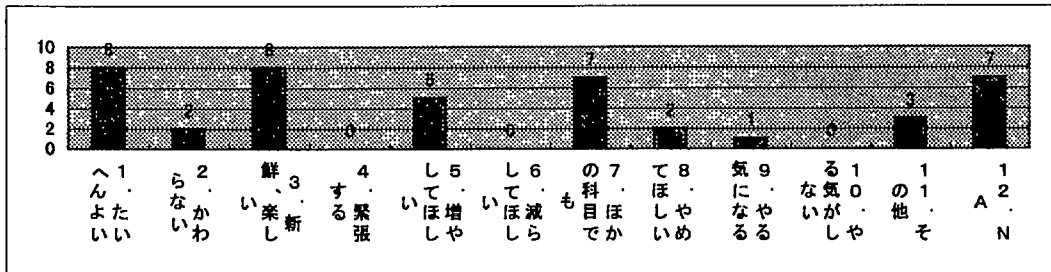
*その他には「高校の先生が教えるメリットがわからない。中学の先生でも同じではないか。」という回答があった。



【Q12】上川中学校における英語・数学での中高の先生によるTT(ティームティーチング)についてどう思いますか？

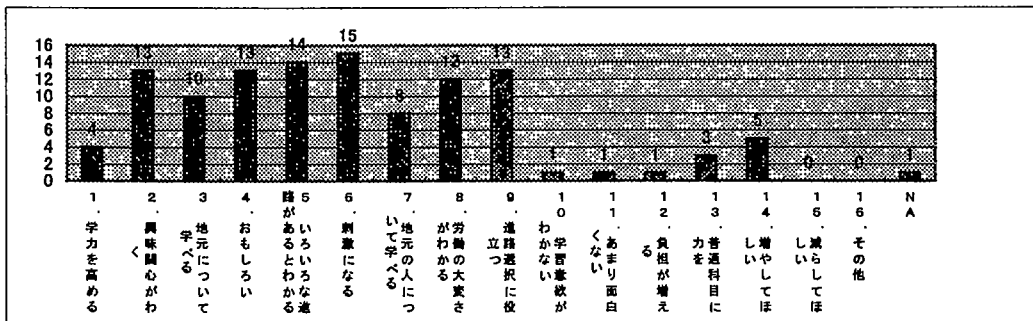
1. たいへんよい	8
2. かわらない	2
3. 新鮮、楽しい	8
4. 緊張する	0
5. 増やしてほしい	5
6. 減らしてほしい	0
7. ほかの科目でも	7
8. やめてほしい	2
9. やる気になる	1
10. やる気がしない	0
11. その他	3
12. NA	7

*その他には「授業参観したことがないのでわからない」「何とも言えない」「英語の学力がさがった」という回答があった。



【Q13】中学生と高校生が合同で参加する「合同総合学習」(「大雪地理巡検」「進路啓発学習」「地域産業体験」)についてどう思いますか？

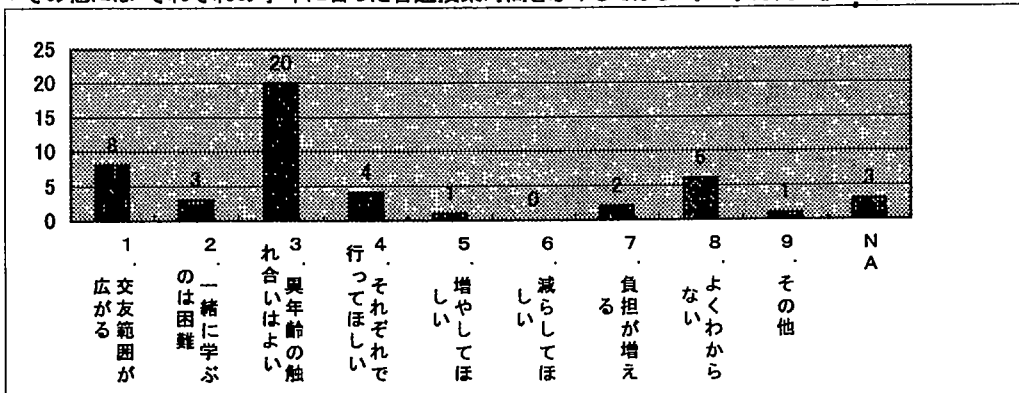
1. 学力を高める	4
2. 興味関心がわく	13
3. 地元について学べる	10
4. おもしろい	13
5. いろいろな進路があるとわかる	14
6. 刺激になる	15
7. 地元の人について学べる	8
8. 労働の大変さがわかる	12
9. 進路選択に役立つ	13
10. 学習意欲がわかない	1
11. あまり面白くない	1
12. 負担が増える	1
13. 普通科目に力を	3
14. 増やしてほしい	5
15. 減らしてほしい	0
16. その他	0
NA	1



【Q14】中高合同授業・行事(中学生と高校生が合同で参加する授業・行事)で中学生と高校生が触れ合うことをどう思いますか。

1. 交友範囲が広がる	8
2. 一緒に学ぶのは困難	3
3. 異年齢の触れ合いはよい	20
4. それぞれで行ってほしい	4
5. 増やしてほしい	1
6. 減らしてほしい	0
7. 負担が増える	2
8. よくわからない	6
9. その他	1
NA	3

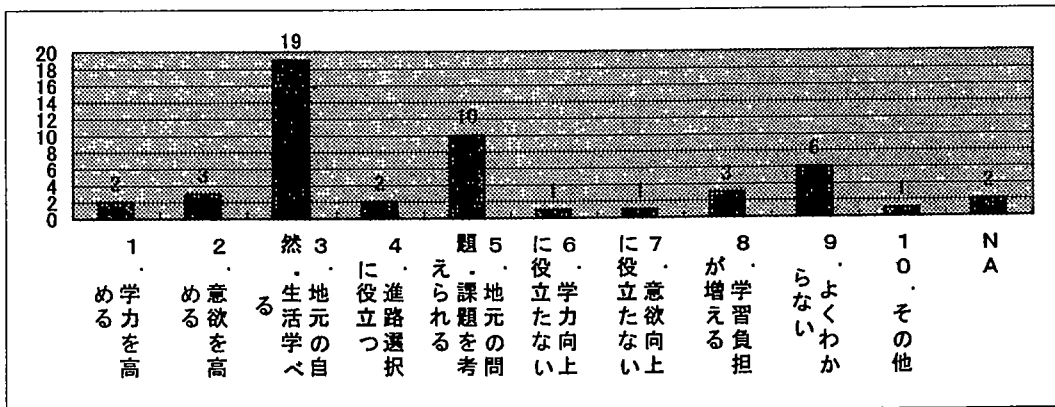
*その他には「それぞれの学年に合った普通授業時間をふやしてほしい。→学力向上」という回答があった。



【Q15】上川高校の学校設定科目「大雪基礎」についてどう思いますか。(〇をいくつでも)

1. 学力を高める	2
2. 意欲を高める	3
3. 地元の自然・生活学べる	19
4. 進路選択に役立つ	2
5. 地元の問題・課題を考えられる	10
6. 学力向上に役立たない	1
7. 意欲向上に役立たない	1
8. 学習負担が増える	3
9. よくわからない	6
10. その他	1
NA	2

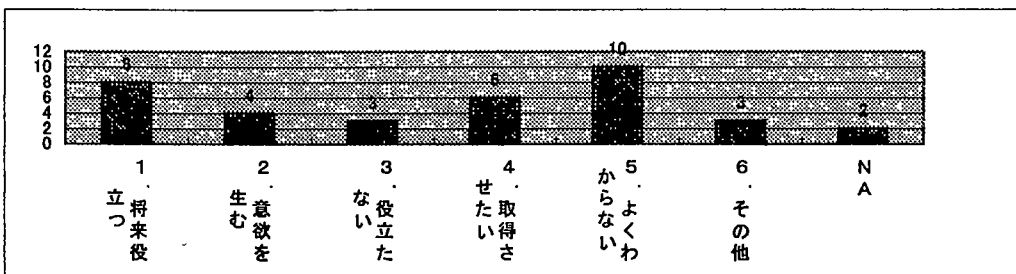
*その他には「大雪山、上川町を研究して子どもたちは何を学ぶのですか？子どもたちにとって、どの様に役立つのですか。普通授業に結びつく部分はあるのですか。」という回答があった。



【Q16】上川高校で取得できるアウトドア資格についてどう思いますか？(〇をいくつでも)

1. 将来役立つ	8
2. 意欲を生む	4
3. 役立たない	3
4. 取得させたい	6
5. よくわからない	10
6. その他	3
NA	2

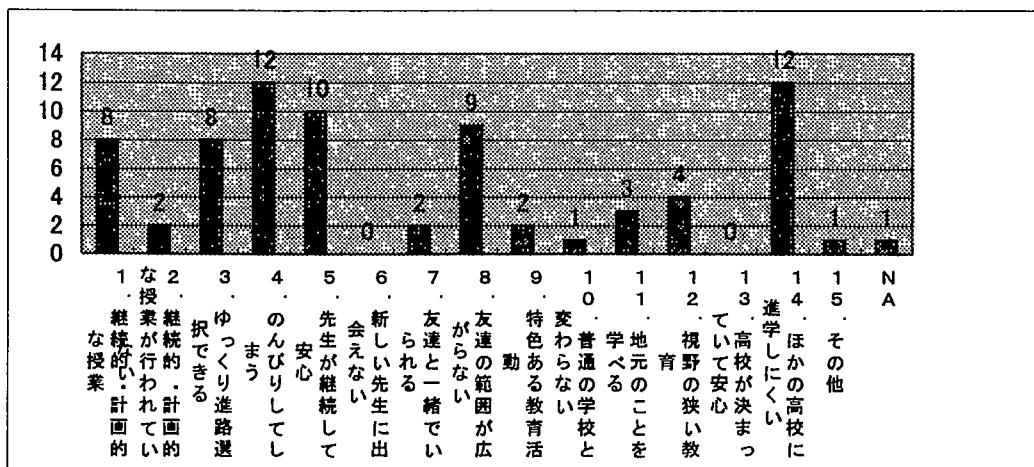
*その他には「興味のある子が目ざすのはよいこと。しかし、就職のうけ皿はあるのか?」「将来どのような役に立つかわからないが、資格をもつことはよい。」「上川町におけるアウトドア資格の内容について具体的に載せてほしい。」「どの様な資格取得があるのか。」という回答があった。



【Q17】現在の上川町の中高一貫教育について、あなたは どう 思いますか？(〇をいくつでも)

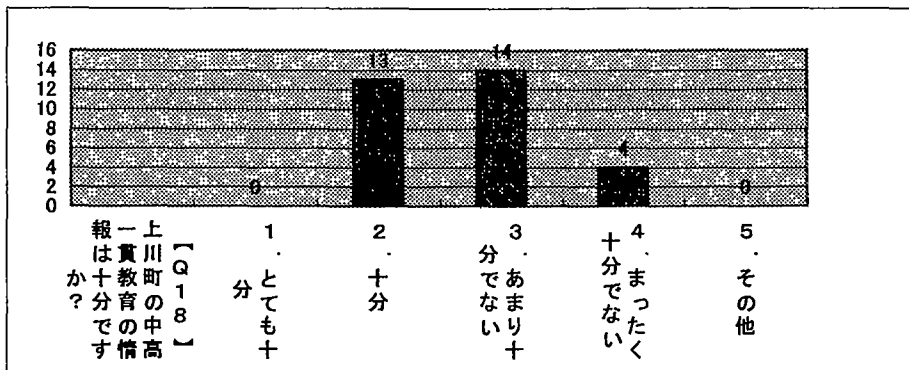
1. 継続的・計画的な授業	8
2. 継続的・計画的な授業が行われていない	2
3. ゆっくり進路選択できる	8
4. のんびりしてしまう	12
5. 先生が継続して安心	10
6. 新しい先生に出会えない	0
7. 友達と一緒にいられる	2
8. 友達の範囲が広がらない	9
9. 特色ある教育活動	2
10. 普通の学校と変わらない	1
11. 地元のことを学べる	3
12. 視野の狭い教育	4
13. 高校が決まっています	0
14. ほかの高校に進学しにくい	12
15. その他	1
NA	1

*その他には「入試がない部分は勉強をしない→学力低下。今これが一番の課題です。学力向上へどうすればよいかお考えいただきたい。」という回答があった。



【Q18】 上川町の中高一貫教育の情報は十分ですか？

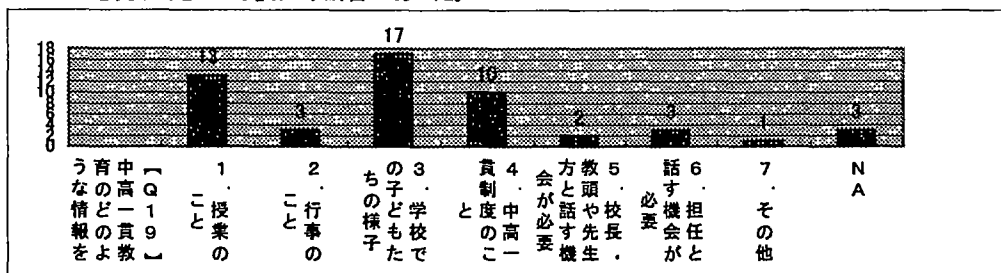
1. とても十分	0
2. 十分	13
3. あまり十分でない	14
4. まったく十分でない	4
5. その他	0



【Q19】 中高一貫教育のどのような情報を望みますか？

1. 授業のこと	13
2. 行事のこと	3
3. 学校での子どもたちの様子	17
4. 中高一貫制度のこと	10
5. 校長・教頭や先生方と話す機会が必要	2
6. 担任と話す機会が必要	3
7. その他	1
NA	3

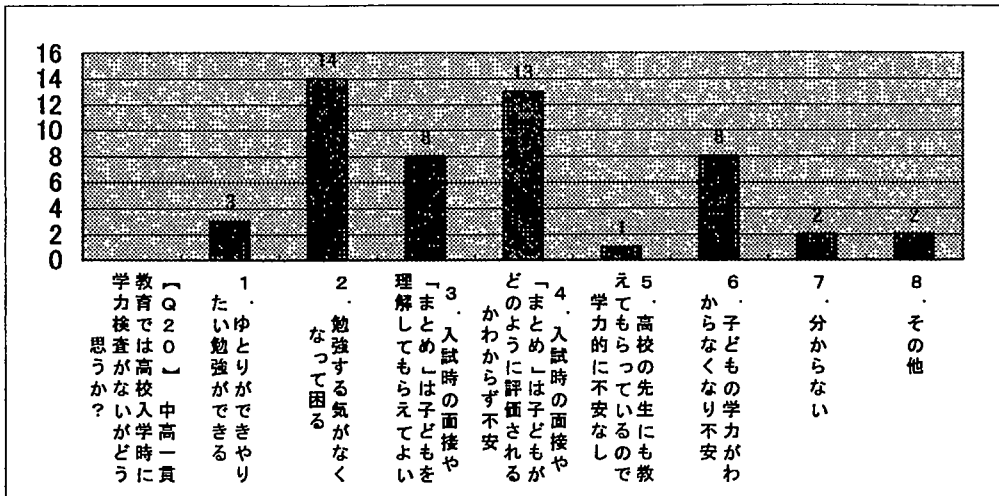
* その他には「なぜ中高一貫教育にしたのか、入試がない部分、勉強をしない、この部分についての、中・高の先生方の意見をききたい。」という回答があった。



【Q20】 中高一貫教育では高校入学時に学力検査がないがどう思うか？

1. ゆとりができやりたい勉強ができる	3
2. 勉強する気がなくなって困る	14
3. 入試時の面接や「まとめ」は子どもを理解してもらえ	8
4. 入試時の面接や「まとめ」は子どもがどのように評価	13
5. 高校の先生にも教えてもらっているので学力的に不	1
6. 子どもの学力がわからなくなり不安	8
7. 分からない	2
8. その他	2

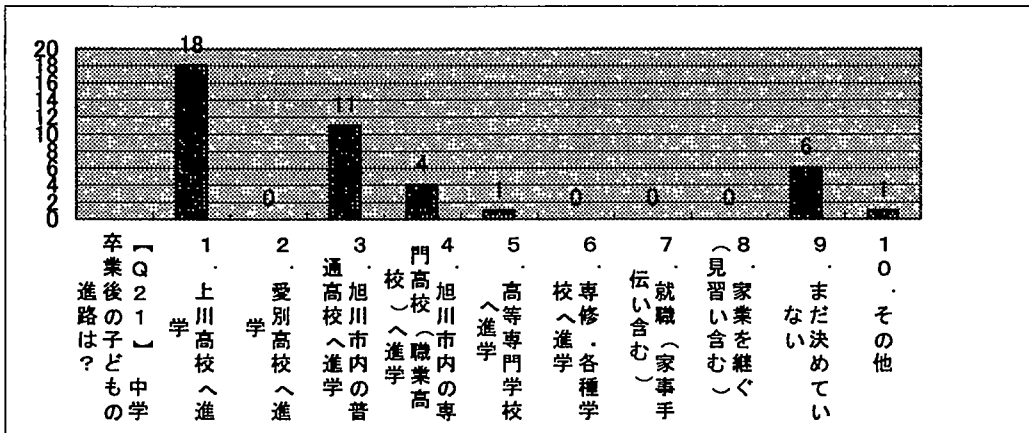
* その他には「上高入学後も学力低下はさらに続くと思う。上高ではどれだけ授業に力を入れているのか。」
「自分の子は受験勉強をすることなく安心して。中学生の学力をつけなくてよいのか不安」という回答があった。



【Q21】 中学卒業後の子どもの進路は？

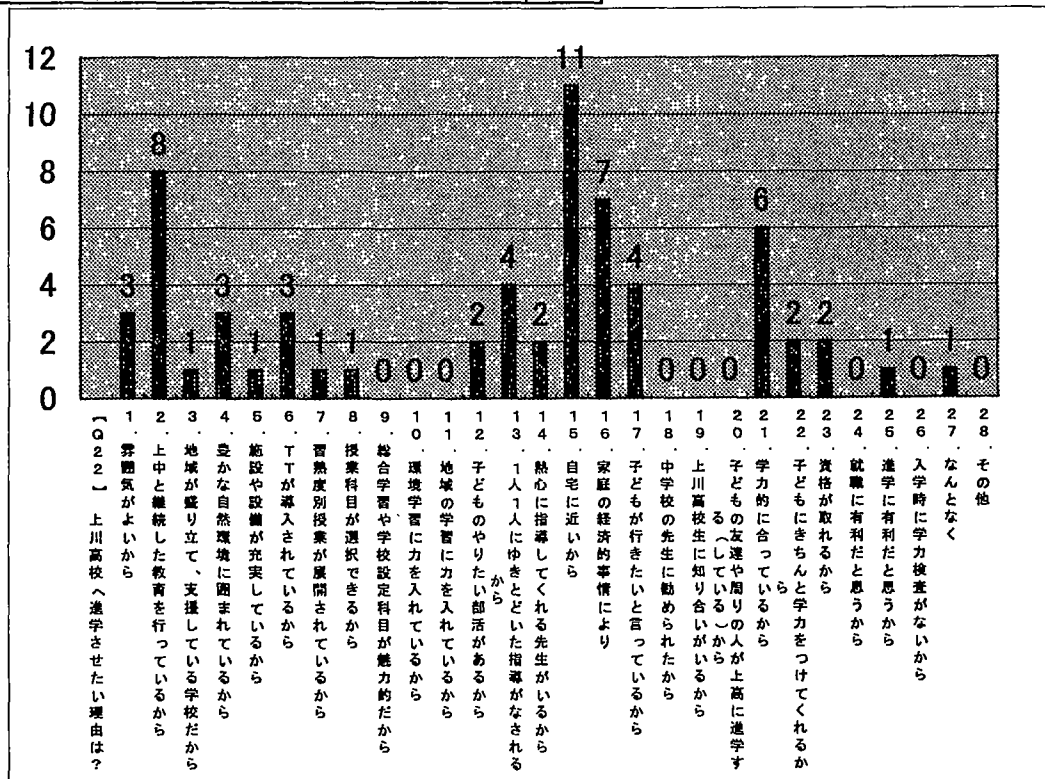
1. 上川高校へ進学	18
2. 愛別高校へ進学	0
3. 旭川市内の普通高校へ進学	11
4. 旭川市内の専門高校(職業高校)へ進学	4
5. 高等専門学校へ進学	1
6. 専修・各種学校へ進学	0
7. 就職(家事手伝い含む)	0
8. 家業を継ぐ(見習い含む)	0
9. まだ決めていない	6
10. その他	1

* その他には「本人の考えにまかせる。高校に行っても好きな部活をやりたいたらと思う。現時点は旭川の高校を希望」という回答があった。



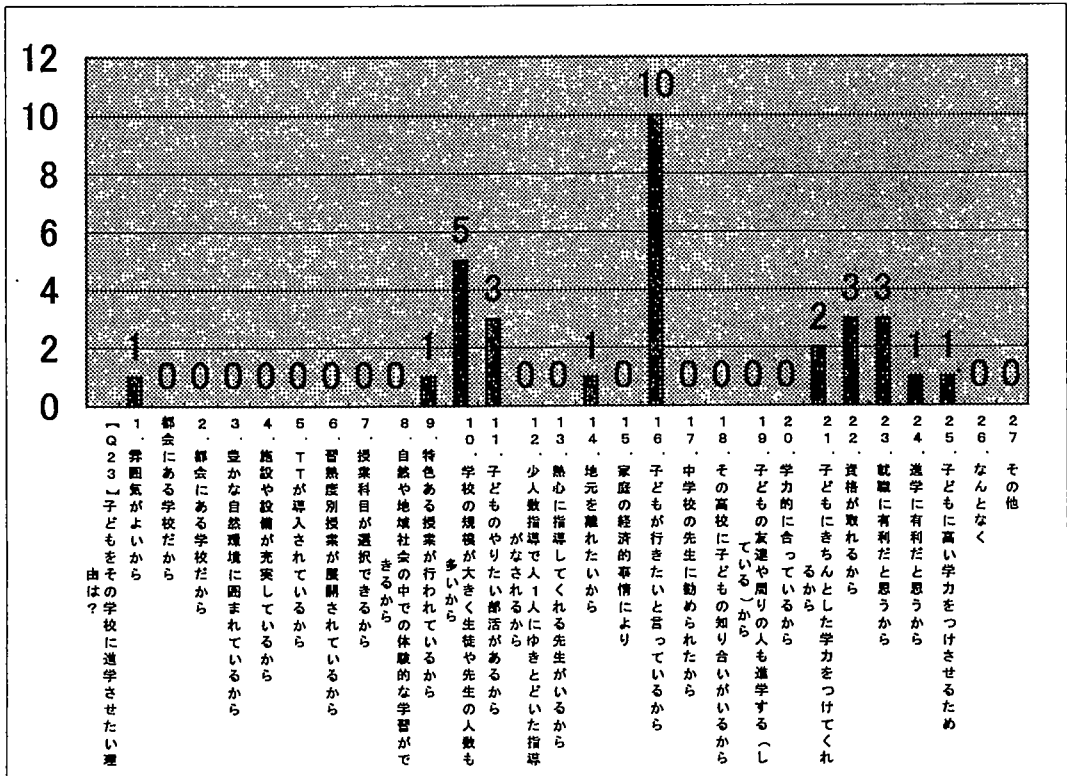
【Q22】 上川高校へ進学させたい理由は？

1. 雰囲気がいよから	3
2. 上中と継続した教育を行っているから	8
3. 地域が盛り立て、支援している学校だから	1
4. 豊かな自然環境に囲まれているから	3
5. 施設や設備が充実しているから	1
6. ITが導入されているから	3
7. 習熟度別授業が展開されているから	1
8. 授業科目が選択できるから	1
9. 総合学習や学校設定科目が魅力的だから	0
10. 環境学習に力を入れているから	0
11. 地域の学習に力を入れているから	0
12. 子どものやりたい部活があるから	2
13. 1人1人にゆきとどいた指導がなされるから	4
14. 熱心に指導してくれる先生がいるから	2
15. 自宅に近いから	11
16. 家庭の経済的事情により	7
17. 子どもが行きたいと言っているから	4
18. 中学校の先生に勧められたから	0
19. 上川高校生に知り合いがいるから	0
20. 子どもの友達や周りの人が上高に進学する(して)	0
21. 学力的に合っているから	6
22. 子どもにきちんと学力をつけてくれるから	2
23. 資格が取れるから	2
24. 就職に有利だと思うから	0
25. 進学に有利だと思うから	1
26. 入学時に学力検査がないから	0
27. なんとなく	1
28. その他	0



【Q23】子どもをその学校に進学させたい理由は？

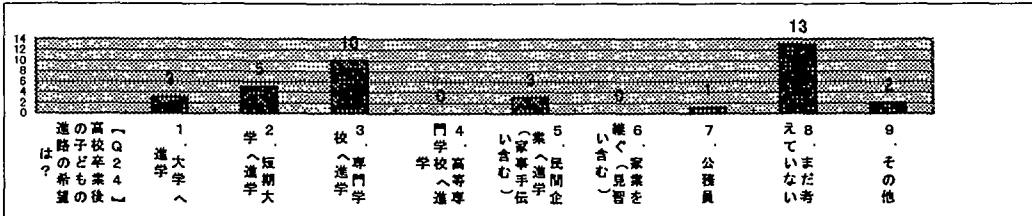
1. 雰囲気がいよから	1
都会にある学校だから	0
2. 都会にある学校だから	0
3. 豊かな自然環境に囲まれているから	0
4. 施設や設備が充実しているから	0
5. ITが導入されているから	0
6. 習熟度別授業が展開されているから	0
7. 授業科目が選択できるから	0
8. 自然や地域社会の中での体験的な学習ができるから	0
9. 特色ある授業が行われているから	1
10. 学校の規模が大きく生徒や先生の人数も多いから	5
11. 子どものやりたい部活があるから	3
12. 少人数指導で人1人にゆきとどいた指導がなされるから	0
13. 熱心に指導してくれる先生がいるから	0
14. 地元を離れたいから	1
15. 家庭の経済的事情により	0
16. 子どもが行きたいと言っているから	10
17. 中学校の先生に勧められたから	0
18. その高校に子どもの知り合いがいるから	0
19. 子どもの友達や周りの人も進学する(している)から	0
20. 学力的に合っているから	0
21. 子どもにきちんとした学力をつけてくれるから	2
22. 資格が取れるから	3
23. 就職に有利だと思うから	3
24. 進学に有利だと思うから	1
25. 子どもに高い学力をつけさせるため	1
26. なんとなく	0
27. その他	0



【Q24】 高校卒業後の子どもの進路の希望は？

1. 大学へ進学	3
2. 短期大学へ進学	5
3. 専門学校へ進学	10
4. 高等専門学校へ進学	0
5. 民間企業へ進学(家事手伝い含む)	3
6. 家業を継ぐ(見習い含む)	0
7. 公務員	1
8. まだ考えていない	13
9. その他	2

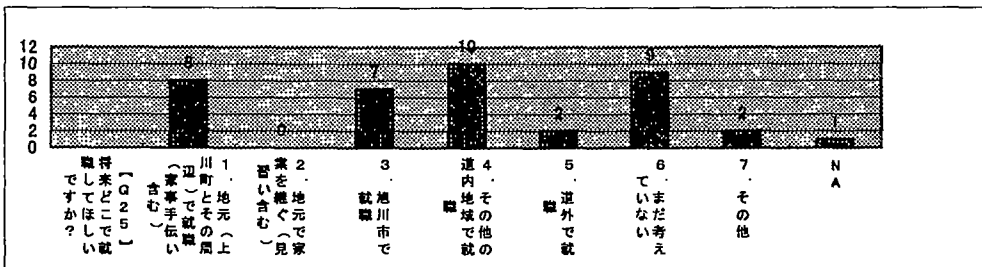
* その他には「子供の考え次第です。子供の自由と言う訳ではありませんが、親の意見を話し、その結果子供が、どう考えるか、子供自身の人生です。尊重して上げたいです。」という回答があった。



【Q25】 将来どこで就職してほしいですか？

1. 地元(上川町とその周辺)で就職(家事手伝い含む)	8
2. 地元で家業を継ぐ(見習い含む)	0
3. 旭川市で就職	7
4. その他の道内地域で就職	10
5. 道外で就職	2
6. まだ考えていない	9
7. その他	2
NA	1

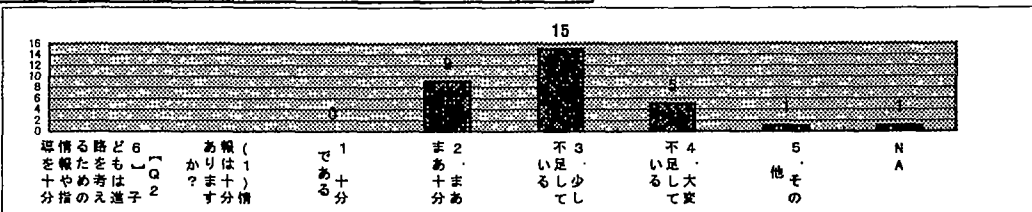
* その他には「近くあれば安心ですが上川町を含め道内です。」「親としての希望はありません。」という回答があった。



【Q26】 子どもは進路を考えるための情報や指導を十分に受けていると思うか？

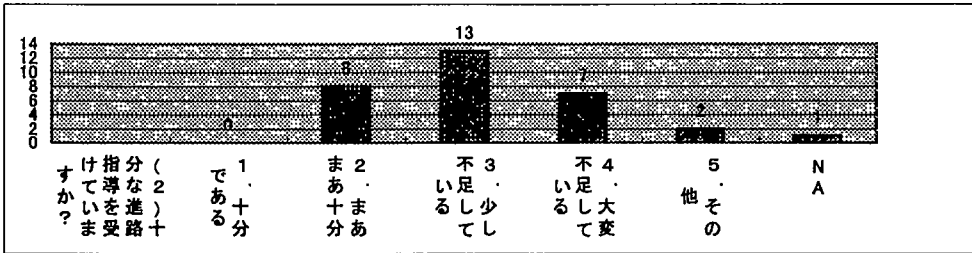
(1)情報は十分ありますか？

1. 十分である	0
2. まあまあ十分	9
3. 少し不足している	15
4. 大変不足している	5
5. その他	1
NA	1



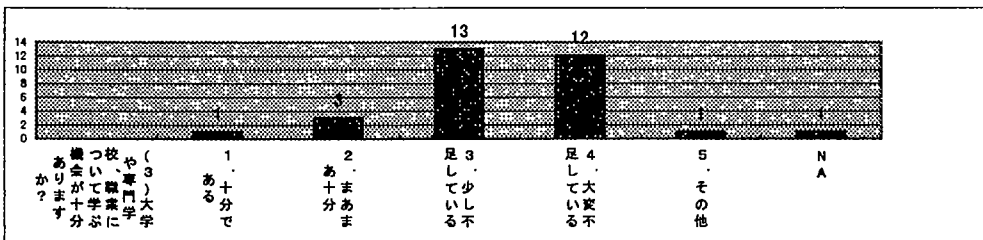
(2)十分な進路指導を受けていますか？

1. 十分である	0
2. まあまあ十分	8
3. 少し不足している	13
4. 大変不足している	7
5. その他	2
NA	1



(3)大学や専門学校、職業について学ぶ機会が十分ありますか？

1. 十分である	1
2. まあまあ十分	3
3. 少し不足している	13
4. 大変不足している	12
5. その他	1
NA	1

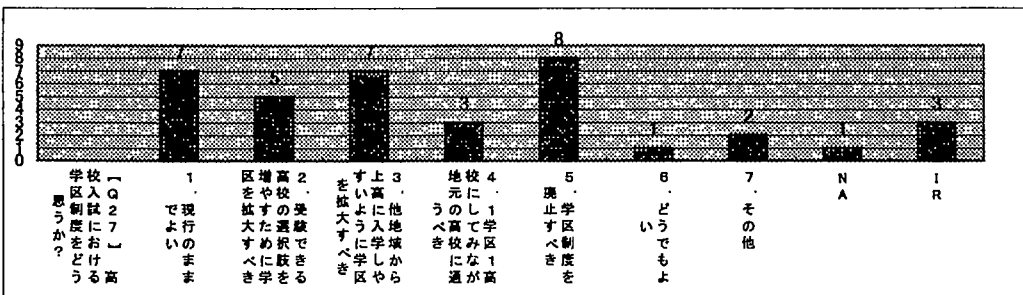


【Q27】 高校入試における学区制度をどう思うか？

1. 現行のまま	7
2. 受験できる高校の選択肢を増やすために学区を拡大	5
3. 他地域から上高に入学しやすいように学区を拡大	7
4. 1学区1高校にしてみなが地元の高校に通うべき	3
5. 学区制度を廃止すべき	8
6. どうでもよい	1
7. その他	2
NA	1
IR	3

* その他には「他地域から入学しやすいようにする為には学力レベル向上です。(例えば部活をさかんにする→学校側も力を入れるなど)」という回答があった。

* IRとしては2つ回答したもの(3と6, 2と5, 2と3)が3つあった。

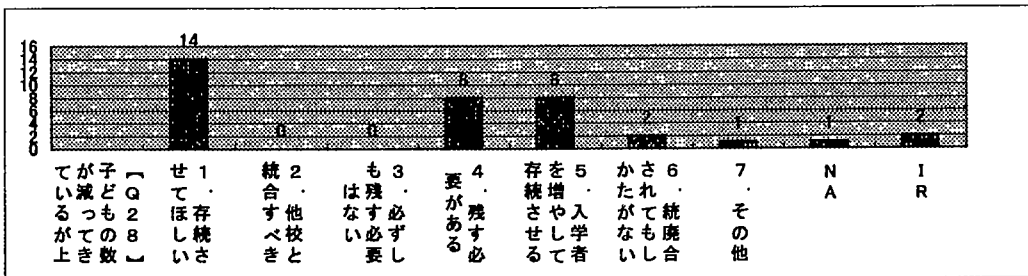


【Q28】子どもの数が減ってきているが上高をどうすべきだと思うか？

1. 存続させてほしい	14
2. 他校と統合すべき	0
3. 必ずしも残す必要はない	0
4. 残す必要がある	8
5. 入学者を増やして存続させる	8
6. 統廃合されてもしかたがない	2
7. その他	1
NA	1
IR	2

*その他には「現時点での評判はレベルが低いことです。学力向上へ力を注いで頂きたいです。」という回答があった。

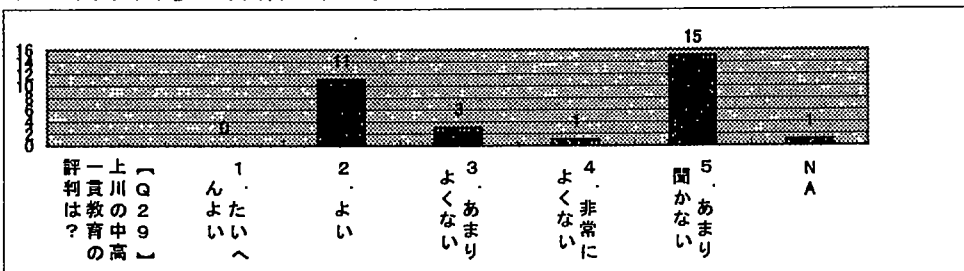
*IRとしては2つ回答したものの(1と5)が1つ、3つ回答したものの(1, 4, 5)が1つあった。



【Q29】上川の中高一貫教育の評判は？

1. たいへんよい	0
2. よい	11
3. あまりよくない	3
4. 非常によくない	1
5. あまり聞かない	15
NA	1

*具体的意見として「(3と回答したもの)受験がないということで学力が低レベルの子もしか入学しないというイメージが拡大しつつあります。」「(5と回答したもの)一貫教育に関してはいいですが、以前はレベルが低いことが上げられます」という回答があった。

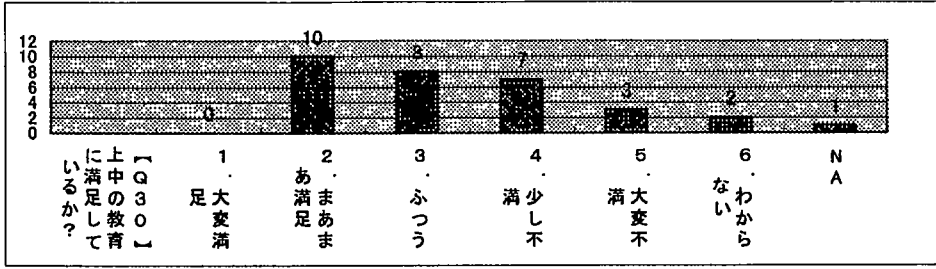


【Q30】上中の教育に満足しているか？

1. 大変満足	0
2. まあまあ満足	10
3. ふつう	8
4. 少し不満	7
5. 大変不満	3
6. わからない	2
NA	1

*具体的意見として「(3と回答したもの)学校との関わりが少ない分、見えない部分は沢山あります。正直、担任の先生の事も全くどんな方なのか、未だに私自身つかめませんし、このままきつと卒業を迎えるのでは…と思います。」「(5と回答したもの)今一度中高一貫教育内容について見直し、授業に力を入れて下さい！全く学力向上へはつながっていません！中高合同教育開始から学力がさらに低下した事について中学校ではどのように捉えておられるのですか。どの保護者の方でも入試がなくなったことにより、子ども達が勉強をしない、学力低下を心配しております！！学力向上へ力を注いで下さい。」という回答があった。

上川中学校3年生保護者アンケート



○資料 上川町の中高一貫教育に関する
アンケート協力のお願い文

上川中学校3年生・上川高校1年生とその保護者のみなさまへ

上川町の中高一貫教育に関するアンケート調査へのご協力をお願い

2002年8月

本年より町立上川中学校と道立上川高校は正式に中高一貫教育校となりました。これまで中学校と高校は高校入試という大きな壁によってへだてられており、両者の間の教育上のつながりが十分に配慮された教育が行われてきたわけではありませんでした。しかし、高校進学率もほぼ100%に近くなり、またいわゆる少子化によって子どもの数自体が急減してきている今日、中学校から高校にかけてより継続性をもたせた教育の実施が必要となっています。そこで創設されたのが中高一貫教育制度であり、上川町でもそれが導入されました。

つきましては、この新しい中高一貫教育制度の成果と課題を明らかにし、よりよい中高一貫教育を作っていくために、生徒のみなさんおよび保護者のみなさまの意識調査を実施したいと存じますので、別紙アンケートにご協力をたまわりますようお願い申し上げます。

なお、アンケートの目的や回答のし方は次のページをごらん下さい。

北海道立上川高等学長	太田 眞
上川町立上川中学校長	河野 高好
上川町教育委員会教育長	伊林 伸也
北海道大学教育学部助手	横井 敏郎

<アンケート調査の内容・目的など>

1. 調査の内容

上川町の中高一貫教育について、生徒（中学校3年生・高校1年生）とその保護者の意識調査をアンケートによって行います。

2. 調査の実施主体

上川高校・上川中学校・上川町教育委員会・北海道大学教育学部（教育行政学講座）の共同調査です。主に北海道大学教育学部がアンケートを作成し、調査結果をまとめます。

3. 調査の目的・活用

この調査は、今後の上川町の中高一貫教育発展のために、上川高校・上川中学校・上川町教育委員会における資料を作成することが目的です。同時に、調査結果は北海道大学教育学部（教育行政学講座）の中高一貫教育制度研究（論文・報告書等の作成）に活用します。

4. 調査におけるプライバシー

調査は無記名で行いますので個人が特定されることはありません。アンケート回答と調査結果は上記3の目的以外には使用しません。

<回答のし方と提出方法>

1. 回答のし方

それぞれの質問に対する回答として、当てはまるものを選び、回答用紙の選択肢（番号）に○を付けてください。

ぴったりと当てはまるものがないときには、「その他」の番号に○を付け、カッコの中に記述するか、無回答のまま次の質問にお進みください。

2. 回答用紙の提出

①生徒のみなさんは、学校でアンケートに回答し、封筒に入れて先生に手渡してください。

②保護者のみなさまは、お子様から受け取られたアンケートにご自宅等で回答し、封筒に入れてのりづけし、お子様を通じて学校の先生に提出してください。